



平和への  
思い ウムイ

FOR A BRIDGE TO ACROSS THE OCEAN

令和3年度  
「平和への思い(ウムイ)」  
発信・交流・継承事業  
報告書



沖縄県

## 序

2021年は、沖縄戦が終結して76年目となります。その間、時が経つにつれて、沖縄県では戦争体験者の方々が少なくなり、戦後生まれが人口の約9割を占めるようになりました。そのため、沖縄戦の実相や戦争体験者の記憶をどのように次世代へ伝えていくのかが、課題となっています。

一方、私達が暮らす世界はグローバル化が進み、ヒト・モノ・カネ・情報が国境を越えて行き交う時代へと大きく変容を遂げています。政治・経済・人的交流の深化に伴い、やがて人種、宗教、国籍の違いを超えて互いに理解し合う、平和な時代の到来が期待されました。

しかし、今もなお、世界には地域紛争やテロなどの直接的な暴力のほか、貧困、飢餓、差別、人権の抑圧、環境破壊などの構造的な暴力が存在しているのも事実です。また2020年から、新型コロナウイルス感染症が全世界で猛威を振るい、人々の命と生活が脅かされました。感染拡大の影響は、生活様式や経済の在り方を大きく変えただけでなく、病気への恐れが不安を呼び、その不安が差別や偏見を生み出しました。さらに、その不安の増幅が社会の分断につながる可能性を秘めている事を、私たちに知らしめました。

これらの課題は平和な社会の実現に脅威となるものであり、1国のみでの努力で解決できるものではなく、国際社会が互いに協力しながら取り組むことが重要です。そうして心穏やかで真に豊かな社会を築くことができると考えます。

このような考え方に基づき、沖縄県では、共通の歴史体験を有する近隣諸国とのネットワークの構築及び平和な社会の実現に貢献できる国際的な視野並びに平和を愛する心を持つ人材の育成を図るため、『「平和への思い（ウムイ）」発信・交流・継承事業』を実施しました。本事業では沖縄県をはじめ多くの住民が犠牲となった戦争などの共通体験を有する韓国、台湾、ベトナム、カンボジア、広島、長崎など、アジア地域の学生34名が沖縄に集い、海外参加者とはオンラインを通して、自国のみならず近隣諸国の歴史や経験を学び、戦争の悲惨さや命と平和の尊さについてあらためて思いを馳せ、史実とそこから得られる教訓を次世代に継承していく方法について考えました。

本報告書は、『「平和への思い（ウムイ）」発信・交流・継承事業』の取り組みをまとめたものであり、沖縄とアジア諸国や広島、長崎の学生が互いの理解を深め、「平和への思い」を共有するまでを記録しています。本報告書を通じて、本事業の成果を理解していただくとともに、学校など教育の場において平和教育や国際理解教育等に活用されれば幸いです。

また、参加学生が国籍や言葉、文化の違いを超え、本事業を通じて培った「平和への思い（ウムイ）」を基に、人的ネットワーク＝『平和の架け橋』を構築し、アジアだけでなく世界全体で平和な社会が実現できるよう活躍することを期待します。

最後に、本事業の実施にあたり、参加学生の募集・選考、事前研修の実施に御協力をいただいた参加国・地域の大学や博物館をはじめ、講義を担当していただきました沖縄歴史教育研究家の大城航様、沖縄県平和祈念資料館友の会の上原美智子様、ひめゆり平和祈念資料館の古賀徳子様・尾鍋拓美様、沖縄市戦後文化資料展示館ヒストリートの伊佐真一朗様、成果報告会の進行役を引き受けていただきました沖縄キリスト教学院大学の新垣誠教授に、心から御礼申し上げます。

2022年2月  
沖縄県平和祈念資料館  
館長 雉鼻 章郎

# 目次

序

## 第1部 事業概要

1. 目的	2
2. 実施主体	2
3. 事業内容	2
4. 事業期間・場所	3
5. 実施体制	3
(1) 実施団体の人員配置	3
(2) 新型コロナウイルス感染症対策及び安全管理	4
6. 参加地域における事業実施	5
(1) 参加者選考	5
(2) 事前研修	6
(3) 事後学習	9
7. 共同学習日程	10

## 第2部 共同学習

1. 参加者	12
(1) 参加者紹介	12
(2) 研修参加国・地域	26
2. 共同学習	27
(1) 共同学習の概要	27
(2) 1日目 開会式、特別講義	30
(3) 2日目 沖縄県内視察、各地域発表（広島、台湾、ベトナム）	42
(4) 3日目 沖縄県内視察	66
(5) 4日目 沖縄県内視察、各地域発表（長崎、韓国、カンボジア）	67
(6) 5日目 各地域発表（沖縄）、ディスカッション	89
3. 成果報告会、閉会式	107
(1) 成果報告会	108
(2) 閉会式	120

## 第3部 事業評価

1. アンケート結果	124
2. 総括評価	131

## 第4部 資料編

1. 研修の様子	134
2. 報道記事	137



**第1部**  
**事業概要**

## 1 目的

沖縄県民は76年前に沖縄戦という悲惨な戦争を経験し、多くの方が犠牲になった。しかし、その悲しい沖縄戦を経験した人々の高齢化によって当時の実状を伝え残すことが難しくなっており、二度と悲劇を繰り返さないために若者の平和を愛する心を育むことが重要となっている。

本事業は、沖縄と同様に、悲惨な戦争体験などを有し、体験の継承と平和構築に取り組むアジア諸国と日本の学生が共に学びつつ相互理解を深め、平和について考える機会を提供する。それにより、各国・地域の平和教育・平和活動に資するとともに、本事業で培った絆により平和構築のためのネットワーク形成と広く平和のために活動する人材を育成し、事業の成果を平和教育などに継続的に活用することを目的とする。本事業では、目的を達成するために以下の3つを目標とした。

(1) 各地域で発生した戦争や事件について学ぶことで、多様な視点から平和について考える機会を提供し、参加者間の相互理解の促進と各地域の平和教育・平和活動に貢献する。

(2) 参加者間の絆を育むことで人的ネットワークの形成と平和に資する人材の育成に寄与する。

(3) 事業成果を平和教育等で活用できるようにする。

## 2 実施主体

主 管 沖縄県平和祈念資料館  
受託事業者 特定非営利活動法人沖縄平和協力センター

## 3 事業内容

『『平和への思い（ウムイ）』発信・交流・継承事業』は、令和元年度に開始され、今年度で3年目を迎える事業である。本事業は沖縄と同様に、悲惨な戦争体験などを有し、体験の継承と平和構築に取り組むアジア諸国と日本の学生が共に学びつつ相互理解を深め、平和について考える機会を提供し続けてきた。

令和元年度はカンボジア、韓国、台湾、ベトナム、沖縄の5地域の参加者が沖縄県内に集い、各地域が経験した悲惨な戦争や事件、それらの継承について意見を交わした。令和2年度は広島、長崎の2地域を新たに加え、合計7地域から参加を得た。しかし新型コロナウイルス感染拡大防止のため沖縄県内への参集は叶わずカンボジアに至っては途中で辞退せざるをえない状況となったものの、各地域をオンラインで結び「オンライン共同学習」を実施した。

令和3年度は、海外の参加者はオンライン参加、広島、長崎、沖縄の参加者は新型コロナウイルス感染防止対策を十分に講じたうえで沖縄の会場で対面で参加するという、オンラインと対面を交えたハイブリッド形式で事業を実施した。日本国内からの参加者については、ハイブリッド形式で悲惨な戦争や事件について互いに発表を行うだけでなく、沖縄県平和祈念資料館、平和の礎、ひめゆり平和祈念資料館等の視察を通じて、沖縄戦の実相をより深く感じてもらうことができた。

## 4 事業期間・場所

令和3年11月22日（月）～27日（土）※移動日を除く

各地域を結んだ共同学習の時間は14:00～17:00（日本時間）とし、台湾とベトナム、カンボジアは時差があるため、それぞれの地域の開始時間は以下の通り。

台湾：13:00開始 ベトナム、カンボジア：12:00開始

発信場所：沖縄空手会館（沖縄県豊見城市）

## 5 実施体制

### 事業責任者

沖縄県平和祈念資料館 主査 伊波 郁  
 沖縄平和協力センター 事務局長 樋口 洋平

### 沖縄県平和祈念資料館

学芸班長 金城 孝之  
 主査 伊波 郁

### 沖縄平和協力センター

理事長 仲泊 和枝  
 事務局長 樋口 洋平（事業総括）  
 研究員 金城 愛乃

### (株)Okicom

執行役員 武田 誠 映像撮影責任者 喜瀬 慎也  
 技術主任 西 政信 動画制作責任者 高良 史朗  
 配信管理責任者 宮城 光司

### (株)国際旅行社

事業部 次長 諸見里 一寿

### (1) 実施団体の人員配置

総括責任者（事業総括・運営）

樋口洋平（沖縄平和協力センター 事務局長）

- 令和元年度及び令和2年度「『平和への思い（ウムイ）』発信・交流・継承事業」にて担当者（事業運営補佐、オンライン共同学習担当）として事業に携わる。現職以前は、2016年～2019年まで外務省専門調整員として在東ティモール日本大使館勤務し、NPOが実施する事業の進捗管理や計画変更に関する外務本省との調整業務に従事。

担当者①（総括補佐、共同学習運営、予算管理）

仲泊和枝（沖縄平和協力センター 理事長）

- 令和元年度、令和2年度の「『平和への思い（ウムイ）』発信・交流・継承事業」の総括責任者。2009年～2014年まで沖縄県平和祈念資料館及び沖縄県立博物館・美術館が実施した、JICA 草の根技術協力事業「沖縄・カンボジア平和博物館づくり」にて、プロジェクトマネージャー補佐として従事。その他、沖縄戦と戦後復興について修学旅行生や外国人に対して講話を提供。

担当者②（共同学習運営、広報）

金城 愛乃（沖縄平和協力センター 研究員）

●令和2年度の「『平和への思い（ウムイ）』発信・交流・継承事業」の担当者として、動画制作、広報、会議運営を担当。現職以前は、2016年～2019年まで特命助教として国立大学法人琉球大学で勤務し、「太平洋島嶼地域特別編入学事業」の運営を担当。海外大学に対するプロモーションを目的に事業成果の動画・リーフレット・報告書の作成およびデザインに携わる。

## (2) 新型コロナウイルス感染症対策及び安全管理

### ①新型コロナウイルス感染症対策

事前に感染対策マニュアルを作成し、同マニュアルに沿って感染症対策を行った。以下の内容をその一部である。

まず、各地域の参加者が事前学習や共同学習に参加する際には、マスクを着用し、消毒液を各拠点に設置、参加者間の社会的距離を確保したり、換気を行ったりするなどの感染対策を実施した。特に対面で事業に参加する広島、長崎、沖縄の参加者については、共同学習開始前から毎日の体調と体温を記録してもらうことで体調管理を徹底させ、ワクチン接種を推奨した。更に対面参加する参加者、指導者、実施団体を含む事業関係者全員は事前にPCR検査もしくは抗原検査を受診した。さらに、共同学習中は、毎日参加者の体温を計測および記録し、大型バスで宿舎や会場に移動する際には、2名掛けの椅子を1名で利用したりして、社会的距離の確保を行った。その他にも、参加者および関係者は共同学習後も1週間は継続して体温測定を行うなどの感染症対策を実施した。

### ②安全管理

研修期間中、県外参加者の渡航や県内での移動に関する業務を担当する旅行社から添乗員を1名配置した。同添乗員は、車両に乗務する以外の時間は研修に帯同し、昼食を含む食事の際の補助や飲料水などの手配、参加者の体調不良の際の救急対応を担当した。

## 6 参加地域における事業実施

### (1) 参加者選考

参加者の選考については、資格要件を以下の通りとし、各国・地域からそれぞれ5名を選考した。韓国は、大学の授業に重なったこともあり、応募者が4名となった。

- ①原則として各募集国・地域に在住する大学生であること。
- ②事業の主旨を理解し、将来自国での平和教育・平和活動に携わる意思のある者で、事業参加国の若者と連携して平和発信に寄与する意思がある者。
- ③事前学習、事後学習、日本国内の参加者においては沖縄で行われる共同学習に原則全日程参加できること。

#### 【参加国・地域における学生の応募・選考・窓口機関への委託】

沖縄県以外の窓口機関は、本事業の趣旨・目的を十分理解しているという観点から、令和2年度の募集・窓口機関に再依頼を行ったが、長崎については昨年度から本事業について関心を示していた、公益財団法人長崎平和推進協会に依頼を行った。窓口機関には、参加学生の学びを指導する指導者の配置も依頼し、指導者は「共同学習」にも参加した。

沖縄からの参加者については、実施団体が募集窓口となり県内の各大学に周知し公募した。参加者の募集・窓口機関は以下の表のとおりである。

	対象国・地域	募集・窓口機関
1	日本（沖縄県）	実施団体が直接県内の大学から公募 琉球大学、沖縄大学、名城大学、沖縄国際大学、 沖縄女子短期大学
2	日本（広島県）	広島市立大学
3	日本（長崎県）	公益財団法人長崎平和推進協会
4	カンボジア	国立トゥール・スレン虐殺博物館（大学と協力）
5	韓国	国立済州大学校
6	台湾	台湾国立政治大学
7	ベトナム	ホーチミン師範大学

## (2) 事前学習

### 【パワーポイント資料の作成】

共同学習開催に先立ち、募集・選考を担った機関へ、自国・地域で起った戦争や事件をテーマとして、選考された学生を対象に、事前学習を実施するよう依頼した。事前学習では、指導者の下、参加者は歴史的な学習のみならず、そこから得られた教訓を継承することの必要性やその方法、「平和への思い」などをまとめ、共同学習で発表できるよう、それぞれの国の概要説明も加えたパワーポイント資料を作成した。

### 【動画作成】

共同学習に先立ち、参加チームにはそれぞれの地域を紹介する5分以内の動画の作成を依頼した。動画については、一昨年度のように参加者同士が直接会える機会がないことから、参加者同士がお互いをより身近に感じてもらえるように、自分自身や現地の様子、各地域の戦争や事件を紹介している遺構、博物館、資料館、記念館などを紹介する内容とした。

対象国・地域	学習対象
日本（沖縄県）	沖縄戦
日本（広島県）	広島県における原爆投下
日本（長崎県）	長崎県における原爆投下
カンボジア	カンボジア大虐殺（ポル・ポト政権下の虐殺）
韓国	濟州島 4.3 事件
台湾	2.28 事件
ベトナム	ベトナム戦争



### ◆沖縄県

場 所：沖縄平和協力センター

実施日：2021年10月9日、10月31日、他

指導者：興南高等学校非常勤講師、沖縄歴史教育研究家 大城航





## ◆広島県

場 所：広島市内、広島平和記念資料館、など  
 実施日：2021年10月16日、10月24日、10月30日、他  
 指導者：広島市立大学大学院 平和学研究科 教授 水本和実



## ◆長崎県

場 所：オンライン  
 実施日：2021年10月13日、10月22日、10月27日、他  
 指導者：公益財団法人長崎平和推進協会 事業課国際グループ長 横山理子、継承課職員 中村綾香



## ◆韓国

場 所：済州大学校、アルトル日本軍飛行場跡など  
 実施日：2021年9月10日、11月19日、他  
 指導者：済州大学校 人間社会学科 准教授 高誠晩





## ◆台湾

場 所：国立政治大学、台北 2.28 和平記念館  
 実施日：2021年10月7日、10月14日、他  
 指導者：国立政治大学 日本教育プログラム 教授 李世暉



## ◆ベトナム

場 所：オンライン  
 実施日：2021年9月19日、9月25日、他  
 指導者：ホーチミン市師範大学 日本語学部 日本語教員 カオ・レ・ズン・ギー



## ◆カンボジア

場 所：国立トゥール・スレン虐殺博物館  
 実施日：2021年10月19日、11月1日、他  
 指導者：国立トゥールスレン虐殺博物館 教育部長 ヘン・スファラ



### (3) 事後学習

共同学習終了後、各地域では共同学習で得た学びを振り返り、それをもとに沖縄県内の小中高校生が活用できる平和学習教材を作成するため、事後学習を実施した。各地域が作成する教材のテーマと教材の対象は以下の通りである。

参加地域	教材のテーマ	教材の対象者
日本（沖縄県）	アジアの学生と交流して考えた平和構築	中学生～高校生
日本（広島県）	広島県における原爆投下	中学生
日本（長崎県）	長崎県における原爆投下	小学生～中学生
カンボジア	カンボジア大虐殺（ポル・ポト政権下の大虐殺）	高校生
韓国	濟州島 4.3 事件	高校生
台湾	2.28 事件	高校生
ベトナム	ベトナム戦争	高校生

作成した教材は、沖縄県平和祈念資料館のホームページからダウンロードすることが可能となっており、以下のQRコードから該当ホームページにアクセスすることができる。



「平和への思い」教材ホームページ URL  
<http://peace-museum.okinawa.jp/umui/index.html>

# 7 共同学習日程

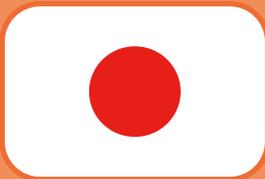
2021年11月22日(月)～27日(土) 共同学習会場：沖縄空手会館研修室

日付	時間(日本時間)	内容	備考	
11月21日(日)	移動日	広島、長崎チーム沖縄へ到着	国際旅行社	
11月22日(月)	10:00～11:00	参加者オリエンテーション	OPAC	
	11:00～12:00	昼食(ホテル)		
	12:30～13:00	移動 ホテル→沖縄空手会館		
	13:00～14:00	【共同学習】	会場設営	沖縄県平和祈念資料館、OPAC、Okicom
	14:00～14:45		開会式・自己紹介	
	14:45～15:15		アイスブレイク	
	15:15～15:30		休憩	
	15:30～16:30	特別講義(大城)	沖縄歴史教育研究会 大城航	
	16:30～16:50	歓迎セレモニー(沖縄チームによる空手演武及び歓迎の歌)	沖縄チーム	
	17:00～17:30	移動 空手会館→ホテル		
17:30～18:00	指導者との打ち合わせ			
11月23日(祝・火)	9:00～9:30	移動 ホテル→沖縄県平和祈念資料館		
	9:30～10:30	【視察】沖縄県平和祈念資料館	沖縄県平和祈念資料館	
	10:30～11:30	【講話】沖縄県平和祈念資料館友の会による講話 質疑応答	沖縄県平和祈念資料館友の会(上原美智子氏)	
	11:30～12:15	【視察】平和の礎	沖縄県平和祈念資料館	
	12:15～12:45	移動 沖縄平和祈念資料館→沖縄空手会館		
	12:45～13:30	昼食(弁当)		
	13:30～14:00	【共同学習】	共同学習準備	OPAC、Okicom
	14:00～14:50		広島チーム発表・質疑応答	
	14:50～15:00		休憩・発表準備	
	15:00～15:50		台湾チーム発表・質疑応答	
15:50～16:00	休憩・発表準備			
16:00～16:50	ベトナムチーム発表・質疑応答			
17:30～18:00	移動 沖縄空手会館→ホテル			
18:00～18:30	指導者との打ち合わせ			
11月24日(水)	9:00～9:30	移動 ホテル→ひめゆり平和祈念資料館		
	9:30～11:00	【視察】アニメーションの視聴 【視察】ひめゆり平和祈念資料館視察	ひめゆり平和祈念資料館	
	11:00～12:00	【講話】ひめゆり平和祈念資料館概要と継承の取り組み 質疑応答	ひめゆり平和祈念資料館	
	12:00～13:30	移動 ひめゆり平和祈念資料館→プラザハウス		
	13:30～14:30	昼食(プラザハウス)		
	14:30～14:45	移動 プラザハウス→胡屋ゲート通り		
	14:45～16:15	【視察・講話】沖縄市戦後文化資料展示館ヒストリート 胡屋ゲート通り散策	ヒストリート職員	
	16:30～17:30	移動 胡屋ゲート通り→ホテル		
17:30～18:00	指導者との打ち合わせ			
11月25日(木)	9:00～9:30	移動 ホテル→首里城跡		
	9:30～11:40	【視察・講話】首里城跡、第32軍司令部壕跡(首里)周辺	OPAC、那覇街角ガイド	
	11:40～12:10	移動 首里城跡→沖縄空手会館		
	12:10～13:10	昼食(弁当)		
	13:00～14:00	【共同学習】	休憩・共同学習準備	OPAC、Okicom
	14:00～14:50		長崎チーム発表・質疑応答	
	14:50～15:00		休憩・発表準備	
	15:00～15:50		韓国チーム発表・質疑応答	
	15:50～16:00	休憩・発表準備		
	16:00～16:50	カンボジアチーム発表・質疑応答		
16:50～17:00	事務連絡			
17:30～18:00	移動 空手会館→ホテル			
17:30～18:00	指導者との打ち合わせ			
11月26日(金)	10:30～11:30	自主学習		
	11:30～12:00	移動 ホテル→守礼そば		
	12:00～13:00	昼食(守礼そば)		
	13:00～13:30	移動 守礼そば→空手会館		
	13:30～14:00	【共同学習】	共同学習準備	OPAC、Okicom
	14:00～14:50		沖縄チーム発表・質疑応答	
	14:50～15:00		休憩	
	15:00～16:40	ディスカッション		
	17:00～17:30	移動 沖縄空手会館→ホテル		
	17:30～18:00	指導者との打ち合わせ		
11月27日(土)	9:00～11:30	【発表準備】成果報告会準備		
	11:30～12:00	移動 ホテル→沖縄空手会館		
	12:00～13:00	成果報告会リハーサル	OPAC、Okicom	
	13:00～13:30	昼食(弁当)		
	13:30～14:00	成果報告会準備		
	14:00～15:20	【成果報告会 第1部】成果発表	OPAC、Okicom	
	15:30～16:30	【成果報告会 第2部】パネルディスカッション	沖縄キリスト教学院大学 教授 新垣誠	
	16:30	成果報告会 閉会		
	17:00～18:00	閉会式・セレモニー	沖縄県平和祈念資料館、OPAC、Okicom	
	18:30～19:00	移動 沖縄空手会館→ホテル		
19:20～20:30	夕食会			
11月28日(日)	移動日	広島、長崎チームが沖縄を出発	国際旅行社	

第2部  
共同學習

# 1 参加者

## (1) 参加者紹介



# 広島

## Hiroshima, JAPAN



**Arai Natsuko**

名前  
新井 夏子

所属  
広島市立大学 国際学部 2年

自分を表す3つの言葉  
のんびり、マイペース、おばあちゃん

コロナが収束したらしたいこと  
北海道旅行をしてアイヌ関係の資料館を回りたい。中高の友達と旅行に行ったり、県外に進学した友達の家を訪ねたい。全国の学びを得られる場所に行きたい。

ちょっと自慢できること  
血中の血小板数が多いらしく（基準値以上）、献血の看護師さんに褒められた。

コメント  
対面で行えることを本当に嬉しく思っています。よろしくお願いいたします。



**Sato Yu**

名前  
佐藤 優

所属  
広島市立大学 国際学部 2年

自分を表す3つの言葉  
笑顔、歌、動く

コロナが収束したらしたいこと  
祖父母や親戚、友達など大切な人たちに会いに行きたいです。

ちょっと自慢できること  
転勤族であるため、いろいろな地域に知り合いがいること。

コメント  
事前学習で学んだことを伝えること、他の地域の方が学んでいることを聞くこと、お互いの考えを知ることが同時にできる良い機会なので、とても楽しみです。



**Omiya Hikaru**

名前  
大宮 ひかる

所属  
広島市立大学 国際学部 2年

自分を表す3つの言葉  
行動力、責任感、マイペース

コロナが収束したらしたいこと  
海外に行きたいです。語学留学を目標としていたため、中東アラブ地域へ留学で行きたいと考えています。また現在、東南アジア地域に家を建てるというボランティアサークルに所属しているため、コロナウイルスが終息したらすぐにでも海外へ行きたいです。

ちょっと自慢できること  
私は、様々な事業に参加してきたことが自慢です。特に、高校3年生の時に参加した「Global Classmate Summit 2019」では、日米から12名の学生が集まり、様々な国際問題について議論をするというものでした。瞬時に意見を出し、質問を考え、また、質問に受け答えをしなければならないという状況は当時高校生だった私にとって、過酷なものでしたが、確実に多くのスキルを身に付けることが出来ました。

コメント  
昨年はオンラインでの参加ということで、難しい部分がありながらも交流し、たくさんの学びがあり、その後もSNSなどを通じて少しですが交流がありました。今年度は、日本だけではなく対面ということで、より深い議論や、交流をすることが出来ると思っています。よろしくお願いいたします。



Fujimoto Kai

名前  
藤本 海

所属  
広島市立大学 芸術学部  
美術学科 油絵専攻 2年

自分を表す3つの言葉  
自由、注意力散漫、知識欲

コロナが収束したらしたいこと  
大学内の学生や先生と絵画やいろいろな国での経験について食事をしながらお話をしたいです。

ちょっと自慢できること  
両親がサーフィンをしていて、歩けるようになる前から海に行き、小学校から高校までで水泳や水球をしてきたので水中での動きは得意です。

コメント  
さまざまな地域の同世代の方と会い、お話をする機会は本当に貴重なので、よく聴き、よく話す1週間にしたいと思います。



Higashi Riko

名前  
東 莉子

所属  
広島市立大学 国際学部 1年

自分を表す3つの言葉  
お喋り、アイドル、一直線

コロナが収束したらしたいこと  
まずは国外(特に韓国)に旅行に行きたいです。そしてマスクなしで友達と遊びたいです。お祭りが大好きなので早く行きたいです。平和記念式典にも参加したいです。

ちょっと自慢できること  
興味のあることにはとことん突き詰められるところです。趣味にしる、学問にしる興味があるものにはたくさんの時間と労力をかけるのが好きです。後は、誰とでも話せるところです。

コメント  
実際に沖縄で学べるのは貴重ですし、他の国とも交流できるので楽しみです！頑張ります！



Mizumoto Kazumi

名前  
水本 和実

指導担当  
広島市立大学大学院  
平和学研究科 教授



# 台湾

## Taipei, TAIWAN



**Kuo Pin-Feng**

名前  
郭品鋒 (コウピンフォン)

所属  
国立政治大学 日本研究プログラム  
修士課程 2年

自分を表す3つの言葉  
努力家、挑戦家、心強い

コロナが収束したらしたいこと  
沖縄と九州旅行に行きたいです。

ちょっと自慢できること  
台湾ラグビー全国大会 15s トーナメント優勝

コメント  
世界平和の理念を伝えたいと思います。



**Tsai Pei-Yu**

名前  
蔡佩育 (サイハイ)

所属  
国立政治大学 日本研究プログラム  
修士課程 1年

自分を表す3つの言葉  
明るい、行動力、冷静

コロナが収束したらしたいこと  
交換留学と海外旅行に行きたいです。

ちょっと自慢できること  
色々な料理ができます。

コメント  
「平和への思い」発信・交流・継承事業を通じて他の国のことを学習し、他の国の人と交流ができるし、すごく楽しみにしています。



**Hu Ze-An**

名前  
胡澤安 (フーゼアン)

所属  
国立政治大学 日本研究プログラム  
修士課程 1年

自分を表す3つの言葉  
楽天的、慎重、責任感がある

コロナが収束したらしたいこと  
海外旅行をしたいです。

ちょっと自慢できること  
私の自慢できることは柔軟性があることです。いろいろな人と一緒にイベントを開いた経験があるので、相手の立場で物事を考えられるし、他の視点から考えることができます。

コメント  
今回はアジア各国の学生と一緒に意見を交換し、平和について深く議論したいと思います。



Liao Yi-Ching

## 名前

廖以晴 (リョウイチン)

## 所属

国立政治大学 日本研究プログラム  
修士課程1年

## 自分を表す3つの言葉

前向き、明るい、優しい

## コロナが収束したらしたいこと

いつも海外旅行を通し他の国の人と交流してきたので、コロナが収束したら交換留学で知識を深めていきたいと思います。

## ちょっと自慢できること

大学の時、テニス部に所属していた私は、前向きの姿勢が良いとよく友達に言われています。最初は何もできない状況でしたが、一人でコツコツ練習して、他のチームメイトと教え合い、コミュニケーション能力を高め、今は試合に出場できるほど成長した上、一緒により良いチームを作れるようになりました。

## コメント

この度は、コロナの影響で予定されていた沖縄への渡航が出来なくてちょっと残念ですが、オンラインで各国が努力を注いだスライドと発表をお聞きできるのを楽しみにしています。



Yu Ming-Hsuan

## 名前

余明軒 (ヨミンケン)

## 所属

国立政治大学 日本研究プログラム  
修士課程2年

## 自分を表す3つの言葉

楽天的、前向き、せっかち

## コロナが収束したらしたいこと

まずはバイクで台湾一周をやりたい。

## ちょっと自慢できること

バイクに乗れること。

## コメント

他の国の人々と交流して、知らなかった事件や歴史を学ぶことを一番楽しみにしている。



Li Shih-Hui

## 名前

李世暉 (リセイキ)

## 指導・通訳担当

国立政治大学  
日本教育プログラム 教授



# ベトナム

## Ho Chi Minh, VIETNAM



**Tran Thi Ngoc Thuy**

### 名前

チャン・ティ・ゴック・テウイ

### 所属

ホーチミン市師範大学  
日本語学部 4年

### 自分を表す3つの言葉

無口、地味、努力

### コロナが収束したらしたいこと

現在はコロナのため実家にいますが、収束したら、実習先を探したり、就活を行ったりしたいです。

### ちょっと自慢できること

踊れます。

### コメント

プログラムに参加できてとても嬉しいです。プログラムを通じて戦争の痛みを深く感じました。それで、平和をもっと愛しています。私は大学生なので、平和を守るために、他民族や他国の文化を頑張って勉強したいと思います。



**Banh Ngoc Lan Nhi**

### 名前

バン・ゴック・ラン・ニー

### 所属

ホーチミン市師範大学  
日本語学部 4年

### 自分を表す3つの言葉

泣きやすい、共感の心、頭が硬い

### コロナが収束したらしたいこと

友達と会ったり、就職もしたいと思っています。

### ちょっと自慢できること

自分の忍耐力だと思います。大学二年生の時家庭教師をしていて、家から仕事先まで8kmありました。毎日、疲れてもバスで通勤して、仕事をやりとげて頑張りました。

### コメント

学生同士のディスカッションが楽しみです。それぞれのトピックについて素直な気持ちを共有できればと思います。



**Ho Minh Hieu**

### 名前

ホー・ミン・ヒュウ

### 所属

ホーチミン市師範大学  
日本語学部 4年

### 自分を表す3つの言葉

家族、自由、外国語

### コロナが収束したらしたいこと

旅行をしたいです。1年間ほどずっと旅行できなくて、寂しいです。COVID-19のおかげで、自由の大切さが実感できました。まずはベトナムの観光地、そして海外の旅行をしたいです。

### ちょっと自慢できること

どんな状況に入っても、文句を言わず、すぐに慣れることが私の自慢できることです。

### コメント

日本語を専攻している私にとって、プログラムを通して参加する皆さんと日本語で交流できるいいチャンスだと思っています。また、ベトナムの学生として、海外の友達に歴史を紹介できるのは本当に嬉しく思います。



Le Minh Thu

## 名前

レ・ミン・トゥー

## 所属

ホーチミン市師範大学  
日本語学部 4年

## 自分を表す3つの言葉

クリエイティブ、コミュニケーション、  
フレンドリー

## コロナが収束したらしたいこと

日本の歴史と文化についてもっと学ぶために、日本に留学したいと思います。日本の歴史をもっと学び、多くの異なる文化を知り、人々の関係の維持に貢献できるようにになりたいと思っています。

## ちょっと自慢できること

私は特別な人間ではないと思いますが、本を読んだりコンテンツを作成したりすることに大きな情熱を持っています。何か良いものを見つけることができるような本であれば、一日かかっても一気に読むことができます。また、アイデアを出すことやビデオの作成することに1日中費やすことができます。

## コメント

このプロジェクトを通して、各国の歴史についてもっと知り、理解することができればと思います。今のそれぞれの地域の平和維持活動や、若い人たちの歴史への関心についても理解を深めたいと思います。また、戦争の教訓や経験、メッセージを学ぶことで、平和の維持やより多くの人に知識を広めることに貢献したいと考えています。



Le Do Yen Nhi

## 名前

レ・ド・イエン・ニー

## 所属

ホーチミン市師範大学  
日本語学部 4年

## 自分を表す3つの言葉

協調性、一生懸命、楽観的

## コロナが収束したらしたいこと

日本に留学したいです。

## ちょっと自慢できること

文化に関心を持っているため、暇な時、ユーチューブで世界の文化の動画を見ていて、面白いことを学んだため、世界の文化について少し知識を持っています。

## コメント

参加国の歴史、戦争に関する知識を習得すると共に、皆さんにベトナム戦争を紹介するのを楽しみにしています。



Le Thi Hong Nga

## 名前

レ・ティ・ホン・ガー

## 指導・通訳担当

ホーチミン市師範大学  
越日文化・教育センター  
センター長

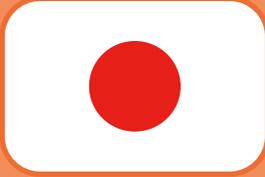
Cao Le Dung Nghi

## 名前

カオ・レ・ズン・ギー

## 指導・通訳担当

ホーチミン市師範大学  
日本語学部 日本語教員



# 長崎

## Nagasaki, JAPAN



**Yasumoto Noa**

名前  
安元 和愛

所属  
活水女子大学 国際文化学部  
英語学科 1年

自分を表す3つの言葉  
好奇心旺盛、優柔不断、ポジティブ思考

コロナが収束したらしたいこと  
オンラインにはオンラインの良さがありましたが、やはり対面で意見交換したり現地に出向いたりするのは比べ物にならないので、そのような活動をしたい。また、コロナ禍で自粛されている署名活動などにも参加したいと思う。

ちょっと自慢できること  
幼い頃から海外に行ったり、馬術をしたり、様々な経験を得てきたものがたくさんあること。インターナショナルスクールに通っていたので、少し国際的な視野を持っているかなと思う。

コメント  
今回の事業では、私が今まで触れたことのないカンボジアやベトナムも参加するということで、自分の未知の領域に足を踏み入れると思うととても楽しみです。実りのある交流ができるようにしたいと思います。



**Ogawa Yuki**

名前  
小川 由姫

所属  
活水女子大学 国際文化学部  
英語学科 3年

自分を表す3つの言葉  
スポンジ、チーズ、春

コロナが収束したらしたいこと  
コロナ渦において自宅で過ごす時間が増え、図書館で本を借りて読む機会が多くなりました。そして気づけば旅行雑誌や世界の美しい建造物や博物館の写真集を手にとっていました。きっと留学に行けなかった分、海外へ行きたい、異文化を感じたいと思う気持ちが強くなっていったのだと思います。コロナが収束した際には海外へ行き、写真で見ていた景色を自分の目で見てみたいと思っています。

ちょっと自慢できること  
目標に向けて陰ながら努力することができているかなと思います。私は定期的に英語の試験を受けているのですが、大学3年次までに達成したいと思っていた目標を5月に達成することができました。あまり表に成果を見せることはないのですが、自分の中で確実にステップアップできていると感じました。

コメント  
歴史というと遠い過去のように思えますが、きっと今のわたしたちと繋がるものがあるはずです。今回、各国各地域の歴史を学び、活発なディスカッションをできればと思います。そして、これからの平和学習や継承活動に繋がっていければと思います。



**Oki Kano**

名前  
大城 華乃

所属  
長崎純心大学 人文学部  
文化コミュニケーション学科 1年

自分を表す3つの言葉  
努力家、積極性、臨機応変に動ける

コロナが収束したらしたいこと  
気軽に県外、海外へ渡航したい。戦争や平和以外でもそれぞれの文化についてもっと知り、触れてみたい。

ちょっと自慢できること  
私は中学生から高校の六年間、合唱と声楽をしていました。高校では三年間、毎年8月9日の平和祈念式典で「千羽鶴」を歌いました。昨年度は新型コロナウイルスの影響で例年より規模を10分の1縮小させて行われたことにより、私が所属している音楽部のみの合唱の参加となりました。その際にパートリーダーとしての努力が認められ、昨年度の式典の千羽鶴では、冒頭のソロを任せられ、平和の願いを込めて歌い上げることが出来ました。

コメント  
コロナ禍の中ではありますが、様々な国や地域の歴史文化に触れられる機会を頂いたこと、とても嬉しいです。楽しみにしています。



Tsuda Masamichi

名前  
津田 匡達

所属  
長崎純心大学 人文学部  
文化コミュニケーション学科 1年

自分を表す3つの言葉  
楽観的、客観的、柔軟

#### コロナが収束したらしたいこと

長崎純心大学で深く学べる分野の一つに、キリスト教についての歴史が挙げられます。特にアジアにおけるキリスト教の在り方について知識を深めることができますが、欧米におけるキリスト教の歴史を学ぶには、上智大学がよい環境であると講義を通じて知りました。アジアと欧米でのキリスト教の比較のために、上智大学で学ぶ機会があればよいと思います。また、前述したように現地を訪れてみることの重要性を感じているため、キリスト教にかかわりの深い地域へ自由に足を運ぶことができるようになればよいと考えています。

#### ちょっと自慢できること

私が小学生の時に描いた絵画作品が、長崎県の展示会において特選の評価を受け、長崎市内の小学生に市の教育委員会が夏休みの学習長として配布している「あじさいノート」の表紙に選ばれたことがあります。加えて、原画は長崎県美術館に貯蔵されています。このことから集中力を求められる作業は得意だと思っています。

#### コメント

確実な情報が溢れる時代です。各地域の信頼できる資料を通じて戦争とは何か、その答えに近づけることを期待しています。



Yamaguchi Yukino

名前  
山口 雪乃

所属  
活水女子大学  
国際文化学部英語学科 1年

自分を表す3つの言葉  
トマト、ポジティブ、アウトドア

#### コロナが収束したらしたいこと

国内外の若者がオフラインで一堂に会す対話の場を作りたい。それぞれの国をめぐりながら、交流する時間を持ちたい。

ちょっと自慢できること  
気持ちの切り替えが早い。

#### コメント

今まで交流の少なかった他地域の若者と交流出来るのが楽しみです。沖縄や海外の歴史的な出来事には特に関心があり、それぞれの現地の人から学ぶことが出来ることに感謝しています。



Yokoyama Michiko

名前  
横山 理子

指導担当  
(公財)長崎平和推進協会  
事業課国際グループ長



Nakamura Ayaka

名前  
中村 綾香

指導担当  
(公財)長崎平和推進協会継承課



# 韓国

## Jeju, SOUTH KOREA



**Hong Eun Hye**

### 名前

洪 恩恵 (ホンウンヘ)

### 所属

済州大学校  
社会学科 / 言論広報学科 4年

### 自分を表す3つの言葉

愛、表現、不安

### コロナが収束したらしたいこと

プールに通いたい。コロナがあったさる2年間、海に行けなかった。海をよく楽しむためには水泳ができなければならないという。それで、収束したら、まずプールで水泳をよく学びたい。

### ちょっと自慢できること

思った通りに表現することが上手だ。ある瞬間が与える感覚に対して率直に表現することに恐れはない。そのためか、踊ったり、文章を書き、歌うのが好きで上手だ。いろいろな面で人生を楽しませてくれる仕事に、思う存分打ち込むことができている。

### コメント

平素より国際交流活動に関心が高かったところに、高先生から「魅力的な場がある！」と提案があった。各国の歴史や文化、意識(考え)についてコミュニケーションできるこの事業に興味を持ち、ぎりぎりに応募することになった。済州島に住んでいても過去の歴史がどのように流れてきたのかよく分からない時が多いと感じた。今回の機会を生かして、自分の故郷についてもっと深く理解したい！と思う。



**Kim Sung Min**

### 名前

金 聖旻 (キムソンミン)

### 所属

済州大学校  
社会学科 3年

### 自分を表す3つの言葉

計画、試み、転換

### コロナが収束したらしたいこと

海外旅行に行ってみたいです。

### ちょっと自慢できること

挑戦意識が強いです。一方、諦めも早いです。

### コメント

国際交流イベントを通じて他国の同世代の文化や歴史を、間接的であっても体験してみるために応募しました。



**Kim Hyun A**

### 名前

金 賢娥 (キムヒョンア)

### 所属

済州大学校  
社会学科 3年

### 自分を表す3つの言葉

熱情、根気、努力

### コロナが収束したらしたいこと

COVID-19が収束したら、私が一番好きな歌手のコンサートに行ってみたい。コンサートに行ったら歌手と一緒に歌ったりしてヒーリングする日が早く来てほしい。

### ちょっと自慢できること

私の長所は、私が引き受けた仕事があれば、最後まで諦めない、最後まで尽くして仕上げる「根気」があるということだ。いつもは関心がないことでも、解決困難な問題といえども、「楽しくやってみよう」という肯定的な考えを持ち、何でも一所懸命にやる方だ。

### コメント

済州4.3事件についての関心は高かった。ただ、今でもあまり知られていない済州島の悲劇的な痛みをどのように同世代に伝えられるのか、ずっと悩みがあった。今回の研修への参加はそれを解決する機会になると考える。さらに、過去を振り返りながら、我々にとって平和とは何か、それから平和を実現するためにはどのような努力が必要なのかについても、きっかけを得るため応募した。



Roh Hyeon Gyeong

## 名前

盧 炫暻 (ノ ヒョンギョン)

## 所属

済州大学校  
社会学科 3年

## 自分を表す3つの言葉

明るさ、火、冷たさ

## コロナが収束したらしたいこと

大勢で集まって美味しいものを食べながらその間の近況を分かち合いたいです。もう少し欲を言えば、国内または国外へ旅行に行きたいです。コロナによって、時間を作ってなんでもやらないとその機会がいつまた来るか分からない、という教訓を得ました。いつかこの状況が終われば誰かに会って多様な経験をして見ることに、言い訳で延ばさないで熱心にするつもりです。

## ちょっと自慢できること

臆病で、仕事を始める前に悩みも多く不安もありますが、やることを決めたら、途中紆余曲折があっても最後までやり通すということです。また、そのような紆余曲折の状況で周りの人たちに助けをもらえる方です。普段、人と交流することが好きで、他人の感情を繊細に察し、私が危機に瀕した時に助けを求めると、喜んで助けてくれる友人と同僚が存在するというのも誇らしい部分の一つです。

## コメント

他国の学生たちと交流を通して自身の意見を高められれば良いなと思っています。



Koh Sung Man

## 名前

高 誠晩 (コ ソンマン)

## 指導・通訳担当

済州大学校  
人間社会学科 准教授



# カンボジア

Phnom Penh, CAMBODIA



**Em Kaknika**

**名前**

エン・カクニカ

**所属**

王立プノンペン大学 歴史学

**自分を表す3つの言葉**

礼儀正しい、正直、新しいことを学ぶ

**コロナが収束したらしたいこと**

コロナの状況にうんざりしているので、出かけたいです。

**ちょっと自慢できること**

このプロジェクトに参加して、他の参加国と一緒に自分の国の歴史を共有する機会があることです。

**コメント**

皆さんにお会いして学びをシェアしたり議論したりできるのを嬉しく思っています。



**Rin Pich Rath**

**名前**

リン・ピック・ラス

**所属**

王立プノンペン大学 歴史学4年

**自分を表す3つの言葉**

責任感、誠実、親切

**コロナが収束したらしたいこと**

歴史学や文化に関する奨学金を獲得したいです。アンコール・ワットなどの古代寺院を訪れてみたいです。

**ちょっと自慢できること**

平和な国に住むことができとても幸運だと感じています。同時に、東南アジアで最も古い文明国のひとつであるカンボジア人に生まれたことも幸運です。

**コメント**

このプロジェクトに参加できたことをとても嬉しく思います。なぜなら、私自身の歴史の勉強にもなるからです。特に、参加国の若い人たちの経験や知識に関する意見を交わすことができました。



**Voun Tara**

**名前**

ボン・タラ

**所属**

パンナサストラ大学 マスメディア・コミュニケーション学2年

**自分を表す3つの言葉**

人生一度きり、忍耐、ハングリー

**コロナが収束したらしたいこと**

新しいことを探求すること、自分の国や世界の他の国の歴史をもっと学ぶこと、さらに若者に自分の経験した知識を伝え、自分の目標を達成することです。

**ちょっと自慢できること**

自分の国の知識、経験、歴史を他国の若者や人々と共有する機会を得たことです。

**コメント**

カンボジアの歴史を他国の若者と共有することができることにとても満足し、感謝しています。このプロジェクトに期待していることは、異なる国の若者と歴史的な経験を共有することです。また、異なる国の歴史に耳を傾け、相互理解に貢献し、社会に平和をもたらす手助けができることをとても楽しんでます。



Thy Koemhong

## 名前

タイ・コメホン

## 所属

王立プノンペン大学 歴史学4年

## 自分を表す3つの言葉

忍耐力、責任感、誠実さ

## コロナが収束したらしたいこと

新しいことを探求し、自分の国や世界の他の国の歴史についても学び、さらに自分の経験や知識を共有したいので、海外の奨学金に応募したいと考えています。

## ちょっと自慢できること

私はカンボジア人として生まれたことを誇りに思います。カンボジアは文化の国です。私の歴史、文化、芸術を他の人に伝えられることを誇りに思います。

## コメント

この事業の開催をずっと待っていました。この事業では、過去の出来事によりそれぞれの国が参加している他の国々の歴史や文化を知ることができます。私のようなカンボジア人学生が自国の歴史を他国に伝えられる活動に参加できるように、カンボジアが参加するこの事業を立ち上げてくれた沖縄県に感謝したいと思います。



Srey Noch Ping

## 名前

スレイ・ノック・ピン

## 所属

カンボジア王立芸術大学 建築学

## 自分を表す3つの言葉

フレンドリー、誠実、頑張り屋

## コロナが収束したらしたいこと

世界を見に行きたいです。昨今の現状に飽き飽きしています。

## ちょっと自慢できること

私はカンボジア人として生まれたことを誇りに思います。カンボジアは文化の国です。私の歴史、文化、芸術を他の人々に伝えられることを誇りに思います。

## コメント

平和のための素晴らしいプログラムなので、このプロジェクトに参加できて本当に感謝しています。このプロジェクトに参加することで、他の国のこと、歴史、文化、そして交流についてもっと知れると思っています。



Heng Sophara

## 名前

ヘン・スファラ

## 指導担当

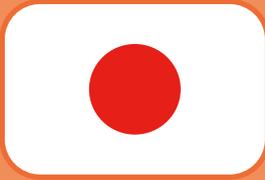
トゥールスレン虐殺博物館 教育部長



Kry Mengang

## 名前

クリ・メンアン  
通訳



# 沖縄 Okinawa, JAPAN



**Shimoji Hiyori**

名前  
下地 陽由

所属  
琉球大学 国際地域創造学部  
国際地域創造学科 1年

自分を表す3つの言葉  
やる気、発想力、有言実行

コロナが収束したらしたいこと  
コロナの問題やBLM運動など、社会で起きていることについて普段より思考する時間が増えました。また、趣味のお絵かきをSNSで発信することを始めました。

ちょっと自慢できること  
私は、中学3年間糸満市平和ガイド育成事業に参加し、沖縄戦のことを中心に、長崎県、広島県の原子力爆弾のことについても学びました。その3年間で実際にガイドをした経験もあります。

コメント  
新たな学びができることを楽しみにしています。



**Tamaki Minaho**

名前  
玉城 南歩

所属  
沖縄女子短期大学 児童教育学科  
1年

自分を表す3つの言葉  
思ったら即行動、好奇心旺盛、努力家

コロナが収束したらしたいこと  
多様な人と交流したい！  
色々な国や県や離島に行きたい！  
たくさん挑戦したい！

ちょっと自慢できること  
三線が弾けること  
おじーおばーとすぐ仲良くなれること  
海が人一倍大好きなこと

コメント  
この事業で、沖縄戦以外の色々な国の出来事を学んで、この昔何があったのか、このあとに繋がって行きたいです。



**Kuribayashi Miyu**

名前  
栗林 珠優

所属  
名城大学 国際学群  
国際文化専攻 3年

自分を表す3つの言葉  
真面目、国際協力、自然

コロナが収束したらしたいこと  
実家（北海道）に帰って家族と会いたいです。

ちょっと自慢できること  
どこに行っても良い人に巡り会えること。

コメント  
2年前から知っているこの事業に2年越しに参加することが決定し、とても楽しみで他の地域の同世代の皆さんと学べることに嬉しさを感じています。私の興味のある紛争解決、紛争予防、平和構築、難民支援といった分野に繋がる貴重な経験だと思っています。どの地域の内容も私が受けてきたこれまでの学習の中で大きく取り上げられなかったテーマです。まだまだ知識不足で未熟ではありますが、どうぞよろしくをお願いします。



Miyagi Nanami

名前  
宮城 七珠

所属  
沖縄大学 人文学部  
国際コミュニケーション学科  
日本語コース4年

自分を表す3つの言葉  
うちなんちゅ、マイペース、  
好奇心

コロナが収束したらしたいこと  
海外旅行に行きたい。色々な人  
と会って話したい。

ちょっと自慢できること  
好きなものが多い

コメント  
各国の参加者と意見交換、交流  
が出来るのがとても楽しみです。



Nakamoto Wataru

名前  
仲本 和

所属  
沖縄国際大学 総合文化学部  
社会文化学科 平和学4年

自分を表す3つの言葉  
平和、継続、統率力

コロナが収束したらしたいこと  
国内の戦跡、資料館を回りたい  
と考えている。

ちょっと自慢できること  
空手を19年続けていることだ。  
他にも平和ガイドや基地問題に  
対し直接運動をしていることだ。

コメント  
沖縄では平和について考えるた  
めに、「沖縄戦学習」があるが沖  
縄戦を学んだだけでは平和につ  
いて構築することはできないの  
ではないかと感じていた。そこ  
で今回のような事業で他地域の  
紛争・戦争・事件を知ること  
で新たな平和に対する考えが持  
てるのではと非常に楽しみです。



Oshiro Wataru

名前  
大城 航

指導担当  
興南高等学校非常勤講師  
沖縄歴史教育研究家

(2) 研修参加国・地域



## 2 共同学習

### (1) 共同学習の概要

#### 【事前説明会】

2021年9月30日に各地域をオンラインでつなぎ、指導者に対して事前説明会を実施した。同説明会では、①指導者の顔合わせ、②WEB会議アプリの操作確認、③共同学習の日程確認、④教材作成に関する説明などを行った。④について、特に海外では日本のような指導案が作成されていないことも考えられることから実施団体で案を作成し配布した。指導者のほぼ全員が、令和2年度までに実施された本事業に関与していたこともあり、滞りなく説明会は終了した。

#### 【共同学習日程および会場】

本年度の共同学習は、新型コロナウイルスの世界的な蔓延に伴い、海外からの参加者はオンライン参加とし、広島、長崎、沖縄の参加者のみが会場に集まるハイブリッド開催となった。

日程については、沖縄県下でも多くの感染者が確認されていたことと、対面での開催可能性を最後まで模索するため、共同学習実施期間を①11月22日～27日、②12月13日～18日の2案とした。11月に入り、沖縄県を含む全国で感染者が減少したことから、11月16日に①の日程で実施する旨を各地の窓口機関に伝達した。会場は、共同学習と報告会が同一会場で実施でき、かつ、感染症対策に十分な広さを確保できるという観点から沖縄空手会館の研修室とした。

	日 程	内 容
1日目	11月22日(月)	開会式、特別講義、歓迎セレモニー
2日目	11月23日(火)	視察：沖縄県平和祈念資料館、平和の礎 講話：沖縄県平和祈念資料館友の会 各地域の発表：広島（広島県における原爆投下）、台湾（2.28事件）、ベトナム（ベトナム戦争）
3日目	11月24日(水)	視察：ひめゆり平和祈念資料館、沖縄市戦後文化展示資料館ヒストリート、胡屋ゲート通り
4日目	11月25日(木)	視察：首里城跡、第32軍司令部壕跡 各地域の発表：長崎（長崎県における原爆投下）、韓国（済州島4.3事件）、カンボジア（カンボジア大虐殺）
5日目	11月26日(金)	各地域の発表：沖縄（沖縄戦） ディスカッション（平和な社会とは、継承の方法）
6日目	11月27日(土)	成果報告会

(詳細日程 10 ページ参照)

ハイブリッドによる共同学習は海外との時差も考慮し日本時間の14時～17時の3時間とした。また、日本国内の参加者は沖縄に参集することが可能となったため、海外とオンラインで接続しない午前中に沖縄県内を視察した。沖縄戦の学習だけにとどまらないように、琉球王朝時代、沖縄戦、そして戦後復興も学ぶことができる視察先を選定した。

#### 【使用言語】

基本的に日本語を使用言語とした。台湾、ベトナムの参加学生は日本語学部にも所属しており、発表や質疑応答、意見交換は各自日本語で対応できた。また、台湾、ベトナムの指導者は日本語が堪能であるため、必要に応じてそれぞれの学生に通訳した。韓国およびカンボジアは現地語での発表であったが、指導者もしくは外部人材が逐次通訳を行い学生の理解促進に努めた。

## 【参加学生による紹介動画】

対面とオンラインを併用するハイブリッド開催となったため、今年度も各参加者の親睦を深めてもらうことを目的として、地域ごとに紹介動画の作成を行った。

### 沖縄チーム

自己紹介、沖縄の自然、沖縄の文化など



### 台湾チーム

2.28 事件記念館、関連映像など



### 韓国チーム

済州島の紹介、済州島 4.3 事件の紹介など



### ベトナムチーム

自己紹介、ベトナム戦争の関連映像など



### 長崎チーム

自己紹介、原爆関連施設など



### 広島チーム

自己紹介、広島平和記念公園の案内



### カンボジアチーム

自己紹介、トゥール・スレン虐殺博物館の案内など



### 【オンライン接続】

インターネットを通して利用する web 会議ソフト Zoom は、インターネットの環境が整えば個人のパソコンでオンライン会議などができる。しかし、本事業では、沖縄の会場と海外の複数拠点をつなぎ学習を滞りなく進めるため、性能の高い機器を投入し、熟練した技術スタッフがオンライン配信業務を担当した。技術スタッフのきめ細やかな運営で、大きな問題もなく共同学習および成果報告会が実施できた。



### 【成果報告会のライブ配信】

11月27日に行われた成果報告会は、Youtubeを通じてオンライン配信した。当初は新型コロナウイルス感染症拡大などで、観客を入れての開催が困難な場合を想定しての措置ではあったが、当日来場できない参加者の家族や関係者などがライブ配信を視聴していたようである。オンデマンド配信については、シンポジウムの模様を撮影し、後日、同撮影データをもとにダイジェスト版とフルバージョン版の2点を制作し配信する。なお、海外からの視聴者のため、ダイジェスト版には英語字幕を付与する。

### 【新型コロナウイルス感染症対策】

感染症対策については、以下のようなマニュアルを作成し、主催者、実施団体、旅行社が連携して感染予防に取り組んだ。

#### 各地域の指導者・参加者へのお願い

新型コロナウイルス感染症への感染予防のため、令和3年度「平和への思い(ウミイ)」発信・交流・継承事業では、以下の感染対策を実施することといたしました。お手間をおかけしますが、皆様のご協力をお願いいたします。

<p><b>【事前】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●各自の体調に合わせ、ワクチン接種を推奨</li> <li>●来沖前、72時間以内に各地域でPCR検査の受診及び陽性証明(費用は事業費で負担)</li> <li>●共同学習期間中を欺く、11月5日～12月8日までの間、体調管理アプリにて報告をお願いします。(次のスライドで説明)</li> <li>【事業実施団体で準備】</li> <li>●自主隔離が可能な宿泊施設、輸送可能なハイヤーの事前確認</li> <li>●密着出席者への対応</li> </ul> <p><b>【全体】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●西表観光旅行協会の実施(検温、手洗い消毒、ソーシャルディスタンス、マスク着用等)</li> </ul>	<p><b>【共同学習中】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●手洗い消毒の徹底</li> <li>●毎日の検温(旅行社の担当者が行います)</li> <li>●バスは可能な限り1名2度利用</li> </ul>	<p><b>【共同学習後】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●検温後1週間体調管理アプリに報告をお願いします。</li> </ul> <p>※新型コロナウイルス感染症は感染から5日程度で症状が確認されるといわれています。</p>
--	--	---

#### 【体調管理アプリについて】

体調管理アプリとして、「みんなの体調ノート」を利用いたします。お手数ですが、指導者及び参加者宛に招待メールを送付しますので、毎日記入をお願いします。 ※1回の記入は1分程度で終了いたします※

#### 「みんなの体調ノート」への登録方法

①11月8日に、皆様のメールアドレスに招待メールを送付しますので、登録をお願いします。

②メールに記載されているURLをクリックするとこの画面が表示され、任意のパスワードを入れて「同意して登録」をクリック！

③毎日ブラウザからログインする方法もありますが、お持ちのスマホにアプリを入れるとより簡単に体調をご報告いただけます。

#### 【連絡体制図】



#### 【共同学習中における感染症対応フロー】



## (2) 1日目 開会式、特別講義

### 【開会式】

開会式では、本事業の主催者である沖縄県平和祈念資料館長による開会のあいさつの後、参加者及び事業関係者の自己紹介が行われた。

開会式終了後には、参加者間の親睦を深めてもらうため、ある地域から別の地域に質問をしてもらい、互いのことを知ってもらう時間が設けられた。



### 特別講義 講師 大城航

(興南高等学校非常勤講師、  
沖縄歴史教育研究家)

昨年に引き続き、大城航先生から特別講義を提供いただいた。講義では、単に沖縄戦の概要にとどまらず、琉球王朝時代の文化や東南アジア地域とのつながりなどについて触れ、当時から沖縄という地は万国津梁の地であった点が伝えられた。また、沖縄戦については沖縄本島で起きた戦闘のみならず、宮古・八重山でおきた食糧不足やマラリアの蔓延などによって、多くの人々が亡くなり、戦争では砲弾などの武器で命が奪われるだけでなく、病などで亡くなる人もいることが伝えられた。

沖縄の戦後復興期についても触れられる中で、島ぐるみ闘争やベトナム戦争当時の状況にも言及された。

質疑応答の時間では、韓国、台湾、カンボジアなどから質問が上がり、参加者の関心さがうかがえた。

### 【歓迎セレモニー】

令和3年度は沖縄チームと大城航先生による空手の型である普及型1とバツサイダイが披露された。また、沖縄民謡「ていんさぐの花」が演奏された。



# 沖縄戦と戦後復興

大城 航 | 興南高等学校非常勤講師、沖縄歴史教育研究家

ハイサイ、グスーヨー、チューウガナビラ。

みなさん、こんにちは。私は沖縄の私立興南高校という学校で社会科教員をしている大城航といいます。教員をしながら、琉球・沖縄の歴史や沖縄戦をはじめとして平和学習の取り組みをしています。今日は沖縄がどのような歴史・文化のある所なのかということ、中でも76年前の戦争、沖縄戦がどのような戦争だったのかということを中心に話して行きたいと思います。限られた時間ですので、かなり大まかな説明でおわるとは思いますがお許しください。それではユタサルグトゥウニゲーサビラ。よろしくお願いします。



## 1. 沖縄の位置、歴史、文化

沖縄県は、中国の東、日本列島の南、台湾の北に位置する島々です。大小363の島々があり、49の島に人が住んでいます。最も西の与那国島は日本の領域でも最西端で、晴れた日には台湾を見ることができます。気候は亜熱帯、熱帯と温帯の境目にあり、普通この緯度は砂漠の地域が多いのですが、沖縄は海に囲まれ、日本海流が暖かい風を運んでくるため森林が発達しています。今年、沖縄島北部の山原（ヤンバル）といわれる森林地域と西表島、またお隣の鹿児島県の奄美諸島を含めて、世界自然遺産に登録されました。

沖縄はかつて琉球王国といました。西暦1404年、明の永楽帝から冊封を受け「琉球国」という国名を正式に使い始めます。そして1879年に日本に併合されるまで、独自の文化を持つ国を形成しました。琉球国王が住んだ政治の中心・首里城には「万国津梁の鐘」という梵鐘がかけられていました。万国の津梁とは世界の架け橋という意味です。1300年代後半から1500年代後半にかけて琉球は中国、日本、朝鮮、東南アジア各地を交易でつなぎ、各地の特産品や宝物であふれたと万国津梁の鐘には表現されています。沖縄ではこの時代を大交易時代と呼んでいます。

各地に交易で行き来することで、琉球では中国、日本、朝鮮、東南アジアの文化がミックスされた文化が生まれます。例えば、2019年に焼失してしまいましたが、首里城は中国と日本の建築様式が合わさった様式です。しかし赤瓦としっくいを多用するところは琉球独自だと思います。

沖縄の代表的なお酒に泡盛というものがありますが、これはタイから製法が伝わったと言われていています。これは琉球王国が残した交易の記録で『歴代宝案(レキダイホウアン)』といます。この中には1400～1500年代の東南アジアの国々との交易や外交についても書かれているので、ベトナムやカンボジアの中世の歴史を知ることができるかもしれません。

沖縄ではミックスする、混ぜることを「チャンプルー」といいます。沖縄は大交易時代から後、戦後も歴史の波にもまれながら独自のチャンプルー文化をつくり続けています。さて、このような大交易時代という繁栄とチャンプルー文化は琉球の人々だけでできたわけではありません。当時の外交を担ったのは中国福建省から移住した人々や日本からやって来た僧侶でした。1600年代に陶

---

磁器をつくる製法を伝えたのは朝鮮人の陶工でした。このように、琉球は国際色豊かな人材によってつくられた国、文化であり、人と人、国と国をつなぐチャンプルーの精神をこれからも大切にしたいと思っています。

1879年に日本政府が併合したことで琉球王国は滅亡し、沖縄県となります。それから日本人と同じ風習・文化を身に付けることで差別をまぬがれよう、という同化政策が行われていきます。ベトナムとの関わりで言うと、沖縄のそのような現状を聞いたファン＝ボーイ＝チャウは『琉球血涙新書』というパンフレットを書き、その後『越南亡国史』を書き、植民地支配への抵抗運動を提唱したそうです。

1937年に日本が中国と戦争ははじめると、その傾向はますます強くなり、「天皇のために忠義を尽くし、有事には生命を捧げることが日本人の美德」という皇民化政策・皇民化教育が行われます。そして沖縄戦がおきます。

## 2. 沖縄戦

沖縄戦というのは一般には1945年3月の終わりから9月にかけておこなわれた日米軍による戦闘をいいます。日本と主に中国、アメリカが繰り広げた15年戦争、アジア太平洋戦争の最終版の戦いです。

1941年、日本軍が真珠湾を攻撃、東南アジア各地に侵攻してアジア太平洋戦争がはじまります。しかし1943年には米軍が優勢となり1944年にはサイパン島を米軍が占領します。そして日本本土を攻撃するための前線基地として沖縄の占領が計画されます。

1945年3月23日、米軍は沖縄攻略作戦を開始し、26日には沖縄島の西にある慶良間諸島に上陸、4月1日には沖縄島の中部西海岸に上陸しました。慶良間諸島や米軍上陸地に近い読谷村などでは、住民が自らの手で死を選んでしまう事件がおきます。手榴弾を起爆させたり、それが失敗した家族は男が鎌や石で子どもや母親を殺す、そういう凄惨な光景が繰り広げられました。

このような事件がおきたのは、軍人だけでなく、住民も捕虜になることを禁じられ、一人でも敵を殺して自らも戦い死ぬか、自決（自殺）せよという宣伝・教育が徹底していた社会的な背景があります。慶良間諸島では500人以上が強制集団死の犠牲となりました。そして、子どもや高齢の女性に犠牲者が多いことも特徴です。

米軍は北部と南部の2つに分かれた進攻します。北部には日本軍の大規模な部隊はおらず、ゲリラ戦が行われました。日本軍のゲリラ部隊には15歳～18歳の若者もいました。

伊江島は「東洋最大」と言われた飛行場があり激しい戦闘が行われました。中には子どもを負って戦闘に参加した女性がいた、という報告もあります。このグラフは日米の戦力比較ですが、日本軍が圧倒的に不利でした。それは沖縄にいた日本軍、第32軍といえます。第32軍の司令部もわかっていました。そのため住民をそれぞれ「根こそぎ」動員し、兵隊や軍の補助として使っていました。これは沖縄島の北部から南部などの地域でも同じでした。

第32軍の司令部は首里城の地下につくられていました。米軍はそこをめざして進攻しました。そして日本軍は首里の司令部を守るために宜野湾、浦添、西原といった地域に陣地をつくりました。そして嘉数高地や前田高地で激しい戦

闘が行われます。前田高地は4年前に「ハクソー・リッジ」というハリウッド映画の題材になりましたので、ご存じの方もいるかもしれません。現在、沖縄県立博物館・美術館などが立地している繁華街・那覇新都心でも安里高地を中心に激しい戦いが行われました。米軍にも大きな被害が出、約1,300人の戦闘神経症患者が出ました。沖縄戦での死者1万2,520人というのは、米軍にとって太平洋戦争で最大の犠牲者数と言われています。

米軍が間近に迫ってくるなかで、第32軍司令部は首里から南部の摩文仁に撤退することを決めました。理由は、本土決戦準備の時間かせぎをするため、南部には自然壕が多くあることなどでした。中部から戦闘を逃れた住民やもともと南部にいる住民など、数万の住民がいたことも承知の上での撤退でした。しかし住民のことはそもそも司令部には眼中にありませんでした。南部では軍隊と住民が混在する戦場となりました。

1971年に、県民から戦争体験の聞き取りを行い、その証言が『沖縄縣史』にまとめられています。その中から東風平（コチンダ）という南部の地域の20歳の女性の証言を紹介します。わかりにくい言葉などは少し変えていますのでご了承ください。

彼女は家族や地域の方数十名と自然壕、洞窟に避難していました。

「日本軍が来てですね、ここは兵隊が使うから避難民は出る、という命令があって大騒動になったんです。出ない、と頑張ったら兵隊は刀を抜いて振り回して、みんなを追い散らすもんだから、やむなく、住民はみんな追い出されました。それから近くの小さい壕を探してそこに入っていました。また日本軍が来て避難民は邪魔だから出る出ると言っていました。でも、そこから出たら非常に危ないので、どうしても出ませんでした。壕の中では、小さい子どもたちがひっきりなしに泣いていました。兵隊たちは、子どもを泣かすな、泣く子は殺してしまえと言っていました。みんな子どもを殺されるよりは出た方がいいということになって、その壕からも出ていったんです。」そして彼女は母親と逃げ、ある日水を汲みに行きました。

「急に艦砲射撃（船からの攻撃）がはじまって、石垣の陰に隠れていたんです。そのとき砲弾の破片で、母や足を切断されて・・・そこへちょうど日本軍の衛生兵がやってきたので、ケガを見て貰いました。ところが衛生兵もすぐ胸のところを破片でケガして、逃げていきました。近くで隠れていた3、4人の避難民の中の1人はお腹をやられてですね、内臓がゆるゆるととび出してですね・・・みんないなくなって、私と母だけがそこに残っていました。」

「その翌日も、そこには艦砲がどんどん落ちてきて、私たちの向かいにあった壕は直撃を受けたんです。そこに入っていた人のうち2人は即死、あとはみんなケガをしていました。あてもなく歩いてですね、砲弾の中を逃げ回って、ついたところは真壁部落でした」

沖縄の一般住民は日本軍から壕を追い出され、米軍からも無差別の攻撃にあい、まさに「鉄の暴風」の中をさまよひ、多くの方が亡くなりました。現在、沖縄県平和祈念公園のある糸満市摩文仁は住民と日本兵が追い詰められ犠牲になっていった場所です。沖縄は小さな島であり、追いつめられた住民は逃げることもかなわず「鉄の暴風」の犠牲となりました。しかし、地理的な原因だけが犠牲をつくったものではありません。

日本の兵隊は「アメリカ軍につかまると、男は戦車の下敷きにされ、女はレ

イブされた後に殺される。弾にあたりたり自殺した方がましな死に方ができる」という話を流し続けました。これは1944年から日本政府によって意図的に流された情報です。当時の多くのメディアでも「鬼畜米英（アメリカは鬼や動物よりも野蛮であるということ）」という言葉やアメリカ軍が恐ろしいという記事が掲載されています。特に10代の若者は、その情報を信じ、自殺あるいは突撃して亡くなりました。当時9歳だったある女の子は、初めてアメリカ兵を見たときに「鬼だというけど人間に似てるね」と思ったそうです。

日本軍は兵士・住民に限らず降伏することを許しませんでした。また、米軍の上陸前から日本軍と共に飛行場建設等に協力していた沖縄県民から軍事機密が漏れることを恐れ自ら自決（自殺）するように仕向けました。第32軍が首里から南部に撤退するさい、病院壕にいた重症患者は青酸カリを飲まされたり、銃で撃たれたりして「処置」されました。つまり軍の手で殺されました。1930年代からの日本において、天皇を中心とした国家体制を守る、ということが絶対の正義でした。その最後の行きついた先に沖縄戦の悲劇があったといえるでしょう。

沖縄島以外にも犠牲者は出ました。宮古や石垣島にも日本軍が配属されたため、極度の食料不足に陥りました。特に石垣島や波照間島では、住民は森や山の中に強制的に避難させられました、そのためマラリアや栄養失調で約3,600人の方が犠牲となりました。宮古諸島や八重山諸島では空襲や艦砲射撃はありましたが、米軍が上陸しなかったために地上戦は行われませんでした。しかし多くのこれだけの死者が出ました。弾が飛ぶ、ということだけが戦争ではありません。以上が沖縄戦の大まかな流れになります。

沖縄戦の学習をするとき、ほとんどの内容が住民の被害で終わってしまいます。しかし、沖縄戦では台湾や朝鮮の方も犠牲になりました。そして、太平洋戦争においては沖縄の人間も大陸や南洋諸島の戦場に出征し中国や東南アジアの多くの人びとに被害をあたえています。

私ははじめに「ハイサイ」と言いました。日本語で「こんにちは」「こんばんは」という意味の挨拶です。挨拶だけでもかなり日本語とは違いますね。日本軍は自分たちに理解できない言葉を恐れ、琉球語を使ったものをスパイとして処刑しました。また、台湾、朝鮮、南洋諸島などで日本語の使用を強制し、朝鮮、台湾の学校では、その国の言語を使用した授業を禁止しました。特に台湾では現在90歳代の方々はまだ日本語を覚えているのではないのでしょうか？日本がアジアのリーダーであり、他のアジアの民族は劣っているという差別的な思想が当時の日本には広まっていました。

台湾では沖縄の者が教師として日本語を教えるなど植民地支配に協力しました。実は台湾や朝鮮での日本語教育の方法は、沖縄における日本語教育の結果をもとに実施された様子がみられます。例えば、方言札という札があります。沖縄語を使った子どもにこの札をかけて、放課後まで持っていると言罰をする、というものです。これと同じ方法が朝鮮の小学校（公学校）でも行われました。沖縄人は日本語を修得し日本人になることで、差別から逃れ支配者側に立とうとしたのです。

沖縄県平和祈念公園には、沖縄戦で犠牲になった方の氏名を刻んだ「平和の礎」というモニュメントがあります。そこには朝鮮の方の名前も刻銘されています。しかし、その大部分は空白のままです。沖縄戦当時、多くの朝鮮人が沖縄に連行され、多くの方が亡くなりました。その実数は本格的調査がないことなどに

より不明です。しかし数千の方がここに刻銘されるべきでしょう。私たち沖縄人は被害だけでなく、植民地支配や徴用工・慰安婦といった日本の加害の面も見なければなりません。しかし、その面が不十分なことが現在の沖縄戦学習の大きな課題といえるでしょう。

### 3. 戦後沖縄と米軍統治

沖縄戦の結果、沖縄は米軍が統治することになりました。米軍は沖縄戦のときに、住民を収容所に隔離し、その間に多くの土地を接収し軍用地にしました。1949年に中華人民共和国が成立したことや1950年に朝鮮戦争がはじまったことにより、沖縄の恒久的な軍事拠点が進められていくことになりました。1953年にサンフランシスコ平和条約により米軍統治が決定的になると、部隊の拡大や訓練地の拡張をするために、「銃剣とブルドーザー」という強圧的なやり方で土地を接収していきました。銃剣を突き付けて住民を制止させ、ブルドーザーで家・畑をつぶしフェンスで囲っていきました。かつて沖縄随一の水田地帯だった宜野湾の伊佐浜という地域は、1956年に強制接収され現在もこのように米軍基地として使用されています。それに対し、沖縄の住民は「島ぐるみ闘争」という大規模な反対運動をおこしました。これ以後、沖縄では米軍の統治を否定し、日本にもどる「復帰運動」がおこるようになります。

1965年にアメリカ軍がベトナム戦争に本格的に参戦しました。ベトナム戦争において沖縄の米軍基地は最大に拠点となりました。例えば浦添市にあるキャンプ・キンザーは「ミサイルからトイレトペーパーまで」が集積・保管され、ベトナムへと輸送されました。嘉手納飛行場からは戦略爆撃機B-52が飛び立ちました。米軍基地が活発化するなかで、基地での雇用や米兵を相手とした飲食業を中心に、経済が活発化します。「ベトナム景気」と呼ばれました。しかし、ベトナム戦争がアメリカにとって正義のない戦争であること、戦争の残酷さがテレビなどを通して伝わり世界各地でベトナム反戦運動がおこると、沖縄でも反戦運動が活発になります。米軍基地で働く人びとの中にもボイコットするなどの抵抗運動がおきました。ベトナム戦争において、沖縄の人びとは米軍基地をとおしてベトナムの人びとにたいして加害の側に立ちました。そして米兵の事件・米軍機などによる事故など被害の立場にもなりました。そこから軍隊のない島をめざして復帰運動が一気に盛り上がり、1972年に日本に復帰し沖縄県が復活しました。

ベトナム戦争で、米軍は枯葉剤を使用し、現在もダイオキシンの汚染により人々が苦しんでいます。ダイオキシンはベトナム戦争後、沖縄で棄てられた恐れがあります。2013年に基地返還跡地のサッカー場からダイオキシンを含んだ物質が入った大量のドラム缶が発見されました。元米兵には沖縄の近海に棄てた、と証言する方もいます。

冷戦の中で沖縄はアジア最大の核基地でもありました。2017年に日本の公共放送・NHKが作成したドキュメンタリー番組で、米軍の核兵器の運用が明らかにされました。最大時の配備数は1,300発、那覇近海に核弾頭を搭載したミサイルが誤発射して近海に落ちた事故やキューバ危機の際には核ミサイルが発射数秒前だったという事実が放送されました。沖縄の新聞社の取材によると、現在でも核搭載を想定した訓練が行われ、その訓練事故がたびたびおこっているということです。沖縄にとって核は現在も続く問題だと言えます。しかし沖縄ではあまりそのことは意識されません。今回、広島・長崎のみなさんが核兵器

について話してくれることは沖縄にとっても、とても意義深いことだと思います。

2009年から沖縄県平和祈念資料館、沖縄平和協力センターなどが、カンボジアのトゥール・スレン虐殺博物館への平和博物館づくり平和教育普及プロジェクトなどの協力事業を行いました。カンボジアではいまだにポル・ポト政権下における被害が影響を与えていることでしょう。虐殺のために精神的に被害を受けた方がいること、地雷がいたるところに残っているところ、学校や社会教育における平和教育のあり方、など課題があると思います。

沖縄では、いまだに戦争による PTSD に苦しむ方がいます。不発弾がまだ地中に残っており、毎年のように工事現場から発見されます。2020年には小学校のグラウンドからも発見されました。平和教育のあり方も現在、転換する過渡期にあります。戦争と内戦・虐殺という違いはあれ、住民が大きな被害をうけ、その負の影響が残っているところは、おそらく似ているものと思います。

先ほど紹介した沖縄県史のように、沖縄では戦後33年たったころから戦争体験を語る方が増え始め、その膨大な証言を県、各市町村、教育機関、新聞社などが記録としてまとめてきました。その事業は現在も続いています。政府や軍の記録ではなく、住民の視点から見た戦争として研究され、語り続けてきたのが沖縄戦研究・継承事業の特徴と言えるでしょう。そこに平和教育のポイントがあると考えます。戦争 PTSD の患者を多く診察した医師によると、PTSD は話すことによって緩和される、といいます。もちろん、戦争の証言を話すことは苦痛を伴うものでしょう。しかし沈黙し続けることも、また苦痛だということです。ポル・ポト政権による虐殺から50年近くがたとうとしています。住民からの証言を集める貴重な期間かもしれません。その方法などは沖縄戦研究の手法が参考になるのではないのでしょうか。

#### 4. 沖縄の人に知ってほしいこと、沖縄について知ってほしいこと

沖縄と東アジア各国つながりを簡単にまとめました。このように、沖縄は東アジアの歴史と関わりながら変遷してきました。特に沖縄戦や米軍統治は東アジアの国際状況により大きく影響を受けてきました。これは米軍統治下の車のナンバープレートです。そこには「キーストーン オブ パシフィック」、「太平洋の要石」と書かれています。米軍が沖縄をアジア戦略の拠点と位置付けていたことがわかります。そしてそれは、台湾の2.28事件、朝鮮戦争、ベトナム戦争、核兵器の拡大へとつながっていきました。

沖縄は世界、特にアジアの歴史や社会を知り、情報をつかみ、対応していかなければ平和で豊かな島にはなりません。そのために、各国・各地域の方達の交流は非常に意義深いものと考えます。また一方で、沖縄を通して改めてそれぞれの地域の歴史や社会を見直すきっかけになるかもしれません。沖縄を知っていただき、それがまた自分の足元を見つめ直す機会になっていただけるとうれいのです。

戦争や軍の統治という歴史体験から沖縄は最も大切な言葉として「命どう宝」という言葉を訴え続けてきました。「命どう宝」とは「命は宝」という意味です。「命は宝」「命は大切」、当たり前のことだと思っているかと思います。はたして当たり前でしょうか？

人は戦争を始めるときに、戦争のさなかに、国・民族・政治体制・正義をもつ

とも重要なものとして訴えます。そして大きなもののためには小さな命は犠牲になっても仕方がない、と考えがちです。沖縄戦では、住民の命は軽んじられ、広島、長崎への原爆投下は「より多くの犠牲を防ぐため」と正当化されています。済州島 4.3 事件や 2.28 事件、ベトナム戦争でも自由主義か社会主義という「大義」のまえに住民は犠牲を受けました。

小さな子どもや高齢者、障がい者など戦えない者は死んでもしょうがない、女性や子どもは利用されてもしょうがない、市民は軍や政府のために働く、それが戦争の実相です。

そして「大きなものための犠牲」は「かつていいもの」とする風潮があり、たびたびエンターテイメントとして消費されます。しかし、実際の戦場においては、弱い者から犠牲になっていき、そしてその死はいつも無惨で悲しいものでした。国籍・民族・性別・門地・障害の有無・年齢のどんな人でも、ただ生きているということだけでその命が尊重される、という社会を目指さなければなりません。「命どう宝」ということばは、その重い宿題を私たちにつきつける言葉なのだと私は考えています。今回の研修で、この宿題の答えに少しでも近づけるような実りのある交流ができれば幸いです。

以上で私のお話を終わります。ありがとうございました。イッペー、ニフェーデータン。

## 質疑応答

### 方言札をかけられた生徒はどうすればとれるのか。 | 広島

沖縄語を話す別の生徒をみつけたら渡すことができる。そのため、わざと頭を叩いて「あがつ（痛い）」と言わせるという、相互監視な方法をとっていた。この方法は朝鮮でも同じだったと聞いている。

### 沖縄語は現在どのくらい残っているか。また、現在沖縄戦はどのように記憶・継承されているのか。 | 韓国

正確な数字はわからないが、今の50代まではぎりぎり沖縄語を聞くことができる。60代は半分ぐらいの方が話すことができる。40代以下は壊滅的な状況。ほとんど喋れず、聞くこともできず、使えるのはほんの数%ではないかと思われる。2008年にはユネスコが消滅危機言語と認定している。

続いて戦争の記憶について、戦争体験者の方々はみな「もうああいったことは二度としたくない」と口を揃えている。地域によってその体験がさまざまであり、激しい戦闘地域にいた方々は話したくもないという方々もたくさんいらっしゃる。全ての地域で共通するのは、ああいう体験は二度としたくない、ということである。

### 現在の沖縄の人たちは、米軍に対して怒りや恨みはあるか。 | カンボジア

それは複雑。沖縄戦時に米軍に捕まった住民は収容所に入れられたが、食べ物を分けてもらえたり、日本軍のような暴力をふるわれなかったりしたので、沖縄戦が終わった直後は感謝している、という沖縄の人たちもいた。しかしその後の統治下で様々な事件や事故がおき、米軍に対する反対運動の声は大きくなっていった。ただ、沖縄には米軍とよく接する仕事をする人もいる。沖縄の人たちは組織としての米軍に対する反対の声は強いが、アメリカの兵士個人個人とはフレンドリーに付き合いたいという、複雑な感情を抱いているのではないかなと思っている。

### 米軍に対するイメージについて、沖縄戦を体験した方と、現在の若い世代では、その考えや思いは異なるか。 | 台湾

軍の支配下で生きてきた人たちは基地をなくそうという思いが非常に強いと思う。しかし沖縄が日本復帰して50年が経とうとしている。若い人たちにとっては米軍や米軍基地があるのはもはや当たり前になっている。そこからいろいろな歴史を学ぶと、おかしいと考えるようになる人もいる。ただ、沖縄の歴史を勉強しない子たちにとっては基地がある風景は当たり前という感じではないかなと思う。（大城先生）



自分たちの世代は実際の沖縄戦も、その後の米軍統治下も、日本復帰後に基地が押し付けられた時代も知らない。この知識は自ら学ぼうとしない限り手に入らないもので、今それを知るのには壁があると感じている。しかし2004年には自分の大学に米軍ヘリが墜落したという事故があり、その後も小学校や保育園で部品落下などが起きている。このような事件・事故で米軍について考えるタイミングがあることはある。ただ、向き合っても変わらない現状が続く限り、この問題について考える人は減っていくと思う。(沖縄チーム)

**ベトナム戦争時に米軍基地相手に飲食業が栄えたという話があったが、現在の米軍と沖縄県の経済状況のつながりはどうか。 | 長崎**

ベトナム戦争時は本当に儲かったと聞いている。現在は、当時に比べると火が消えたような感じかと思う。ベトナム戦争時の出撃地として嘉手納基地があるが、この基地の周辺は大変栄えていた。今では閉店した店も多く、近くの商店街も閉鎖されてしまった。もう一度街を復活させようという動きはあるが、ベトナム戦争時に比べたら火が消えたようになってしまった、と、当時を知る人から聞いている。

**海外の学生に向けて質問したい。沖縄戦の最大の教訓として軍隊が住民を守らなかったことが挙げられるが、みなさんの地域での戦争体験等を学ぶうえで、自国の軍隊についてどんな考えを持ったか。 | 沖縄**

軍隊は外から自分の国民を守ることが使命である。しかし台湾の2.28事件では軍隊の武器は外の敵ではなく中の住民に向かっていった。それ以来一部の人々に軍隊に対する不信感が生じた。政府は時間をかけて軍隊の役目を改めて国民に説明する必要があった。台湾では兵役の義務がある。そこで軍隊の役目を勉強したり体験したりして、人々は軍隊が台湾にとって重要な存在であると認識しつつある。これは私たちが学んだ貴重な経験となっている。(台湾)

台湾と同じく、軍隊は国や国民の命を守るのが本来の軍隊の機能だが、クメール政権ではそうではなく、当時の軍人にとって国民は彼らの奴隷や邪魔者のような感じで、国民が自分たちの政策に沿わなければ一方的に排除した。(カンボジア)



国を守るためには軍隊が必要。平和を守るために軍隊と警察は必要だと思う。(ベトナム)

韓国は長い間軍事政権が存続してきたが、1993年に初めて民間からの政治家が大統領になる時代に転換した。それまでは軍が国を統治することが当たり前だった。今成人男性は兵役の義務があるが、1980年代以降の民主化、大統領の直接選挙などの影響に伴って徐々に軍に対する認識が大きく変わってきた。(韓国)

**吉永小百合が出ていた沖縄の映画に空襲を受けるシーンがあったが、空襲はどのくらいあったのか、また、防空壕の中で青酸カリの投与などで亡くなった方のご遺体はどのような処理がなされたのか。 | 長崎**

沖縄戦の1年前の1944年の10月10日に、那覇を中心に大規模な空襲があった(10・10空襲)。沖縄戦時も船による艦砲射撃、飛行機の低空飛行による機銃掃射、さらに陸兵による火炎放射器や機関銃という戦法がなされていたので、その描写は当たっていると思う。

遺体について、日本軍が来たら住民はガマの外に追い出されてしまい、多くの方がガマの外で亡くなった。そのような遺体は戦後3年ほど経った頃に住民の方々が遺骨を収集し様々な慰霊碑に納めている。今は沖縄戦没者墓苑で一括して管理をしている。ただこれはガマの外にある遺体で、ガマの中にある遺体は内部が危険なためまだ発掘されていなかったり、そもそもガマ自体が発見すらされていなかったりして、遺骨がそのままになっているところもたくさんある。

**ベトナム戦争では子供もゲリラ兵として参加したが、親と一緒にだった。沖縄戦における子供の参加は志願か、それとも強制か。 | ベトナム**

今の15歳から19歳の子供たちが通う学校は当時中学校と呼ばれていた。中学校に通う子供たちは学校単位で先生が引率し入隊して戦争に参加したりした。男の子は軍隊に入り爆弾を運搬したり兵士とともに突撃したりした。女の子の場合は病院の壕で患者の面倒を見る看護婦の役割をした。一応志願というかたちにはなっているので、軍隊に入りたくなくて家族の元に帰った学生もいる。しかしほとんどの場合は半分強制的なもので、抜けようと思っても先生から卒業させないと言われてたり、心理的なプレッシャーがあったと聞いている。そのため一応志願のかたちは取るが、何らかの強制性があったと言えるかと思う。15歳以下の子供たちに関しては、大体は戦闘に参加してはいない。しかし逃げている時に軍隊の人や地域の偉い人に手伝わされるパターンはあった。また、北部では14歳の子が軍の命令でゲリラ戦を行ったという証言もある。これは各



地域でいろんなパターンがあって非常に複雑だが、とりあえず14歳以下の子供たちが兵隊にとられるということはなかった。

### 沖縄戦後、沖縄はアメリカの一部になったが、どのように日本は沖縄を復帰させたのか。 | ベトナム

これだけで本が一冊かけるくらい複雑な話だが、簡単に説明すると、まず沖縄の人々が日本に戻りたいという意見を強めて運動を続けてきたことがあげられる。日本には人々の人権や平和に関する憲法があったため（日本国憲法）、人々はこの憲法が適用されることを強く望んだ。そのために沖縄の人々は米軍に支配されている間もずっと復帰運動を続けていた。さらに言えば、アメリカもベトナム戦争で資金が尽きており、沖縄を支配することよりも日本に戻す方が楽だったという状況もあったようだ。それ以外にもいろいろ複雑な国際状況があるが、前述のように非常に複雑なのでここでは省かせていただく。

### 沖縄には米軍統治下でいろいろな文化が入ってきているが、戦後に生まれたチャンプルー文化があれば聞きたい。 | 広島

沖縄の食文化は大きく影響を受けた。例えば沖縄のスーパーでは日本本土にはない外国のチョコが買えたり、牛乳1パックが1Lではなく946ml（1/4ガロン）で売られていたりする。また、日本本土とは違う、沖縄にしかないファストフード店としてA&Wなどがある。加えて、沖縄の人はステーキを食べる時にA1ソースを使っていて、絶対これしか使わないという人もいる。このような点で食文化が沖縄のチャンプルー文化かなと思う。（沖縄チーム）

食文化が一番影響を受けているかと思う。意外にも日本で初めてのファストフード、宅配ピザ、炭酸飲料の販売は沖縄だったりする。このようなデリバリーやドライブスルーなどの食文化に関することについては、アメリカからの影響を受けたものが多い。（大城先生）



### (3) 2日目 沖縄県内視察、各地域発表（広島、台湾、ベトナム）

#### 【視察 沖縄県平和祈念資料館】

沖縄県平和祈念資料館の職員による案内のもと、参加者は同資料館の展示室を視察した。視察では、参加者が真剣な眼差しで展示資料を読んだり職員の説明に聞き入る姿が見られた。第3室では、ガマのジオラマに入り、当時住民が鉄の暴風から身を守るために避難していたことなどが職員から語られた。

また、第4室では、参加者は設置されている証言集を一枚一枚めくって証言を読んでいた。



#### 【講話 沖縄県平和祈念資料館友の会 副会長 上原美智子様】

戦争体験者である、上原美智子氏より、沖縄戦が始まる前の沖縄そして沖縄戦中の沖縄について講話をいただいた。上原氏からは、沖縄戦当時幼かった上原氏は、父が軍にとられていたために、母親と自宅近くの壕に避難するも幼子の弟が泣くため、壕を出ていなければならなくなった話や、沖縄の北部に避難したことで命からがら、生き延びることができたなどの体験を共有いただいた。

参加者は講話に聞き入っており、沖縄戦の実相をより具体性をもって感じることができた。



#### 【視察 平和の礎】

講話の後、沖縄県平和祈念公園内に設置されている平和の礎を実際に見ながら、平和の礎について説明が行われた。

平和の礎には、沖縄戦の戦没者が国籍を問わず刻銘されておりその数は24万名以上にのぼり、公園の中央に設置されている平和の灯は、座間味村で採取した火と、広島市の「平和の灯」と、長崎市の「誓いの火」を併せたものであることなどが説明された。

参加者は、説明を聞きながら、礎を見ている。





## 広島 テーマ：広島県における原爆投下

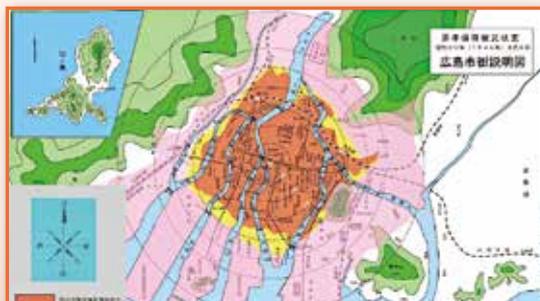


広島チームからは、広島への原爆投下による被害について、軍都としての広島の加害の面について、そして現在の広島についてお話しします。



アメリカは1942年から国をあげて原子爆弾の開発をしていました。その実験が成功したわずか21日後の1945年8月6日午前8時15分、広島市に一発の原子爆弾が投下されました。この原爆によって、広島では、その年の12月末までに約14万人(±1万人)の人々が犠牲になったと推計されています。当時広島には日本が植民地として支配していた朝鮮・台湾・中国大陸から移り住んだり、強制連行されたりして日本に来ていた人や、東南アジアからの

留学生、捕虜となっていたアメリカ兵などの外国人もいました。これらの人々もひとしく原爆の惨禍に遭いました。



爆心地から2km以内の、図に赤茶色で示されている範囲の建物は全壊・全焼しました。ひとつの家族が全員亡くなることも珍しくなく、住民を特定する書類なども燃えてしまったため、正確な死者数を把握することが難しくなっています。



ここからは、原爆によって起こったことを、いくつかの特徴に分けてお話しします。



原爆は炸裂すると一瞬で巨大な火の玉になり、強烈な熱線と放射線が一気に発せられます。頭上に小さな太陽が現れたようなものですから、地表の温度は3,000℃から4,000℃にもなり、これが人間の皮膚に一瞬で重度のやけどを負わせます。これは救護所の様子です。



広範囲に重いやけどをするため、皮膚がはがれてしまいます。やけどの跡はもとの皮膚のように戻りづらく、「ケロイド」という皮膚が赤く盛り上がった状態になりました。ケロイドは痒みや痛みを伴うほか、突っ張ってしまって動かしづらくなってしまったり、指と指がくっついてしまうといった機能的な障害をもってしまうたり、その見た目から気味悪がられることもあり、特に若い女性には大きな精神的負担にもなりました。



一瞬の熱線の次にやってくるのが爆風です。当時の日本の建物、特に一般市民が住む家は木造で木と紙でできていたために、家は一瞬で爆風に押しつぶされ、外にあったものや人は吹き飛ばされ、割れて飛散したガラスやさまざまなものが銃弾のように飛んで人の体に突き刺さりました。



一瞬の熱線と爆風による破壊のあとは、火災が街を焼き尽くしました。建物に押しつぶされて抜け出せない人は生きたまま焼かれました。これは日本の方は「裸足のゲン」などで印象的なシーンではないかと思います。自力で抜け出せた人も火の手に追われ、自分の親、子ども、きょうだい、友達を置いて逃げるしかありませんでした。この体験は、戦後も「自分が見捨てたんだ」という罪の意識となって被爆者を苦しめました。



原爆は、投下直後だけでなく、継続的な被害を与えて被爆者の一生に大きな影響を与えています。その原因のひとつが放射線障害です。放射線による影響には、次のようなものがあります。

まず、急性放射線障害です。大量の放射能を体内に取り込んだことが原因で、脱毛や吐血などの症状が現れ、外傷がなくても死に至ることがあります。これは疫病なのではないかと言われていましたが徐々に市民の間で「原爆症」と呼ばれるようになり、有名な言葉だと思えます。

さらに、被爆後、何年、何十年と経ってからも白血病やがんを発症することがありました。いつ自分が病に侵されるかわからないという不安をうみ、それが一生付きまといます。

そして、日常的な体への影響もありました。放射線被爆が原因で疲れやすくなってしまったり、免疫力が低下してしまったり、傷がなかなか治らないなどといったことがあります。このために仕事が満足にできなくなると、それは貧困にもつながりました。



炸裂時にその場にいた人はもちろん、身体になんら被害を受けなかった人も原爆による放射線で被爆しました。そのケースの一つが「黒い雨」による被爆です。黒い雨とは、原爆投下後しばらくしてから広島市の広範囲に降った放射性物質を多く含んだ黒っぽい雨のことです。熱線や爆風、火災などの被害を受けなかった人々も、この黒い雨を浴びたり、雨の混ざった水や食品を口にしたりしたことによって被爆しました。この「黒い雨」被害は「黒い雨訴訟」として今年まで続く問題となりました。これについては後ほど説明します。これで広島被害についての説明を終わります。



次に、広島に加害の面についてお話しします。広島は軍都として栄えていました。広島城周辺や宇品近辺には軍用施設が多くありました。これから、広島と軍について紹介していききたいと思います。



1894年の日清戦争開戦直後、大本營（軍の最高司令官である天皇が戦争指揮を行う場所）が広島に移り、明治天皇がやってきて臨時首都となっていました。日本にとって天皇は、特別な存在であったため、これはとても大きな出来事でした。この左の写真は、昭和初期の大本營の写真です。明治天皇は7か月ほど広島に滞在し、その後は「大本營跡」としてこの建物は永久保存され、一般公開されて多くの人を訪れていました。しかし原爆投下によって、この木造の大本營跡は全壊しました。現在は右の写真のような姿となっています。



宇品には、通称暁部隊と呼ばれる陸軍船舶司令部がありました。日清戦争頃から、宇品港は何百万人もの兵士や物資を戦地に送り出していました。そのため宇品周辺には軍用地が多くありました。



写真は宇品凱旋館で、宇品港から出征・帰還する兵隊や、戦争で負傷した軍人が集合したり、それらの人を労ったりするための施設でした。



この写真にあるのは旧陸軍棧橋跡です。この棧橋は戦時中多くの兵士を送り出した一方で、多数の遺骨の帰国も迎えたものです。宇品港から多くの物資や兵隊を乗せた船は、サイゴンやガダルカナル島など、多くの戦地に向かいました。その途中に攻撃され、多くの兵隊を失ったこともあります。



日清戦争・日露戦争によって、広島市内の軍事施設は急増しました。

中でも、陸軍三廠（糧秣支廠、被服支廠、兵器支廠）と呼ばれる施設は軍需生産という面で日本軍に貢献していました。今から、陸軍三廠のうちの1つについて紹介します。地図の赤い丸で囲まれているところは、糧秣支廠という施設です。宇品陸軍糧秣支廠缶詰工場というのが元の名称です。明治44年につくられ、戦時においては兵隊の食料や、軍馬の餌を製造・調達・補給するための施設として重要な存在でした。主に、缶詰工場では牛肉の大和煮缶が作られていました。



この写真は、肉詰め作業をしている様子です。



爆心地から約4.6kmのところはこの建物がありました。原爆投下による爆風によって、屋根を支える鋼鉄製の垂木が内側に折れ曲がるなどの被害を受けましたが、建物自体の倒壊は免れました。



現在は広島市郷土資料館として使われており、広島市重要有形文化財にも指定されています。この写真がその広島市郷土資料館です。今回は紹介しませんが、被服支廠・兵器支廠という施設も陸軍三廠の中に含まれています。これらの施設は、重工業化の進展や軍需品の調達という面で重要な機関でした。宇品の存在は、日本の戦争を考えるうえで欠かせないものだと思います。広島にはたくさんの軍用施設があったこと、多くの軍人が関わっていたことなどを考えると、学ぶべきことが多いと感じます。これで加害の面に関する発表を終わります。

**被爆者への保障**

- ・被爆者に継続される支援  
(直接被爆者・入市者・救護や死体処理等に従事した人・胎児)

広島県被爆者支援課

被爆者健康手帳の配布

医療特別手当・特別手当・原子爆弾小頭症手当・健康管理手当・保険手当・介護手当・葬祭料

ここからは、広島は今についてお話しします。現在も、放射線被害などに苦しむ被爆者への支援が、継続して行われています。被爆者援護法に定める「被爆者」と定義された人々に公布される、被爆者健康手帳を所持することによって、様々な手当を受けることができます。被爆者援護法に定める「被爆者」には、直接被爆者・入市者・救護や死体処理などに従事した人・胎児の4通りが含まれており、手当には、医療特別手当・特別手当・原子爆弾小頭症手当・健康管理手当・保険手当・介護手当・葬祭料の7つがあります。

**被爆者への保障**

- ・被爆者に継続される支援

医療手当・特別手当・原子爆弾小頭症手当・健康管理手当・保険手当・介護手当・葬祭料

- ・医療手当  
原爆が原因で傷病状態にある人  
月142,170円
- ・健康手当  
11の障害(脳血管障害・白内障など)にかかっている人  
月34,970円

例えば、原爆が原因で傷病の状態にあるという厚生労働大臣の認定を受けた人で、現にその傷病の状態にある人(認定被爆者)は、医療特別手当として、月142,170円を支給されています。また、貧血症、糖尿病、脳出血などの私たちの知っている病気に対して健康管理手当としては、月34,970円が支給されています。これは原爆とは明らかに関連がないものについては手当が支給されませんが、現在も、多くの人が手当を受け取っています。しかし、この

ように被爆者への支援の制度が整えられた一方で、被爆者健康手帳を交付する範囲について、戦後76年経つ今年まで、裁判が行われてきました。それが、先ほど話した「黒い雨訴訟」です。「黒い雨訴訟」とは、原爆投下直後に降った「黒い雨」を浴びて健康被害を受けたとして、広島県内の男女84人が被爆者健康手帳の交付を求めた訴訟であり、政府は原告全員を被爆者と認めた広島高裁判決について、上告を見送ることを今年決めました。つまり、黒い雨を浴びたことを認め被爆者として扱う範囲の広域化を決めたということです。

**平和学習**

- ・原爆死没者名簿奉納
- ・黙とう・平和の鐘
- ・平和宣言
- ・平和への誓い

・8月6日の様子  
平和公園



続いて広島の平和学習についてお話しします。広島では、毎年、原子爆弾の落とされた8月6日が重要視され、8月6日に合わせて様々なイベントが取り行われます。中でも8月6日当日は、平和公園で平和記念式典が開催されます。ここに掲載されている写真は今年の写真で、新型コロナウイルス感染拡大中なので規模が縮小されていますが、感染拡大前は、各国から代表者が集まり、黙祷、広島市の小学生による平和への誓い、広島市長による平和宣言などが

行われます。2019年、新型コロナウイルス感染拡大前は、5万人の参列者がヒロシマを訪れています。広島では、『ヒロシマの被爆体験を原点として、世界恒久平和の実現に貢献する意欲や態度を育成すること』を目的とした平和教育が、主に小学生を対象として行われています。

### 平和学習

・8月6日の様子  
学校 豊校日

#### ・平和学習

- ・目的 ヒロシマの被爆体験を原点として、世界恒久平和の実現に貢献する意欲や態度を育成すること
- ・対象 小学生
- ・内容 1945年8月6日にヒロシマで何が起きたのか、ヒロシマは被爆後どのように復興したのか
- ・成果 ヒロシマに原子爆弾が落とされた日時を正確にいうことが出来るようになり、戦争の悲惨さを感じる

### ひろしま平和ノート



被爆体験の継承が問題となる中、広島市独自の教材として、「平和ノート」というものを利用しています。1945年8月6日にヒロシマで何が起きたのか、ヒロシマは被爆後どのように復興したのかについて学び、いかに戦争が恐ろしく、原爆が悲惨なものであったかを学びます。授業の一環として、被爆者の方から被爆体験を伺ったり、原爆に関するビデオを視聴したりします。また、8月6日は夏休み中ですが、登校し、テレビで放送される平和記念式典を見て全校生徒で千羽鶴を折ります。広島での平和教育を通して生徒は広島に原子爆弾が落とされた日時を言うことができ、戦争の悲惨さを感じます。個人的な話になりますが、私も広島で平和教育をうけ、広島で何が起きたのかを何度も学び戦争の恐ろしさを感じてきました。しかし今ではこれは広島の被害に過ぎなかったと感じています。広島に住む学生として広島の出来事を知り、理解を深めることは重要ですが、広島の被害に重点を置き過ぎた結果、比較は不

可能にもかかわらず広島の被害が一番大きかったのだと勘違いしてしまいます。また、広島の学生は広島の被害についてはさまざまなことを話すことができますが、例えば東京大空襲や沖縄の地上戦、長崎の原子爆弾による被害、日本以外の国での被害などについては、ほとんど知識がない人が多いです。広島で教育を受ける学生として広島で何が起きたのかを知ると同時に他県の被害・他国の被害を知り、戦争についてより知識を深め、知識に止まらず平和のために何ができるのかを考えることが必要だと考えます。そして多方面から戦争について考えることが今の広島の平和教育の課題だと考えています。



広島チームからは、広島の被害、加害、現状の3点についてお話しました。被爆地広島がその加害について話す機会は少ないので、貴重な経験となりました。

ありがとうございました。

## 質疑応答 ◆広島県における原爆投下

**Q** 広島市郷土資料館について、建物の倒壊は免れたとのことだが、同じエリアにあった他の建物の状況はどうか。 | 沖縄

**A** 木造の建物であれば全壊・全焼していると思う。ただ、原爆ドームのような強い骨組みの建物は残っている。他にも銀行など、当時としては珍しかった鉄筋コンクリート製の建物は現在も被爆建物として市内に残っている。何かを保管したり製造したりしていた建物は強い構造になっていたため、全壊・全焼の範囲にあっても残ったのだと思う。

**Q** 小学校の頃佐々木禎子さんという方の物語を知り、私はとても感動したが、みなさんはこの物語についてどのように思っているか。また、広島のみなさんはこの話を学校で勉強したことがあるか、あるいは家族から聞いたことがあるのか知りたい。 | ベトナム

**A** 佐々木禎子さんとは、幼い頃に被爆して小学生の時に白血病で亡くなった方で、彼女が長く生きたいと言う願いを込めて折り鶴を折った、という話がある。その後クラスメイトが募金を集め、佐々木さんの像を平和公園に建て、今では平和の象徴と折り鶴が世界から届けられるようになった。私は小学校の頃に学校でこの話を習った。当時6年生ぐらいで習ったが、低学年の生徒に向けて紙芝居を作ったり、生徒同士で教え合ったりしていた。像が公園内でもよく見えるところに設置されているので、この物語についてはよく話したりする。

**Q** 広島の子が広島以外の被害についてあまり知らないという話があったが、長崎にも同様の課題があると感じている。さまざまな戦争について多方面から学ぶ機会が必要とのことだったが、何か具体的な活動や例があれば教えてほしい。 | 長崎

**A** 今参加しているこの事業も、多方面から戦争を知ることが可能にする活動だと思っている。小学校の頃に長崎を訪問したことがあるが、それは広島の子だから、という点が大きかったと思う。まずは広島・日本のことだけでなく、このような歴史を知るといった機会を学校の教育にとり入れることが大事なのではないかと思う。



## Q 放射線の影響は今もあるか。また、今も黒い雨は降るのか。 | カンボジア

A 放射線の影響は今全くない。黒い雨については、まず原爆が炸裂すると地上のいろいろなものが放射化され、一度空気が外側に流れて中心の気圧が薄い状態になる。そこに一気に空気が引き戻されて空気が上昇し、細かな煤や埃を含んだ空気が放射能とともに巻き上げられていく。これにより大きな雲ができ、さまざまなチリが混ざって黒っぽくなった雨となり地表に降ってくる。これが黒い雨である。原爆投下後の一時的な現象なので、この雨はもう降らない。

## Q 加害の側面に対する意識や平和教育の多様化といったことは、広島チームとしての考えか、広島全体としての立場か。 | 韓国

A 加害の面については、詳しく調べていくとわかってくるのが現状なので、小学校や中学校で教育として行われているということではない。広島の平和教育については、平和ノートが日常の平和について取りあげ始めるなど、変わりつつあるのが現状。





# 台湾 テーマ: 2.28事件

令和3年  
「平和への思い」発信・交流・継承事業  
オンライン共同学習  
台湾組



みなさんこんにちは。  
私たちは台湾政治大学日本研究学科修士課程の学生です。メンバーはこの5人です。  
今日は皆さんに台湾の2.28事件についてお話したいと思います。

自己紹介



228事件の背景

1945年第二次世界大戦が終わり、台湾はカイロ宣言により日本から中華民国に帰還された。



2.28 事件を紹介する前に、まず簡単に戦後の台湾の歴史、2.28 事件の背景や経緯について説明します。1945 年に第二次世界大戦が終わり、日本は敗戦国となり、日本に植民統治されていた台湾も敗戦国になりました。しかし蒋介石を指導者として、国民政府が台湾を接收し、台湾は敗戦国からあつという間に戦勝国になりました。そして、台湾はカイロ宣言により日本から中華民国に返還され、台湾の人々にとって 50 年の日本統治時代がついに終わりました。

台湾人は祖国、つまり中華民国からの接收を非常に楽しみにしていました。しかし、もともとの考えと違い、接收された後はさまざまな問題がでてきました。

中華民國內政問題

官僚の汚職の件が多い、国民連は不満だった。  
国民党と共産党との内戦のせいでインフレがひどくなった。



問題のひとつは、中華民国の内政問題です。国民政府の行政長官は、行政・立法・軍隊など、全ての権限をもっていました。そのため当時の台湾に来た国民政府の官僚の汚職がとて多かったです。さらにその時期に中国大陸で国民党と共産党の内戦がまだ続いており、国民党の物資や生活必需品などが不足し、これらのものが台湾から輸送されていました。それにより台湾での物資や生活必需品が不足しがちになり、ひどいインフレがおきました。

### 経済活動の限りと種族の矛盾

当時の政府は色々な事業を独占し、台湾人の経済活動が制限された。

台湾人は公職に就くことができず、外省人(アウツサイダー)の教育レベルも台湾人より低かった。



経済活動の制限と種族の矛盾についてご紹介します。

戦後台湾では日本統治時代の専売制度に基づき、国民政府が設置した台湾省行政長官公署は、たばこ、お酒、砂糖などの専売権を所有しました。先ほど述べたように、当時の国民政府に権限があったため、様々な事業を独占し、台湾人の経済活動が制限されました。台湾人は公職に就くことができず、公職の担当者はほぼ外省人でした。しかし、外省人の教育レベルはほとんどの台湾人より低かったです。

### 228事件の口火

・1947年2月27日、闊タバコを捜査していた憲兵は銃を撃ち、人を殺した件。



1947年2月27日、台北で闊タバコを売っていた店員とそれを調査していた憲兵が衝突し、憲兵は威嚇するために銃を撃ちましたが、謝って周囲の人を殺してしまう事件が起きました。この事件が228事件の口火となり、翌日には大きな抗議デモが始まりました。

### 台湾各地の抗議デモ

・1947年二月二十八日、各地の本省人は抗議デモを行うが、当時の政府に武力で鎮圧された。



1947年2月29日、台北、基隆、台中、嘉義、台南及び高雄等の所で抗議デモが益々激しくなった。



1947年2月28日、台湾各地の本省人が抗議デモを行いました。当時の国民政府に武力で鎮圧されました。2月29日、台北、基隆、台中、嘉義、高雄などの場所で抗議デモがますます激しくなりました。228事件は台北での抗議デモだけではなく、その規模は台湾全土に拡大しました。

### 陳儀&228事件委員会

当時の行政長官陳儀は表で228事件で台湾人の条件を認めましたが、裏には軍隊を台湾に派遣し、台湾人を鎮圧した。



当時国民政府は228事件に対する処置として、行政長官 陳儀は、表面上は228処理委員会で台湾人の要求を認めましたが、裏では蒋介石に対し台湾に共産勢力があり、抗議デモが起きているとして、中国大陆から軍隊を派遣し、台湾人の抗議を鎮圧しました。

## 1947年嘉義市三二事件

### 本省人と外省人の間の衝突

人々は警察署を囲み、銃を奪い、外省人や公務員を襲いました。

### 講和の失敗

嘉義市で市民大会を開き、2.28委員会を組織した。講和の失敗により、民兵は地方の政府軍や空港を襲い始め、他所から来た人々は次第に嘉義につき、戦局を支援しました。その中には学生や原住民も少なくありませんでした。

### 終わり

政府軍の支援は台湾に到着し、民兵を潰し、奪われた武器を回収されるとともに、嘉義市が戒厳状態に入ったことで社会秩序が元に戻り、3.2事件は終わりました。

1947年の嘉義市の3.2事件を紹介したいと思います。2.28事件は台北からの抗議デモですが、台湾の他の年でも激しい抗議デモがあり、特に台湾南部の嘉義で起きた3.2事件は其中でも最も長い抗議デモでした。1947年3月2日に起きた本省人と外省人が衝突した事件で、人々が市長官邸を囲みました。本省人は警察署を囲み、銃を奪い、外省人や公務員を襲いました。嘉義市委員会長は市民に講和を認めましたが、結局は失敗となり、嘉義市で市民大会を開き、2.28委員会を組織しました。その一方で、講和の失敗により、民兵は地方の政府軍や空港を襲い始め、他所から来た人々は次第に嘉義につき、戦局を支援しました。その中には学生や原住民も少なくありませんでした。この抗議デモは10日以上続きましたが、政府軍の支援が台湾に到着し、民兵を潰し、奪われた武器を回収されるとともに、嘉義市が戒厳状態に入ったことで社会秩序が元に戻り、3.2事件は終わりました。

## 沖縄人の被害者

日本統治時代に台湾と沖縄の交流が頻繁し、基隆の平和島でさえも沖縄人の集落があった。

中華民国は台湾を統治した後、島内の日本人を敵視し、日本人は中国語ができないという理由で、政府は平和島に住んでいた沖縄人を殺しました。



2.28事件についてまだ深く知られていない人が存在します。それは基隆にいた沖縄の人たちです。日本統治時代に台湾と沖縄は頻繁に交流があり、特に基隆との交流がもっとも盛んで、基隆の平和島というところには沖縄人の集落さえありました。一方で、中華民国は台湾を統治した後、島内の日本人を敵視し、日本人は中国語ができないという理由で、政府は平和島に住んでいた沖縄人を殺しました。

## 228事件の影響と今の台湾政治の姿



台湾民衆の中で228事件や戒厳期間の被害者の家族が多い。彼らは移行期正義が目標として国民党を対峙している。



これまでに2.28事件の背景・過程・結果についてお話しましたが、今から2.28事件の影響と現在の台湾の政治についてお話します。まず、今の台湾の政治状況を少し説明します。簡単に言えば、国民党と民進党の両党は2.28事件に対する考え方がかなり違います。国民党は2.28事件が発生した大きな原因は、戦後失業者が増え、国内戦で台湾の民生と経済が崩壊し、陳儀が指導者となった政府の汚職が多かったからだと言っています。

また、2.28事件は種族衝突ではなく、役人からの圧迫で衝突が起きたとされています。したがって、今後は2.28事件のような衝突事件をさけるため、政府は汚職などの不正を行わないと決意しました。一方で、民進党側は、2006年の2.28事件責任記録報告によると、2.28事件は国民政府の無能さが原因で、民衆が反抗して結果的に政府の暴力を受けることになったとしています。また、民主と自由への憧れだけではなく、外来政権への反抗でもあったと述べました。次に、移行期正義について話したいと思います。これは権威主義的統治から民主主義へ移行した社会が過去に行われた人権侵害に対して、責任者の処罰や被害者の名誉回復を行ったり、旧時代から続く不正や弊害を抱えた制度を正したりして、公平と正義を実現することを指します。民進党の中には、2.28事件や嘉義事件の被害者の家族が多く、彼らはこの移行期正義を目標として国民党に対峙しています

### 時間推移下の228と平和への思い

- 国民党と民進党の政党交代の下で立場が違いため、政策が進め難い。
- 228事件が現代台湾の政治と平和に深刻に影響する。
- 私たちは228事件の被害から反省し、台湾人の平和に対する意識を呼び起こそうと思っている。



2.28 事件から 70 年以上経ち、長い年月の中でこの事件はどう解釈されたのでしょうか。政治の面では、国民党と民進党ではそれぞれこの事件に対する定義や立場が違っていたことがわかりました。台湾は長年にわたりこの両党の政治が行われ、政権交代の下で立場が違いため、この事件における政策はなかなか進められませんでした。その結果、2.28 事件が現在の台湾の政治と平和に深刻な影響を与えました。先人の労力があるからこそ、我々の世代は今自由や

民主の社会で生活することができます。最後に私たちは、この事件の被害を反省し、台湾の平和に対する意識を呼び起こそうと思っています。今台湾では 2.28 事件について語られた映画・ドラマ、Youtube などの動画を通じて台湾の人々に平和と歴史が伝えられています。この悲劇を繰り返さないために、事件の歴史を学び、教訓を次の世代に継承し、無関心な人々に平和を伝えられるよう努力していきます。



[台湾チーム作成のビデオクリップ放映]

ビデオを見ることで、台湾の 2.28 事件や 2.28 事件への平和への思いを深く理解できるのではないのでしょうか。

これで私たち台湾チームからの発表を終わります。ご清聴ありがとうございました。

## 質疑応答 ◆2.28事件

- Q** 1) カイロ宣言とはどのようなものか。  
2) この事件の被害者はどのくらいいたか。  
3) 事件を起こしたとされる人々への処罰はあったか。 | カンボジア

- A** 1) 第二次世界大戦終結後、当時の中華民国の大統領と英国首相が結んだ平和条約のようなもので、台湾が中華民国に返還されることに関して結ばれたものである。
- 2) 政府の見解によると、死傷者数は1万8,000人から2万8,000人ほどとされているが、丹念な資料や聞き取り調査・分析が十分に行われていないため、おそらくそれ以上いると思う。
- 3) 当時の政府による裁判や賠償は特に行われていない。李登輝総統の時代からそのような対応がはじまった。

- Q** 2.28事件をテーマにした映像作品があるとのことだったが、学校教育の中でそういったものを使うことは、政党が変わることで難しくなるのか。 | 広島

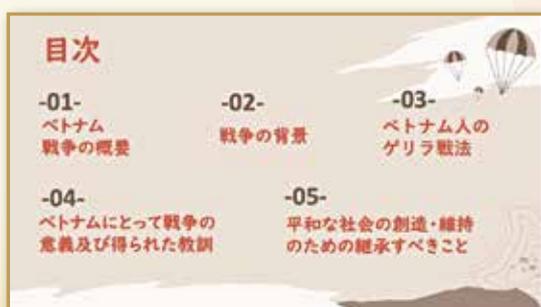
- A** この事件については中学校や高校の歴史の時間で学ぶが、政党が変わるとその部分に関する教科書上の記述が増減する。したがってこの事件を学ぶ上での政治の影響は大きい。



## ベトナム テーマ:ベトナム戦争



みなさんこんにちは。  
私たちベトナムチームからは、ベトナム戦争について発表します。



発表の流れを説明します。  
まず「ベトナム戦争の概要」、つづいて「戦争の背景」、「ベトナム人のゲリラ戦法」、「ベトナムにとって戦争の意義及び得られた教訓」、最後に「平和な社会の創造・維持のために継承すべきこと」という順で発表したいと思います。



ベトナム戦争の概要についてお話しします。



ベトナムは東南アジアに位置する国です。首都はハノイで国名はベトナム社会主義共和国です。



ベトナム戦争は1955年から1975年にかけておきた南ベトナムと北ベトナムの戦争です。当時南ベトナムはアメリカ軍の支援を受けたベトナム共和国で、北ベトナムはホーチミンがリーダーであったベトナム民主共和国でした。戦争の原因としては、アメリカが北ベトナムで形成しつつある社会主義が東南アジアに広がる危機を抑えるためでした。



ベトナム戦争ではハイテク戦争により、枯葉剤やナバーム弾、ヘリコプターを活用したアメリカ軍に対して、ベトナム軍は武器も食品も足りない状態で戦い、勝利を得ました。

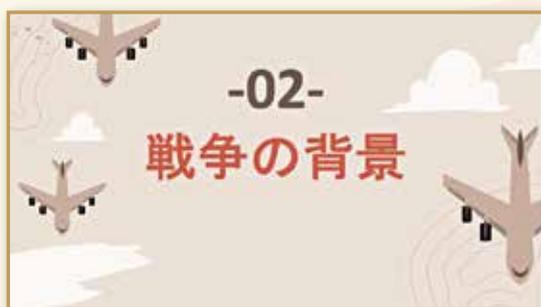


1975年4月30日に南ベトナムのサイゴン陥落をうけ、北ベトナムの勝利が確約しました。



北ベトナム側の兵士がのべ126万人、対する南ベトナム軍・アメリカ軍は200万人が戦争に参加したといわれており、約20万人の死者・行方不明者を出した壮絶な戦争でした。





続いて、戦争の背景について説明します。

1945年に第二次世界大戦が終結すると、フランスは再びベトナムの支配を奪い、南ベトナムに新しい政権を成立させました。フランス軍と北ベトナムが争い、第一次インドシナ戦争が起きました。

8年間にわたるこの戦争は大量の犠牲者を出し、1954年にフランス軍の敗北で終わりました。この時北緯17度線を停戦ラインとして、一時的にベトナムを南北に分けました。



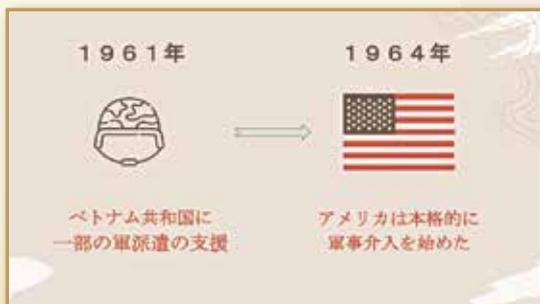
当時のベトナムの背景として、まず1955年にベトナムではゴ・ディン・ジエムという人がアメリカの支援を受け、自ら大統領となって、南ベトナムを「ベトナム共和国」としました。この人物は親米反共の独裁政治を展開させ、ベトナムの南北分裂を深刻にしました。当時のベトナムの背景は次のようになっています。



まず、北ベトナムは社会主義への過渡期に入り、経済・文化・新技術科学を展開しつつありました。そして南ベトナムでは、アメリカがゴ・ディン・ジエムを操り、北ベトナムの民主共和国を破壊しようという陰謀を企てていました。



その後、北ベトナムは、南ベトナムにある「南ベトナム解放民族戦線」の支援をしました。これは南ベトナムの民衆から反政府活動を支持する人々が現れたため、北ベトナムの支援をもとに、1960年に成立した組織です。



1961年、当時のアメリカ大統領だったジョン・ケネディがベトナム共和国に援軍を派遣しました。この時は一部の軍派遣のみの支援でしたが、のちの1964年に、アメリカは本格的に軍事介入を始めました。



では、ベトナムはどのようにアメリカを撤退させたのでしょうか。

ここで取り上げたいのは、南ベトナム解放民族戦線のゲリラ戦法です。超大国アメリカのような軍力と戦うためには、ゲリラ戦が必要と言われていました。



前線がはっきりしない解放戦線は軍服を身につけず民間人と一体化し、ゲリラによる小規模な攻撃のはやさ、撤退のはやさなどでアメリカの主な正規軍と大きく異なっていました。



敵である解放戦線の主力部隊を発見するために、アメリカ軍はパトロールをしなければなりません。少人数のチームに分けられ、農村やジャングルの中を歩かされていました。集団で移動すればするほど、現地の長い経験を持つゲリラたちが仕掛けたわなや地雷に引っかかる危機が増えました。加えて、必需品である銃・弾薬・食品などを一緒にもっていかなければならなかったため、戦うどころか、体を

動かすのも大変で、歩くスピードが落ちてしまいました。

それに対してゲリラは銃や手榴弾しかもっていなかったため、素早い移動と攻撃ができたのです。



このようにして、武器も食料も足りないベトナム軍は超大国アメリカを撤退させました。



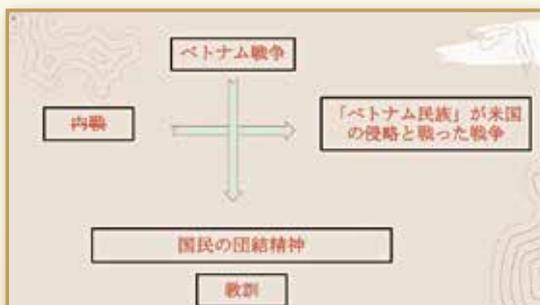
続いては、ベトナムにとっての戦争の意義及び得られた教訓について発表します。

今のベトナムでベトナム戦争は抗米救国闘争とよばれ、ベトナムの南北統一に米国が立ち塞がった時代という意味で、ベトナム社会主義共和国の成立をもたらした戦争であり、現在の共産党政権の正当性の根拠となった戦争です。





ベトナムにとってこの戦争は、極めて犠牲の多い戦争でした。あらゆる立場におけるベトナム側の犠牲者は、ベトナム政府公式の見解で 300 万人おり、行方不明者数は 30 万人に達すると言われています。また、米軍が散布した枯葉剤の後遺症による被害者は 100 万人にのぼるといわれており、2 世・3 世など後の世代への影響も 15 万人に及ぶと言われています。



それでも、愛国心のあるベトナム民族は、兵士に限らず人民でも国家の自由・独立・平和を守るために自分の命をこころよく捧げます。ベトナム戦争は内戦ではなく、ベトナム民族が米国の侵略と戦った戦争であるというのが正当な抗米救国闘争観ですが、この戦争がベトナム人同士の戦いという側面ももっていたことは否定できません。このことから、国民の団結精神がいかに重要かという教訓が得られました。

**-05-**

**平和な社会の創造・維持のための継承すべきこと**

最後に、平和な社会の創造・維持のために継承すべきことについて発表します。

ベトナムは 1991 年に「過去を閉ざし、未来を志向する」という外交スローガンを掲げ、ベトナム戦争参戦国を含むベトナムに軍隊を送り込んだ国々との関係を正常化していきました。



### 戦争が起こらないために

- ・ 戦争の悪影響を宣伝し続ける
- ・ 皆と調和して生き、他国や他民族の文化について理解する



1995年の米中国交正常化をもって、ベトナムは周辺のアジア・太平洋地域の国家との関係を正常化し、経済発展を支える国際関係を手に入れることができました。これは、ベトナムがベトナム戦争を含む過去に拘らない姿勢をしめすものでした。この平和の世界を現在まで維持するために、ベトナム政府は日々努力してきました。

平和な時代に暮らしている私たちは、戦争の痛みを十分に感じることはできません。私たちが目にしているのは作品や歴史を通じた戦争だけですが、それらを通じて、戦争がもたらすのは痛みと喪失だけであると知っています。戦争をおこさないためには、戦争の悪影響を宣伝し続けるべきだと思っています。また、みんなと調和して生き、文化的対立をさけるため、他国他や文化の文化について学び理解すべきだと思います。

ホーチミン市師範大学では毎年、日本の大学がきてくれてフィールドリサーチ、交流会などをしたりしている



日本の大学と交流した

日本語ツアー

具体的に、ホーチミン市師範大学では毎年日本の大学生とフィールドリサーチや、交流会などを行っています。ベトナムと日本の相互理解が深まることも、平和を維持するための事例になります。

ご清聴ありがとうございました

発表は以上です。  
質問・コメントをお願いします。

## 質疑応答 ◆ベトナム戦争

Q

ベトナム戦争では兵力の差がある中ベトナムが勝利をおさめ、それを国民も誇らしく思っているのかなと感じた。この経験により愛国心や国民の団結が今後も継続されていくのかと思うが、日本における戦争で住民の犠牲が大きくなったのは、この愛国心が原因で国民が戦争を肯定し加担したことだと感じている。これについてどう思うか。もし愛国心がベトナムで普及していなければ、戦争の犠牲者はもっと減らせたと思うか。 | 沖縄

A

ベトナム人は愛国心が高い。当時も国を守るためであれば、農家でも医者でも学生でも女性でも、どんな人でも、犠牲になって構わないという気持ちだったと思うので、戦争の犠牲者が増えた要因と言えると思う。

Q

韓国では、文学作品や映画などで韓国軍がベトナム戦争で行った過ち、特にミ・ライ地域での虐殺について、広く伝えられている。今日の発表ではあまり韓国軍による被害について触れられていなかったが、みなさんはどう思っているか。 | 韓国

A

韓国軍がベトナム戦争に参戦していたことについては詳しく知らなかったため、発表にはのせていない。私が小学校・中学校のころにベトナム戦争について学んだ時には、韓国軍の話はあまり聞いたことがなく、ベトナムとアメリカの戦争だと聞いていた。ただ、最近少しずつ韓国軍についても知られるようになったと感じている。

Q

ハノイの中学校を訪れた際、教室の黒板の上にホーチミン氏の写真が飾ってあるのが印象的だった。今みなさんがホーチミン氏に対してどう思っているかを知りたい。 | 広島

A

- 個人的には、ホーチミン氏はベトナムを統一した人なので、ベトナム人にとって大事な人物だと思っている。
- ベトナム戦争に大きく貢献した人なので、尊敬している。
- 感謝すべき人だと思っている。

Q

ベトナム戦争終結した1975年4月30日、南ベトナムの住民の方々の反応はどうだったか。 | カンボジア

A

- 祖母に聞いた話では、北部の軍が南のサイゴンに来て静かに宣言したと聞いている。喜んでいたといった話は聞いたことはないので、あとで祖母に聞いてみたい。
- はっきりはわからないが、発表の中で説明した「南ベトナム解放民族戦線」とよばれる、北部と南部の統一を願う組織がいたくらいだったので、多分嬉しかったのではないかと思う。

Q

ベトナム戦争の犠牲者は約300万人とのことだが、その中にはベトナムの方以外も入っているか。 | 長崎

A

この数字はベトナム戦争で亡くなったベトナム人だけの数で、外国人は入っていない。

1) ベトナム戦争で使用された戦闘機や枯葉剤などは沖縄の米軍基地から飛び立っていて、当時の人は沖縄を「悪魔の島」と呼んでいたと聞いたが、今のベトナムの人は沖縄に対してどのようなイメージがあるか。 | 沖縄

Q

2) 戦争を起こさないためには「戦争の悪影響を宣伝し続ける」とあったが、戦後の悪影響にはどんなものがあったか。 | 沖縄

3) 今もしベトナム政府が戦争をすると決めたとしたら、みなさんは武器をとるか。 | 沖縄

A

1) 今のベトナム人は沖縄を知らない人が多いと思う。先の韓国軍の話についても、韓国がベトナム戦争に参加していたというのは年配の方が知っているぐらいで、若い人たちは知らない。沖縄もこれと同様に、ベトナム戦争に関連があると知らない人も多いので悪い印象はない。

2) ベトナムでは小学校からベトナム戦争・歴史について勉強し始める。ベトナム戦争の悪影響や犠牲者について学んだ結果、平和を守るべきだと考えるようになる。私もベトナムの若者として、平和を守る義務があると思っている。

3) 参加しない方がいいと考えている。ただ、他の国がベトナムに戦いを挑むのであれば、国を守るために私たちはこころよく命を捧げ抜くと思う。

#### (4) 3日目 沖縄県内視察

##### 【視察 ひめゆり平和祈念資料館】

ひめゆり平和祈念資料館では、展示室の視察および学芸課長の古賀徳子氏による講話が行われた。展示室では、掲示されている資料を読んだり、学芸員の説明に耳を傾けていた。

展示視察後には、古賀氏より、ひめゆり学徒が絶対に捕虜になってはいけないと追いつめられていく様や、生存者は自分が生き残ったことに申し訳なさを感じていたなどの講話がなされた。

海外の参加者に対してはひめゆり平和祈念資料館の説明員である尾鍋拓美氏がzoomを利用して館内の展示やひめゆりの塔を紹介し、展示物の内容などについて説明を行った。

参加者からは、どういう背景から解散命令が発せられたのか、戦後に映画などによって学徒隊が有名になっていく中で生存者はどういう心情だったのか、資料館の運営など、多くの質問がなされた。



##### 【視察 沖縄市戦後文化資料展示館 ヒストリート、沖縄市ゲート通り】

参加者は、戦後復興期の沖縄について学びを深めるため、沖縄市戦後文化資料展示館 ヒストリートを視察したのち、ゲート通り散策した。ヒストリートでは、職員の伊佐真一朗氏より、戦後は基地の周辺で米軍を相手にした商売が始まり、人が集まり都市が形成されていった歴史とともに、コザ暴動などに代表される米軍と住民の関係性などについて説明がなされた。

ヒストリート見学後は、参加者は当時の面影の残るコザゲート通りを散策し、嘉手納基地の入り口やインド人のテラー、飲食店などを覗いていた。



## (5) 4日目 沖縄県内視察、各地域発表（長崎、韓国、カンボジア）

### 【視察 首里城跡】

参加者は、3日目までに沖縄戦の実相や戦後復興に学びを深めてきたが、4日目は沖縄戦以前に栄えた琉球王朝や沖縄の文化を学ぶため、首里城を訪問した。

NPO法人街角ガイドから派遣された熟練のガイドの皆様から、当時の王朝や中国との交流、守礼の門などの文化的な遺産が持つ役割などについて説明を聞いた。



### 【視察 第32軍司令部壕跡（首里）】

首里城跡は沖縄の文化や歴史を代表する貴重な文化遺産であるが、その地下には沖縄戦当時、第32軍によって使われた地下壕跡がある。

参加者は、首里城やその周辺地域が持つ明（文化的、歴史的な重要性）と暗（戦争遺産）の両側面を比較することができた。





## 長崎 テーマ：長崎県における原爆投下



みなさんこんにちは。  
私たちは、日本最西端の地、長崎県からやってきました。今回は、長崎原爆についてお話したいと思います。  
原爆は原子爆弾を省略して呼ばれている名称です。

### 本日のテーマ

- ・「原爆がもたらしたものは。」
- ・「長崎を最後の被爆地に。」
- ・「次世代への継承」



本日はこのように、大きく3つのテーマに分けてお話しします。

### 原爆がもたらしたものは…

三菱の造船所からの原子雲の写真  
(地上から写した、爆発から最も早い時間に撮影されたもの)  
松田弘道 撮影 長崎原爆資料館所蔵



1945年8月9日 午前11時2分  
当時の長崎市の人口約24万人に対して  
(1945年12月末時点)  
死者 約74,000人  
負傷者 約75,000人

1945年8月9日午前11時2分に一発の爆弾が長崎市上空に投下されました。当時の長崎市の人口約24万人。犠牲者は死者約74,000人、負傷者75,000人に及びます。これは、当時の長崎市民の半数以上が被害を受けたことになります。この他、家族を無残にも奪われた多くの人々が深い悲しみを受け、それは今でも続いています。

### 航空写真

原爆投下前 → 投下後



※原爆撮影 長崎原爆資料館所蔵

ここで、原爆が落とされる前と後の写真を見てみましょう。

原爆投下前は、中央にグラウンドがあり、その周りには建物や建物がたくさん立ち並んでいます。しかし原爆が落とされた後は、このような状態になってしまいました。この航空写真を通して原爆落下中心地を見てみると、一瞬にしてここに暮らす人々の日常が奪われたことが想像できます。

## 熱線



熱線によって瓦の表面が沸騰して泡立っている状態。

有明 原爆資料保存委員会



溶けた6本の瓶

有明 岡田寿吉 原爆資料館所蔵

ここからは、熱線・爆風・放射能の被害について説明します。1番目は、熱線です。原爆が爆発した時に巨大な火の玉ができ、爆心地付近の地表面の温度は約3,000度に達したと推定されます。それはまるでもう一つの太陽が500m上空に出現したかのようでした。写真を見てください。熱線により瓦の表面が沸騰して泡立ち、ガラス瓶は熱でくっついてしまっています。人の皮膚は焼け爛れて剥がれ落ちたり、体が炭のようになるなど、通常の火傷では考えられない被害をもたらしました。さらに熱線は広い範囲で火災を引き起こす原因にもなりました。

## 爆風

環瀬中学校付近の倒木



城山国民学校  
(爆心地より約500m)



林道隆 撮影 長崎原爆資料館所蔵

2番目は爆風です。爆風の風速は爆心地で秒速40mありました。これは非常に強い台風の10倍の強さです。左の写真を見てください。爆風の威力で木々が同じ方向に折れてしまっています。さらに風圧の影響もあって爆心地から1km以内では木造家屋が粉々に壊されました。右の写真に写るのは小学校です。鉄筋コンクリートの建物などはかろうじて所々残りましたがいずれも無惨な状態でした。爆風で壊れた建物の下敷きになってたくさんの人々が亡くなったほか、窓ガラスが粉々に飛び散り、散弾銃のように人々を襲いました。

## 放射線

病院に収容された被爆者



撮影者不明 長崎原爆資料館所蔵

急性期の症状  
下痢、頭痛、脱毛、倦怠感、吐血など  
現在も被爆者は、苦しんでいる。  
ガン、白血病など

3番目は放射線です。原爆が通常の爆弾と異なるのは爆発の時に放射線が放出されることです。放射線は目には見えませんが人の体に入り細胞を破壊することから身体器官の働きが悪くなるなどの病気になります。1945年までに出た急性期の症状には脱毛や下痢、皮下出血などがあります。熱線や爆風で怪我をしていなくても放射線を受けたために多くの方がなくなりました。長崎にも広島同様「黒い雨」は降りましたが、広島よりも降り注いだ雨の量は少なかったようです。

放射線による人体、環境への影響は未だ科学的に完全に解明されたとは言えません。例えば、私の祖母は被爆者ですが、祖母が私の母を出産する際には遺伝子レベルの影響がないか、検査を受けたそうです。同様に、私の母が私を出産する際にも検査があったと聞いています。このようにあの時に始まった苦しみは生涯消えることがありません。



## 生きた証言の継承



私たちは被爆地長崎の学生として毎年被爆者の方からお話を聞く機会が当たり前にありました。しかし今年終戦から76年を迎え、被爆者の高齢化は進み、お話を聞くことができない時代が刻一刻と迫ってきています。そこで、被爆者の方と話す機会がとても重要であると考えています。長崎県青少年ピースボランティアでは継承カフェと題し、被爆者の方から被爆体験のみならず当時の暮らしや遊びなど、日常生活に関してフランクにお話を伺っています。原爆に関するトピック以外にも、いろいろなお話ができればと思っています。そして私たちは、今まで被爆者の方から伺ったことを心に留めるだけでなく、継承・発信・共有していかなければなりません。将来、若者が継承という点において重要な役割を果たすこととなります。被爆者の方は今まで話すことも思い出することも辛い、ご自身の体験を私たちに伝えてくださいました。被爆体験をしていない私たちが彼らの体験を完璧に語ることは不可能ですが、伝えること、共有することはできます。そのようにして歴史を次世代へ、そしてまた次の世代へと繋いでいくべきであると考えています。

## 同世代、海外の仲間との「共有」



次の世代に語り掛けるには、証言を引き継ぐもの同士がしっかりとつながっておくことが重要です。今日からでも私たちにできること、それは伝えること、つまり共有することではないでしょうか。例えば、長崎には平和学習部という部活をもつ高校があります。彼らは修学旅行で長崎を訪れた学生に対して長崎原爆の実相を伝え、思いを共有する活動を行っています。学校の教科書ではたった数行でしか語られない原爆について、被爆地の

学生が他の地域の学生に直接伝えることは非常に価値のあることだと思えます。また、海外の高校生など、若者との交流も大切にしています。例えば、右の写真に写っているノルウェーの高校生たちは、私が祖父の被爆体験を共有することで目の前の同級生の親族が被害にあったんだ、という具合に、今まで馴染みのなかった凄惨な出来事を他人事ではなく、自分ごととして捉えることができたと言ってくれました。決して彼らにとっては身近ではない原爆のことや被爆者の存在を、写真や絵を本にまとめてわかりやすく伝えることで、インパクトを与えるといった工夫もされています。

ここまでお話したように、被爆者の皆さんとの縦の繋がりを継承することでつくり、学んだことを共有することで同世代との横の繋がりを構築していけば、戦争や核兵器をなくすための運動の輪を世界中に広げることができます。もちろんそれは長崎の原爆投下に限った話ではありません。自分たちの地域のことを発信するためには世界の歴史を学ぶことも、とても重要ではないでしょうか。そうしてお互いが学びあって共有しあってできた小さなコミュニティが、やがて世界を動かすような大きな原動力になるように、輪たちは皆さんとこの先も繋がりたいと願っています。

## ご清聴ありがとうございました



今この瞬間にも1945年8月9日11時2分から1秒、また1秒と遠のいています。長崎を最後の被爆地に。この被爆者からの願いを受け継ぎ、これからも私たちは平和の共有を行なっていきます。そして、一人でも多くの方に歴史事実と向き合い、平和な世界を実現するために何ができるのか、ぜひ考えてみて欲しいと思っています。ご清聴ありがとうございました。

## 質疑応答 ◆長崎県における原爆投下

1) 継承カフェについて詳細が知りたい。どんなお客さんがくるのか、開催される頻度はどのくらいか、お話を聞かせてくれる被爆者の方は毎回同じなのか、などについて教えてほしい。| 広島

**Q** 2) 広島は人の写真を取り入れた発表にしたが、長崎はモノの写真が多いと感じた。写真を使うにあたってどんな意見がでたか知りたい。| 広島

3) 広島での原爆被害は朝の時間帯で朝礼や建物疎開等で屋外に学生がいたために多くの人が熱線を浴びたという例がある。長崎では当時どこでどのように過ごしていた人が多かったか、わかる範囲で教えてほしい。| 広島

**A** 1) 長崎市のボランティア団体である「青少年ピースボランティア」が行なっている活動で、高校生から30歳まで登録できる団体である。頻度についてはコロナ禍でなかなか活動ができていないが月に1回程度集まっている。話を聞かせてくれる被爆者の方は、その時々により日時の合う方が対応してくれる。

2) 原爆の大きな特徴の一つに放射線の放出がある。そのため放射線に最も注目していただきたく、放射線の部分にのみ人物の写真を利用した。もちろん熱線や爆風で亡くなった方もいるのでその部分を軽くみているということではない。

3) お昼前の時間帯だったので昼食の準備をしていた人が多いと思う。私の祖父も家族でご飯の買い出しに行っており、その道中で被爆した。他にも、母親が食事の準備をしている間に、庭や公園で遊んでいた子供たちの多くが被害にあったとも聞いている。

**Q** 原爆投下によって被害を受けた方に対する国からの補償は広島と同じような内容か。| カンボジア

**A** 法律上被爆者と呼ばれ被爆者の制度を利用できるのは「被爆者健康手帳（通称：被爆者手帳）」と呼ばれる手帳が発行され所持している人である。この手帳は今も申請可能で、どこで被爆したかなどの情報が重視される。補償が受けられるのは広島と同じ範囲かと思うが、この手帳配布の認定基準をめぐって、基準地となる地域の外にいた人たちと国の間で訴訟が起きるなど、議論は起きている。



### Q 被爆者に会って話を聞く時、どんな感情や印象があるか。 | ベトナム

A ●年々被爆者の方の数は減ってきている。私たちは彼らから話を聞くことができる最後の世代と言われているが、話がきけるのは当たり前ではない。私の祖父は辛い過去を思い出したくないため当時から一度も周りにこの話をしたことがない。そのため私たちが学校などで毎年こういった話を聞けるということはとても貴重だと感じている。だからこそ生きていらっしやる被爆者の方々の思いや言葉を重く受け止めて私たちが次の世代に語り継いでいかなければならないという責任感・使命感が長崎に育ち、小さい頃から学んできたものとして、それを強く感じている。

●ボランティア活動などで被爆者の方と話をする機会はたくさんあるが、コロナ禍でなかなか会えない期間があり、今ようやく会えて継承の課題に向き合っている。被爆者の多くは80歳を超えていて時間がない、ということをいつも伝えてくださっているのので、会うたびに貴重な時間だと感じており、自分に何ができるかをとても考えさせられている。

### Q 平和を継承するうえでの、チームの具体的なアイデアや方策、ポリシーがあれば知りたい。 | 韓国

A 今日紹介した継承や共有に関する活動はすでに私たちが行なっているものなので、それは今後も続けていきたいと思っている。私たちは「たとえ私たちの力が微力であったとしても、決して無力ではない」というスローガンを掲げながら活動している。具体的なアイデアについては、成果報告会で提案できればと思うので楽しみにしてほしい。

### Q 長崎の政府は原爆について平和を継承するためのイベントや政府からの具体的な行動を起こしたりしているのか。 | 台湾

A 長崎市は平和学習に力を入れており、若者向けの取組として毎年青少年を8月9日に長崎に招聘し4～500名規模のピースフォーラムというイベントを開催している。このイベントでは平和活動をしている70名ほどの若者がホストになり、原爆についてガイドやフィールドワークをしたりしている。最近では、長崎市が若い世代が新しい平和の伝え方を考える事業に対し補助金を提供している。このような若者向けのイベントは力を入れているかと思う。

### Q 出産前の放射線の影響に関する検査について、これは現在でも、誰にでも行われている検査なのか。 | 沖縄

A これは祖母や母から聞いた話なので、少なくとも当時は前述したように検査が行われていた。ただ今も同様の検査があるかについてわからない。あるかもしれない。

### Q 長崎には多くのカトリック教会があると聞いている。原爆当時の神父など聖職者の方の被害はどうだったか。 | 韓国

A 神父だけに関する統計は把握していないが、有名な浦上天主堂では多くの神父が亡くなっており、付近の長崎大司教区には数名の神父の死亡年月日が書いてある。他にも若い修道士や神父で徴兵され戦地で亡くなった方や、トンネルや軍事工場に学徒動員されそこで被爆された方もいる。

**Q** 同世代とこの話をする際、アメリカに対して嫌悪感を感じるか。また、誤解を避けるためどのように伝えられると思うか。 | ベトナム

- A**
- 私たち若い世代はアメリカを憎ましいという、マイナスな感情を抱いている人は少ないのではないかと思う。ただ戦時中の日本の加害面を見ると日本＝被害者という固定的な考えはやめた方がいいと思う。
  - 伝え方について一番気をつけたいのは一方的に伝えないということかと思う。加害や被害の一面だけ伝えるのではなく相手との対話をキーワードに活動している。自分のことも話して相手のことも聞くなど、尊重して認めあうというところがポイントになるかと思う。

**Q** 広島にいと親族の被爆者がいるかいないかで温度差を感じることがあるが、長崎はどうか。 | 広島

- A**
- 長崎チームには半分被爆3世、4世の世代がいるが、長崎で活動する中で親族に被爆者がいるかは聞かれたことがあるし、友達にも多いので、被爆3世の私にとってはこのアイデンティティに違和感はない。個人的に、国内で活動する際には「平和活動をしている人ってそういう人が多いのかな」というバイアスをもたれやすいので、あえて被爆何世、とは言わないようにしている。逆に海外での活動では身近に感じてほしいのであえて親族の話をする。



## 韓国 テーマ：済州島4.3事件



ベトナム、長崎、台湾、広島、沖縄、カンボジアのみなさん、こんにちは。

私たちは、済州大学校チームです。

まず、発表に先立ち、「2021年度 平和・発信、交流、継承 オンライン共同学習」を企画して下さった沖縄県とOPACの関係者のみなさまに、感謝申し上げます。

私たちが発表するテーマは、「済州4.3事件と平和」についてです。



発表に先だち、5分程度の紹介動画をご覧ください。

[ビデオクリップ放映]



まず、済州4.3事件とは何なのでしょう？ 1947年、「3.1節発砲事件」によって引き起こされた済州4.3事件は、「武装隊」と「討伐隊」のあいだでの武力衝突と、討伐隊の鎮圧過程で2万5,000～3万人もの住民たちが犠牲になり、7年7か月のあいだ続いた事件です。

### < 3.1節発砲事件 >



当時の流れを簡単にご説明します。

済州 4.3 事件の背景には、「3.1 節発砲事件」があります。

1947 年 3 月 1 日、騎馬警察の馬のひづめで小さい子供が蹴られ、けがをしてしまいました。騎馬警察はけがをした子供を放って、そのまま通り過ぎようとしたのですが、それを見て怒った群衆は石を投げて抗議しました。その時近くに布陣していた武装警察が群衆に向かって、銃を発砲しました。この発砲で住民 6 人が犠牲になり、済州社会が怒りの声を上げ始めました。

### < 分断の危機と「アカの島」 >



それと同時に、当時の朝鮮半島は分断の危機に直面しており、アメリカは済州島を「アカの島」として目をつけていた状況でした。

済州島の住民の大多数が南北分断を固定化する、南朝鮮のみの単独政府ができることに反対したためです。

### < 武装蜂起 >



ついに、1948 年 4 月 3 日、左翼寄りの「南朝鮮労働党 済州島党」は、アメリカの東アジア戦略に反旗を掲げ、武装蜂起を起こすことになりました。

### < 焦土化作戦 >



しかし多くの済州島民の期待とは異なり、1948 年 8 月と 9 月、38 度線以南の地域には「大韓民国」が、以北には「朝鮮民主主義人民共和国」が樹立されました。

そして、大韓民国政府の正統性に反旗を掲げた済州島の住民たちを鎮圧するために、軍は兵力を増やし、強力な鎮圧作戦が行われました。

島民たちは集団で殺され、極限状態に陥りました。

## &lt; 済州4・3事件の後遺症 &gt;



済州4.3事件はアメリカ軍政期に発生し、韓国政府の樹立以降に至るまで7年あまりにわたって続いた、韓国現代史で朝鮮戦争の次に人命被害がひどかった事件です。

当時、済州島の人口の10分の1以上が命を落とすと推定されています。

「焦土化作戦」によって、中山間の村の95%以上が焼かれて消滅し、多くの人々が犠牲になりました。済州島民たちにとって、4.3事件は長い間、口に出してはいけないタブーであっただけでなく、歪曲され、屈折した歴史の一つでした。

## &lt; 順伊おばさん &gt;



『順伊おばさん』は文学という形で、済州4・3事件の真実をはじめ世界に知らせた作品です。

ソウルに住む平凡な会社員の「私」は久しぶりに故郷の済州島を訪れます。そこで、4・3事件のトラウマに苦しむ「順伊おばさん」が、遺書の一枚も残さず自殺したという事実を知ることになります。「私」は、その死の原因を明らかにするため、30年前に彼女が経験しなければならなかった当時の済州の悲劇について知り始めます。

事件が終わってから24年が過ぎた1979年に、『順伊おばさん』という小説が発表されました。『順伊おばさん』は文学という形で、済州4.3事件の真実をはじめ世界に知らせた作品です。時間の関係上、小説の概要だけ短く紹介します。

ソウルに住む平凡な会社員の「私」は久しぶりに故郷の済州島を訪れます。そこで、4.3事件のトラウマに苦しむ「順伊おばさん」が、遺書の一枚も残さず自殺したという事実を知ります。「私」は、その

死の原因を明らかにするため、30年前に彼女が経験しなければならなかった当時の済州の悲劇について知り始めます。

「順伊おばさん」は、4.3の渦中で、お腹の中にいた赤ちゃん以外のすべての家族を失いました。虐殺された村の人々の中で、血塗られて目を覚ました彼女は、その後、幻聴や神経衰弱に苦しみます。深刻な精神的外傷を負いながら、生きなければならなかった彼女は、結局自ら命を絶つことでしか、悲劇の人生から逃げ出すことができなかったのでしょうか。

『順伊おばさん』は、小説の形で、4.3事件当時に「順伊おばさん」と済州の人々が経験しなければならなかった残酷な経験と記憶を、今日の私たちに示してくれます。

## &lt; 玄基栄 &gt;



4・3事件の生存者でもある小説家・玄基栄は、4・3事件がタブー視されていた軍部政権の時期に、小説『順伊おばさん』を発表しました。以降、彼の人生は平穏なものではありませんでした。この小説を書いたことにより、軍の情報機関に連行され、過酷な拷問を受け、小説は禁書になり、14年ものあいだ、読者の前にさらされることはありませんでした。

彼は多くの苦悩を経験しましたが、自分自身を「文学によって、倒しくも倒れていった魂を慰めるシャーマン（巫女）」であると語り、4・3事件について、済州の歴史について、表現し続ける作家として存在しています。

4.3事件の生存者でもある小説家・玄基栄は、4.3事件がタブー視されていた軍部政権の時期に、小説『順伊おばさん』を発表しました。

以降、彼の人生は平穏なものではありませんでした。この小説を書いたことにより、軍の情報機関に連行され、過酷な拷問を受け、小説は禁書になり、14年ものあいだ、読者の前にさらされることはありませんでした。

彼は多くの苦悩を経験しましたが、自分自身を「文

学によって、悔しくも倒れていった魂を慰めるシャーマン（巫女）」であると語り、4.3事件について、済州の歴史について、表現し続ける作家として存在しています。

### < オペラ「順伊おばさん」 >



小説『順伊おばさん』は、国家の圧力と強いられた沈黙によって水面下に置かれていた 4.3 事件の実像を明らかにした、最初の文学作品です。この作品は、済州の痛みの中に隠されていた、当時の朝鮮半島の矛盾した状況に対して、深い洞察を行ったことで高い評価を受けました。

『順伊おばさん』は今日、オペラで表現され、より多くの人々に知られています。ここで、オペラ「順伊おばさん」の中の二つのシーンを皆さんと一緒に見てみたいと思います。

最初のシーンは、済州島民たちが経験した暴力、とくに母親から赤ちゃんを奪う非人道的な行為を描き出したシーンです。ご覧ください。

### < オペラ「順伊おばさん」 >



次に紹介するシーンは、済州島民たちが集団で銃殺されるシーンです。銃殺命令を下す軍人は、まさしくこの中にきっと「暴徒」が混ざっているはずだ、と村人全員に対する銃殺を命じます。ご覧ください。

二つのシーンを見るだけでも、なぜ済州の人々が長い間トラウマで苦しんでいたのかが十分わかります。小説もその意義が大きいです。小説が視覚的なオペラに転換されることで、非体験世代の胸により直接的に響くこととなります。一つの作品が誕生して、その後別のジャンルと方式で生まれ変わることには、このような意義があると思います。

### < 時代の痛みを表した作品 >



戦争と虐殺は済州だけでなく、みなさんの国家、みなさんの地域、みなさんの友達、みなさんの家族たちの経験でもあります。

長い間続いた戦争の中で、たくさんの民間人が犠牲になったベトナム戦争、国家の過剰な鎮圧によって多くの人々が犠牲になった台湾 2.28 事件を例に挙げるができます。

ベトナム戦争を背景にした作品では、『順伊おばさん』のあらすじとも似た映画「焼いてはいけない (Don't burn)」と、小説「彼が今も生きているなら (Nêu anh còn được sống)」を挙げる事が出来ます。台湾 2.28 事件をテーマにした映画「悲情城市」は、韓国と日本でも有名な作品です。

## &lt; カン・ヨベの『ツバキの花』 &gt;



声もなく血を流して倒れていった済州島民の姿に似たツバキの花は、画家カン・ヨベの連作画「ツバキの花が散る」を通して、4.3事件を象徴する花となりました。

例えば、私たちの済州大学校では、毎年4月3日にツバキの花のバッジを配るイベントを行います。済州大学校の学生ならば、ツバキの花のバッジをひとつは持っていることでしょう。

## &lt; 映画「チスル」 &gt;



今日、済州 4.3 事件は映画でも表現されています。代表作として、「チスル」という映画があります。「チスル」は、標準語で「ジャガイモ」という意味です。4.3 事件当時、済州島民たちは、「討伐隊」の鎮圧作戦から逃れるために、山や洞窟の中に避難しました。映画では、逃れた先で食べ物を分け合って食べ、危険な状況でもささやかに家族で過ごす、人間的な姿を見ることができます。

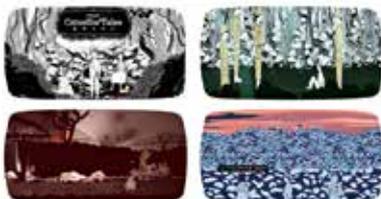
## &lt; 映画「チスル」 &gt;



「チスル」は、韓国だけで 10 万人を超える観客を動員し、済州 4.3 事件の惨状に再びスポットライトを当てました。

みなさんとゆっくり映画を見たいのですが、時間の関係上、約 1 分 20 秒程度の予告編だけを紹介したいと思います。

## &lt; 「UNFOLDED (アンフォールド) : ツバキの物語」 &gt;



最近では、4.3 事件をテーマにしたゲームも発売されました。「UNFOLDED (アンフォールド) : ツバキの物語」という 2D ゲームが代表作です。ゲームでは、ユーザーが「討伐隊」から村を守るため、村の境界に兵士として戦ったり、「討伐隊」の追跡から逃れ中山間のあちこちを回りながら、食べ物を求めたりするなど、4.3 事件当時、済州島民たちが経験した極限状態を間接的に体験することができます。

## &lt; コサリ・ユッケジャン &gt;



今日、済州 4.3 事件は、演劇の題材としても活用されています。

演劇「コサリ・ユッケジャン」は、非体験世代が 4.3 事件をどのように考えているのかを表現しています。4.3 事件に関心のない登場人物と、彼と対立する人物の間の葛藤を描いています。過去の事件が、現代にも記憶され続けてほしいという作品説明が印象的です。



済州 4.3 事件を表現する行為は『順伊おばさん』が発表されるまで、抑圧され、統制されていました。ですが、『順伊おばさん』によって、4.3 は世界に明るみになり、今では誰でも 4.3 について自由に話し、多様な作品によって表現されるようになりました。そして、4.3 についての記憶は、世代を超えて、抑圧的で断片的な記憶から、開放的で抽象的な記憶へと変化しています。

厳粛な雰囲気だけでなく、ユーモラスな雰囲気、コメディ的な演出でも再構成されるなど、表現の方法も多様になっています。



私たちが多様な作品を通して、済州 4.3 事件を記憶するように、沖縄戦と長崎・広島原爆投下、台湾 2.28 事件、ベトナム戦争、ポル・ポト政権期の虐殺もまた、多様な方法で記憶され、表現されていると思います。

残酷な記憶が、非体験世代の主導によって表現されていることは、経験者や生存者のような体験世代がいなくなっている今日、重要な意味を持っています。これまでとは違う方法で、同時に多様な方法で、記憶が伝承され、新しい見方による解釈と議論も可能になるでしょう。

多様な表現の方法を活用することで、記憶の足跡を次の世代に継承することに関わることに。

私たちは今回の研修に参加し発表を準備しながら、平和はこのような方法を通して作られると考えました。



これで、済州大学校チームの発表を終わります。ご清聴ありがとうございました。

## 質疑応答 ◆ 済州島4.3事件

1) 樁のバッジを配るイベントがあるとのことだが、このようなイベントは大学だけでなく小学校や高校でもあるのか。また、政府が4月3日に行う式典などはあるのか。 | 広島

**Q** 2) この事件に対する、今の韓国の若い世代の間での知名度はどうか。また、ゲームを発売する際に反対などは起きなかったのか。 | 広島

3) 体験者による継承ではなく映像や文学で表現が多用されているが、どちらの方が効果的と感じているか。映像化する段階での難しさなどがあればそれも教えて欲しい。 | 広島

**A** 1) このバッジは大学だけではなく、小中高、また一般市民へも、平和教育の一環のグッズとして広く配布されている。また、政府による式典については、毎年4月3日に済州の平和公園で慰霊祭が行われている。大統領も出席し済州島民や遺族の方々にお詫びを表す。実は東京や大阪でも4月後半に平和式典が行われている。これは、虐殺から逃れるため日本に密航した島民がいたからである。現在の在日コリアン社会が形成されたきっかけでもあるので、日本でもこのような慰霊祭の集いが行われている。

2) 軍事政権時代に比べて、今この事件に対する認識は広がっており、被害が多かったことや非人道的な行為があったことなどについて、ある程度共有している。ただ、政府の軍や警察がどれだけ残虐行為を行なったかなどの詳細な内容についてはまだはっきりしていない。そのため今回発表の準備をするなかで、この事件を韓国の教育課程に取り入れ、教科書に載せるべきだという共通認識をもつに至った。ゲームについては、去年発売されたばかりで広くは知られていない。これまで文学・芸術・映画・演劇などでの表現はあったがゲームははじめて。私たちはこのゲームがどのような反応をもたらすか、注意深く見ているところである。

3) このような事件を視覚化する上での難しさというのは、韓国・済州島の中で生存者や遺族がたくさんいる中、ある程度統一された議論がまだ行われていない、ということかと思う。深刻な虐殺、拷問の記憶・経験などをどの程度表現するのか、社会的な議論を通してある程度合意するのが最も難しい点だと感じている。

**Q** 韓国政府は現在この事件をどのように扱っているのか。 | カンボジア

**A** 「4.3 特別法」という法律がある。この法律により政府は、4.3 事件の犠牲者として認められた方々に補償金を給付したり、トラウマに苦しむ方々を治療するセンターを設置したりしている。また、大統領や法務長官、警察のトップリーダーなどが遺族を訪問してお詫びしたりするなど、過去を清算する試みが最近行われている。ただ、政権によってこの事件に対する態度が違っている。韓国政府全体としては、負の過去を乗り越えるための取組が行われているところである。

**Q** 韓国では長い間、共産党の支持者は自分のキャリアや家族のため、身分を隠していたと聞いたが、現在でもそのようなことはあるか。 | ベトナム

**A** 1950年に勃発した朝鮮戦争はまだ終わっていない。残念ながら韓国と北朝鮮、米国と中国の4カ国はまだ戦争中である。今は休戦状態だが、共産主義国家社会を支持する人に対しては、韓国社会の中で厳しい統制・抑圧がかかっている。「アカ」というが、誰がアカなのか、誰がそうでないのか、といった厳しい選別論理が根ざしている。

**Q** 朝鮮半島の韓国人と済州島の人では、この事件に対する考え方に何か違いはあるか。また、この事件を知らない人も多いと聞いたが、済州の人は差別されたような気持ちにならないか。 | 台湾

**A** 2000年に済州4.3事件の真相究明および犠牲者名誉回復のための特別法という法律が韓国の国会で制定された。それ以前は、おっしゃる通り陸地の人(朝鮮半島出身の人)と済州島の人とで認識のギャップがものすごく大きかったが、これ以降、先の質問で回答したような政府によるさまざまな取組があつて、陸地の人にもこの事件に対する認識が広がっている。私たちのメンバーの中にも陸地から来た人がいる。済州に来る前はまったくこの事件について知らなかったが、社会的な変化や済州で行われている平和教育を通して学んだとのことだった。このような背景もあり、4.3事件に対する済州島の人とそうでない人の間の認識のギャップは、徐々になくなりつつある状況である。



## カンボジア テーマ：カンボジア大虐殺（ポル・ポト政権下の大虐殺）

### カンボジアにおける大虐殺



1975-1979

1975年から79年にかけて起きたクメールの大虐殺について説明します。

### 概要

クメール・ルージュは、リーダーへの欲と権力に支配された政権で、人々を虐殺しました。誰もがアンカーに支配され、政権の犠牲者となりました。

※Angkor:カンボジア共産党の内部組織を指す。  
公式には個人を指す言葉としては使われていないが、一般の人々は使っていた。

当時のクメール政権のリーダーは共産主義寄りの人々ばかりで、政権の幹部はアンカーと呼ばれていました。アンカーとは、当時のカンボジア共産党を示す表現で、特定の個人を指すことばではありません。

### 東南アジアにおける カンボジアの地理的位置



これはカンボジアの位置関係を示す地図です。

### 1.カンボジア年表



カンボジアはかつて100年ほどの間、フランスの植民地でした。その後1953年に独立し、今日に至るまで、いろいろな政権が誕生しました。その中にポル・ポト政権（クメール政権）があり、これが1975年から79年の政権に該当します。今日はこの期間に起きた大虐殺について発表します。

### クメール・ルージュの台頭



1975年4月17日  
クメール・ルージュが  
プノンペン市を解放。

1975年4月17日、ロン・ノル政権陥落と同時に、ポル・ポト政権が誕生しました。その後すぐに、政権はプノンペン以外の都市部の人々を地方に強制移動させました。

### 強制移動

最初の疎開は1975年4月17日、人々はクメール・ルージュからの様々な理由のもと、プノンペン市内から強制的に遠去させられました。疎開中には、下記のようなことが通達されていました。

- ・ アメリカからの爆撃の脅威がある
- ・ 食糧不足になる
- ・ 敵のスパイ組織の解体を目的としている



上部の地図では、都市部からの強制移動の経路をしめしています。下部の写真は強制移動させられている最中の様子です。ほとんどの人は徒歩で移動しました。この強制移動に例外はなく、病院の入院患者なども含め、全ての住民が移動しなければなりませんでした。

### クメール・ルージュ 政権下での生活



続いてクメール政権時の生活についてご紹介します。

### 新しい2つの階級

#### ベースピープル/オールドピープル

クメール・ルージュ解放区（内戦中にクメール・ルージュ軍が支配していた地域）に住んでいた人々（1975年4月17日以前）

#### 新人/4月17日人

1975年4月17日までロン・ノル政権が支配していた地域に住んでいた人々

ゲリラ活動の間、政権が変われば、住民の階級はなくなり、共産主義の理論に基づいて国を運営するという公約が掲げられていましたが、実際にクメール政権が誕生すると、結局住民には階級がうまれました。

1975年4月17日以前に村々に住んでいた人々はオールドピープルとよばれ、それ以降に都市部から強制的に移動させられた人々は新人とよばれました。

### 強制労働



十分な食料もない中で  
過酷な労働生活



子どもの労働力と権利の濫用

当時の人々は集団で生活していました。家に台所などはなく、食堂に一箇所に集められて食事していましたが、十分な食料は与えられていませんでした。また、給料も支給されず、人々は政権の奴隷となっていました。ポル・ポト政権では全ての紙幣・貨幣は廃止されていました。

### 強制結婚

- 男性も女性も、相手を選ぶことはできませんでした。
- カップルはアンカーによって指定されました。
- 拒否しそうな者は投獄され、拷問され、殺されました。



当時男女は自分の意思で結婚することはできず、アンカーによって集団の強制結婚が行われました。集団結婚というのも、セレモニーのようなものではなく、ただ名前を読み上げられて、握手をすると夫婦になる、というものでした。これを拒否した場合は処罰をうけ、場合によっては殺されることもありました。

### クメール・ルージュの崩壊

- 弱体化した民衆
- 粛清
- ベトナムとの衝突

1979年1月7日 クメール・ルージュ政権の終焉

ポル・ポト政権が崩壊したのは1979年1月7日でした。この政権下で約200万人のカンボジア人が亡くなりました。

### 正義への道

人民革命法廷は、クメール・ルージュ政権の元指導者2人を欠席裁判で裁きました。  
(1979年8月15日～19日)



この写真はクメール政権崩壊直後のクメール政権幹部が裁判にかけられている様子です。裁判が始まったものの、クメール政権幹部はまだ活動していたため、本人不在のまま裁判がおこなわれていました。



これは2006年に国連指導のもとプノンペン郊外で行われた、クメール政権幹部を数人出席させ裁判にかけている様子です。



クメール政権が崩壊して40年が経ち、カンボジアは0から復興しました。今日にいたるまでに、経済や政治が安定し、治安も改善され、全地域が平和になっています。



カンボジア政府も熱心にポル・ポト政権下で起きたことを次の世代に発信しているところです。トゥール・スレン博物館では、カンボジアの教育省と協力してカンボジアの学生がこの博物館を訪れるよう活動しています。



発表は以上です。  
ありがとうございました。

## 質疑応答 ◆カンボジア大虐殺（ポル・ポト政権下の大虐殺）

**Q** 強制結婚について、新しいふたつの階級を混ぜての結婚だったのか、階級ごとの結婚だったのか知りたい。 | 長崎

**A** オールドピープル同士は結婚が可能だったが、ニューピープルとオールドピープルとの結婚はできなかった。両者の階級とも被害者で、特別扱いはほぼなかった。配偶者がいたとしてもアンカーという組織からの命令で別の人と結婚させられたりして、反対すれば殺されていた。

**Q** スライド中の写真や絵は、当時の政権が残していたものなのか。もしそうだとしたら、非人道性について当時の政権も認識していたのか。 | 広島

**A** 写真は当時の政権がとった写真で、非人道性についても彼らは理解していた。つまり彼らは人権侵害等について知った上で行っていた。

**Q** カンボジアではクメール・ルージュとして戦った人や、クメール政権下で被害を被った人がまだ一緒に生活されているかと思うのだが、現在の生活のなかで何か影響などはあるか。 | 沖縄

**A** 今のカンボジア社会の中にかつてのクメール・ルージュも暮らしているが、身分や名前を変えている人もいる。カンボジア住民はお互いに恨みあうというよりも、クメールの幹部にだけ恨みを持っている。また、クメール政権時に身分を証明できる書類などはほとんど破壊されてしまっているので、影響があるというよりは、そもそも誰がクメールだったかもわからない状態がある。

**Q** ポル・ポトは国民を虐殺したが、その前はカンボジアのリーダーとして戦った人でもある。今、彼についてどう思っているか。 | ベトナム

**A** 前政権では汚職が非常に多かったため、1975年4月当時にポル・ポト政権が誕生時には、国民はみな歓迎した。ただそのあとがとても酷かった。地方に強制移動させられ始めたときから、道沿いのあちこちで死体が見られるようになった。その後悲劇が続き、国民がポル・ポト政権を支持することはなくなった。

**Q** ポル・ポトが共産主義を利用して独裁的な政権をつくったことについてどう思っているか。 | ベトナム

**A** クメールの幹部はもともと海外で学んだ経験のある人が多かった。ポル・ポト自身もフランスに留学をしていた経歴がある。その際に共産主義を学んだが、それがどうして自国民を殺したり、貨幣を廃止したり、国を破壊することに繋がったのか、私たちにも理解ができない。みなさんと今後一緒に考えたい。

**Q** キリングフィールドが有名かと思うが、観光客の方やみなさんはそこをよく訪れるか。  
| 長崎

**A** ここはカンボジアの中でも有名な場所で、コロナ前は日本人の観光客はもちろん海外からの観光客もたくさん訪れていた。トゥール・スレン博物館の前身である収容所で拷問を受けた人はキリングフィールドで殺害されている。キリングフィールドで亡くなった人はほとんど博物館のあるトゥール・スレンからきた人たちである。

1) 今他の国で似たようなことが起きているとしたら、どういった解決方法があると思うか。 | 沖縄

**Q** 2) もし周囲の国々が気にかけていれば、当時のカンボジアの問題はもっと早く解決したのではないかと感じている。そのために今私たちがこうして集まっているようなところもあるかと思うが、周辺の国々に対して、当時「こうしてほしかった」という思いはあるか。 | 沖縄

**A** 1) とても難しい質問。もしそういったことが起きた場合、その国の人々の意思によって解決方法は変わると思う。カンボジアの場合は国内で国民同士の殺し合いだったので、他民族同士の衝突というわけではない。また、カンボジアの宗教は仏教なのでお互いに許し合ってしまうこともあるかと思う。回答できたら国連の事務総長になれる質問だ。

2) 70年台にはまだインターネットが普及していなかったため情報が不足しており、なかなか外のメディアが入ることはできなかった。旧社会主義国家関係のメディアは入っていたので、そこからようやく情報が出たらしいが、情報が出て政権が崩壊した後も、そんな政権があると信じられなかった人も多かったと聞いている。今でもカンボジアの若い世代でこんな時代があったと信じない人もいて、トゥールスレン博物館につれてきてやっとわかる、という人も多い。

## (6) 5日目 各地域発表 (沖縄)、ディスカッション



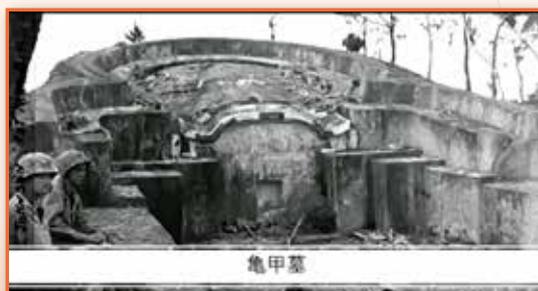
## 沖縄 テーマ: 沖縄戦



1945年3月末から9月7日にかけて、日本軍とアメリカ軍が沖縄本島を中心に激しい戦争をしました。これが沖縄戦です。この戦いで多くの兵士が戦死し、さらに一般の住民が戦闘に巻き込まれ、尊い命が失われました。一般住民の犠牲者数は、戦死した兵士の数を大きく上回ります。たくさんの幼い子どもたちも死んでしまいました。沖縄での地上戦が始まる前に、日本軍の基地などが沖縄本島や離島に建設されました。

滑走路や防空壕の建設などの戦争準備には、多くの沖縄県民が駆り出されました。

そこへ米軍が上陸し、戦場となってしまったのです。その沖縄戦中に起きた事実をいくつか皆さんに紹介したいと思います。



亀甲墓

1945年4月1日、米軍が沖縄本島西海岸の読谷村に上陸すると、住民はガマ（自然壕）や亀甲墓などに身を隠しました。亀甲墓とはこの写真のようなお墓で、この中に身を隠していました。



沖縄島読谷村上陸

1945.4.1

2021.10.31

この写真は、米軍が上陸した当時の読谷村と、現在の読谷村を比較したものです。



チビチリガマ

シムクガマ

ガマに避難していた140人中住民83人が集団自決により命を失った

1千人前後の避難民の命が助かった

読谷村波平区の住民の多くは、村内のチビチリガマとシムクガマに分かれて避難しました。チビチリガマでは住民の「集団死」がおり、近くにあるシムクガマではこのような惨事はおこりませんでした。



この赤い点が米軍が上陸した地、読谷村になります。2つのガマの距離は車で4分、歩いて15分ほどの距離です。

それほど距離が離れていない、同じ地域の二つのガマで「生」と「死」を分けたものとは何だったのでしょうか。



チビチリガマ

それではまずチビチリガマについて説明します。アメリカ軍の沖縄本島上陸の翌日 1945年（昭和20）4月2日、鬼畜（きちく）と教えられたアメリカ兵の残虐な仕打ちを恐れて、肉親で殺しあう「集団自決」が行なわれました。この洞窟への避難者約140人の内、住民83人が亡くなりました。死を選ぶことを強制された住民は「強制集団死」と言い換えることもできると思います。

### チビチリガマ

- 1945年4月2日  
鬼畜と教えられたアメリカ兵の残虐な仕打ちを恐れて、肉親相互が殺しあった。  
⇒「集団自決」が行なわれた。  
⇒布田や毛布に火を付ける男性。煙を吸い涙山の人が亡くなる  
⇒避難者約140人の内住民83人が集団死
- 「集団自決」という表現について  
[国によって殺された命と言えないのではないか](#)



シムクガマ

次にシムクガマについて説明します。アメリカ軍の沖縄本島上陸の日、激しい砲爆撃の後、シムクガマに迫り、アメリカ兵が銃を構えて洞窟入口に向かってくると、人々は恐怖の余りうろたえ、洞窟内は大混乱に陥りました。いよいよ殺されるのだと、洞窟の奥へ逃げ死に急ぐ人や、米兵に対し抵抗しようとする人が出ました。その時、ハワイからの帰国者、比嘉平治（当時72歳）と比嘉平三（当時63歳）の2人が、「アメリカカーガー、チュォクルサンドー（アメリカ人は人を殺さないよ）」と、騒ぐ避難者たちをなだめ説得して、投降へと導きました。1千人前後の避難民の命が助かりました。沖縄は貧しかったこともあり、移民として出稼ぎに行っている人が多くいました。

### シムクガマ

- 男性2人  
⇒ハワイ帰りの2人でハワイでの経験から鬼畜米英を否定騒ぐ避難者たちを「アメリカ人は人を殺さないよ」と説得し、自ら米兵と交渉し投降へと導き、1千人前後の避難民が助かる

### シムクガマと似たケース

シムクガマと似たケースは他のガマでも起こった。

⇒「鬼畜米英」「皇民化教育」などを受けてこなかった人（移民）たちが住民の自決をとめ、米軍に投降することを呼びかけた

・日本軍がいなかった地域では米軍に速やかに占領され住民は集団で投降した

＊沖縄戦終盤では、日本兵が住民に投降することを呼びかけケースもある

次に、シムクガマと似たケースを紹介したいと思います。先ほど述べたように移民として海外にいたウチナンチュが沖縄戦前に戻ってきた人がいた地域やガマの中では、「鬼畜米英」「皇民化教育」などを受けてこなかったことから住民の自決をとめ、米軍に投降することを呼びかけ、沢山の住民が救われました。このことから、当時の愛国心や「鬼畜米英」「皇民化教育」のような誤った教育、社会の風潮がいかに

住民の選択肢を奪い、犠牲者を増やすことに繋がったかを理解して欲しいです。また、日本軍がいなかった地域では、米軍に速やかに占領され住民は集団で投降するパターンが多く、犠牲者をうまなかったようです。沖縄戦終盤では、日本兵が住民に投降することを呼びかけたケースもあったと言われています。

### 学徒隊

続いて、学徒隊について紹介します。

学徒隊とは、沖縄県の男女中等学校の生徒で構成され、戦場へ動員された学生たちのことです。

沖縄県にある全ての中等学校の生徒たちが戦争に動員されました。戦前まで、彼らは私たちと同じように夢を持って勉強する学生でした。

### 学徒隊の 成り立ち



沖縄県立文庫館

発表の最初の方で、沖縄戦が始まる前から、沖縄県民は戦争の準備に駆り出されていたと話しました。同じ時期に学校では生徒に対して戦争へ参加させるための教育が始まりました。

1941年には、沖縄県内の学校も地域ではなく国が管理する国民学校へと変わり、天皇、日本の為に戦争に参加する子どもたちを育てる皇民化教育が行われました。戦争が近づいてくると、校舎には兵士が住

み、子供たちは、運動場や校庭の木の下で授業を受けていました。食糧不足に備えて校庭で食糧を作ったり、防空壕や日本軍の飛行場づくりに参加したりしました。

第32軍司令部壕



留魂壕



沖縄戦の司令部である通称第32軍は、沖縄戦の戦況が怪しくなると、司令部のための壕を男子学生たちに掘らせました。

1944年の10月から沖縄戦が始まる直前の1945年2月までの約4ヶ月間で、約1キロメートルの壕を掘りました。左側の写真がその時に掘られた第32軍司令部壕です。学生たちは、自分たちが避難するための壕も掘りながら、そこで寝泊まりをしていま

した。右側の写真が、その時に掘られた留魂壕です。そして、戦争が激化すると、学生達も戦場へ駆り出されました。

## 女子学徒隊

女子学徒隊の役割は、負傷した兵隊の看護にあたり、手術の補助的な仕事、死体の埋葬雑用、壕掘り、食料調達などです。

### 壕での看護（元ヒメユリ：津波古ヒサさん）

米軍が本島中部から上陸した4月1日以降、運び込まれる負傷者は急激に増えていった。壕の中では日本軍の医師によって手術が行われた。最初は米軍の攻撃が収まる夜、麻酔がなく、エーテルをかがせて手術を切断了。手術が終わるか終わらないかで患者の目が覚め、悲痛で暴れる。体ごと押さえつけるのが役目だった。「切った腕、脚は砲弾が落ちてできた穴に投げ捨てたんです。壕には重病患者が増え、「学生さん、学生さん」と呼ぶ声はやみません。2人で約60人の患者を診ていました。水を運び、排せつの手伝いをし、傷口にわくウジを取り除いたり、やることが途切れず、まともに寝た記憶がありません。堅い木でできた2段ベッドの上下に7、8人がひしめき合い、座ったまま死んでいる人もいました。腕や脚を放り込んだ穴に死体も積み上がっていきます。怖い、悲しい、辛い、と感情が湧く時間ありませんでした。重傷患者は4、5日で息絶えました。麻酔なしで脚を切られても、手術してもらえただけかもしれません。看護実習では、「私たちは生かしてもするが、いざという時は殺してもする」と教わりました。

ここで、当時、壕の看護にあたった女学生のエピソードを紹介します。

米軍が本島中部から上陸した4月1日以降、運び込まれる負傷者は急激に増えていきました。

壕の中では日本軍の医師によって、米軍の攻撃が収まる夜に手術が行われました。

麻酔がなく、エーテルをかがせて手脚を切断了。手術が終わるか終わらないかで患者の目が覚め、激

痛で暴れていました。体ごと押さえつけるのが私たちの役目でした。切った腕、脚は砲弾が落ちてできた穴に投げ捨てたんです。壕には重病患者が増え、「学生さん、学生さん」と呼ぶ声はやみません。2人で約60人の患者を診ていました。水を運び、排せつの手伝いをし、傷口にわくウジを取り除いたり、やることが途切れず、まともに寝た記憶がありません。堅い木でできた2段ベッドの上下に7、8人がひしめき合い、座ったまま死んでいる人もいました。腕や脚を放り込んだ穴に死体も積み上がっていきます。怖い、悲しい、辛い、と感情が湧く時間ありませんでした。重傷患者は4、5日で息絶えました。麻酔なしで脚を切られても、手術してもらえただけかもしれません。看護実習では、「私たちは生かしてもするが、いざという時は殺してもする」と教わりました。

## 男子学徒隊



それでは、男子学徒隊はどのように過ごしていたのでしょうか。

男子学徒隊の役割は、戦争前線で戦闘に参加することで、高学年は鉄血勤皇隊と呼ばれました。食料や弾薬、負傷者を運んだりしました。下級生は、通信兵として弾丸が飛び交う中で情報を伝える役目をしました。

戦況が悪化すると、爆薬を詰めた箱を背中に担いで、戦車に飛び込んだり、夜の暗闇に紛れて、手榴弾や、銃などを持って、米軍の陣地を攻撃する斬り込み攻撃にも参加しました。

### 役に立たない武器

皇民化教育の中で「敵に捕まる前に自ら命をたつ」ことを教えられていた学生は、自決を試みるが、空き缶に爆薬を詰めたばかりの手榴弾は爆発しなかった。  
「敵を攻撃するために与えられた武器は、全く役に立たないものだった。軍は本当に人の命を軽く見ていた」

次に男子学徒隊のエピソードについて紹介します。皇民化教育の中で「敵に捕まる前に自ら命をたつ」ことを教えられていた学生は、自決を試みたが、空き缶に爆薬を詰めたばかりの手榴弾は爆発しなかった。  
「敵を攻撃するために与えられた武器は、全く役に立たなかった。軍は本当に人の命を軽く見ていた。」と証言しています。

### 通信隊

爆弾の音が聞こえて、危険を感じた少年は、隣で疲れて寝ている友人を起こして逃げようとしたが、重労働に疲れ切った友人は起きることができなかった。  
少年は一人で近くの岩陰に隠れた。数秒後に自分がいた場所を見てみると友人の姿はなく少年の目の前で友人は直撃弾を受けた。

次に、宮城光吉さんという当時16歳だった方のエピソードを紹介します。爆弾の音が聞こえて、危険を感じた宮城さんは、隣で疲れて寝ている友人を起こして逃げようとしたが、重労働に疲れ切った友人は、起きることができませんでした。  
宮城さんは一人で近くの岩陰に隠れました。数秒後に自分がいた場所を見てみると、友人の姿はなく、宮城さんの目の前で友人は直撃弾を受けました。戦争がどのようなものなのか。何が本当に正しいのかもよくわからず、戦闘に参加させられ、生涯心に残り続けるトラウマを経験した人々の想いは、計り知れません。

### 沖縄戦の継承の現状(課題)

- ・体験者が10%以下
- ・記憶→不十分ではあるが記録(アーカイブ)は残している
- ・非体験者が語っている
- ・語れない人は記録を見せるだけ
- ・6月23日の慰霊の日に向けて学校図書館で資料を展示
- ・沖縄県内外で学習機会や知識量に差がある。
- ・戦時中のことだけを学ぶ今日の平和教育では沖縄戦学習は歴史学習にしかならず、平和の構築を考える平和学習にはならない。

最後に、沖縄戦の継承の現状と課題及び解決策についてお話しします。

戦後76年経った現在、戦争体験者は10%を切っています。これまでの学校現場では、体験者の講話をメインとした平和学習が行われてきました。しかし体験者の減少に伴い、その講話の機会が失われているのが現状です。そのため教育現場では6月23日の慰霊の日に向け、学校図書館での資料を展示するだけというのが主流になりつつあり、誰かが語るとい

うよりは、これまで残されてきた映像や証言集をもとに展示するというやり方がとられています。体験者が語らなくなる時代はそう遠くはなく、今後はこれまでに残された記録をもとに非体験者が継承していかなければなりません。その記録をいかに教員や次の世代である私たちが活用できるかが重要になります。

最後に、沖縄における平和学習の大きな課題は、平和教育＝沖縄戦学習になってしまっていることだと考えます。戦時中を学び、戦争を二度と繰り返してはいけないという教訓を学ぶことはできるかと思いますが、具体的に現在の平和を構築する方法を考える、という意味での平和教育としては、いまだ課題が多いのではないかと考えています。その方法は、明日、ご紹介したいと思います。

ご清聴ありがとうございました

これで沖縄チームの発表を終わります。  
ご清聴ありがとうございました。

## 質疑応答 ◆沖縄戦

**Q** 沖縄戦に対して知識や関心がある先生とそうでない先生では、どちらが多いのか。関心がある先生はどんな授業を行なっているのか。 | 広島

**A** 割合はわからないが、個人的に見る限りでは少ないと言うよりは減少してきていると感じている。コロナの影響もあり戦争体験者が教育現場に入れないこともあり、代わりに教員がその教育を行わなければいけない。沖縄県は小学校から高校までの12年間で沖縄戦を学んでおり、ある高校ではさまざまな地域での戦争体験をクラス単位で壁新聞として作成していた。学校単位で同じように学ぶのではなく、クラスごとに割り振って異なる戦争体験について学んでいたため、これはおもしろいやり方だなと思った。

**Q** 学生たちは壕を掘る作業の参加を拒否できたのか。その場合体罰のようなものはあったのか。また、このような日本軍による強制労働についてどのように感じているか。 | カンボジア

**A** ●学生たちは授業の一環として壕を掘る作業に参加していた。その壕が今後戦争に使われるという確信もないまま掘っていたため、当時は拒否する学生はいなかったと思う。体罰については、作業に疲れて休んでいる間に暴力をふるわれ働かされたという証言があるので、作業を拒否したことによる体罰というわけではないようだ。また、学生の中にははいやいや働く者も、軍服をもらって喜ぶ者もいたという証言があり、全員が無理矢理働かされていたと明言はできない。

●76年前の戦争を経験した沖縄では日本軍が絶対悪として語られている。しかし戦争を経験していない自分は、その兵士すら駒として扱われた存在だと思っている。加害性をもった軍隊も、被害を受けた住民も、みんなが被害者になるのが戦争だと考えているので、そういう意味で軍隊は持つべきではないと考えている。

**Q** 沖縄戦に関して日本政府から沖縄へ謝罪や補償などはあったか。ない場合、沖縄の人々は政府に対しどのような期待・不満を持っているか。 | 台湾

**A** 6月23日に行われる沖縄全戦没者追悼式では毎年総理大臣からのメッセージが寄せられるが、ここ10年間謝罪の言葉はない。補償については、日本政府は戦没者の遺族や負傷した方に援護金というものを出している。ただしこれは、仮に日本軍に壕を追い出されて外に出て亡くなった場合、「無理矢理追い出してしまった」という意味の補償ではなく、「日本軍のために協力して自ら壕を出てくれた」という趣旨のお金である。そのため遺族の中には受取拒否をした方もたくさんいる。戦後沖縄は非常に貧しかったため受け取った人ももちろんいたが、それでも、感情として受け取れない、と拒否した人もおり一律ではない。したがって、一被害者への政府からの補償制度はない。これは沖縄戦だけでなく東京・大阪の大空襲や南洋諸島での被害も同様で、一般市民の被害に対する補償はない。しかし従軍で亡くなった軍人・兵士・将校などへの援護金は戦後すぐに配布されており、そこが日本における戦争の今なお解決されない課題だと感じている。(大城先生)

政府への感情について、戦争の非体験者としては、日本政府は今後沖縄戦の歴史を反省の意味も込めて正確に残していくべきだと思っている。歴史を残すことと、沖縄が今後また戦場にならないような動き・外交を行うことを期待している。(沖縄チーム)

Q

濟州島では4.3事件を中心に平和学習を実施することが多いが、沖縄は他の地域での戦争などについてどのように学んでいるか。 | 韓国

A

- 沖縄での平和学習は、小学校から高校で6月23日の慰霊の日を中心に沖縄戦について学ぶ機会がほとんど。広島や長崎の原爆投下などの他地域の戦争体験については、教科書でその出来事の日時を把握するぐらいの、ほんの一部触れる程度で、この事業のように詳しく学ぶことはほぼない。
- 私は北海道出身だが、北海道の学校には広島・長崎・沖縄のような、平和学習とよばれる時間はない。そのため沖縄が他の地域の戦争について学ぶのと同様に、学校の授業でその出来事の日を学ぶぐらいしかしてきていない。

Q

1) 沖縄戦の原因はパール・ハーバーの件に対するアメリカの報復であるという記事を読んだことがあるが、これは正しいか。 | ベトナム

2) 沖縄戦が熾烈な戦いであったため、アメリカは広島と長崎に上陸せず戦争を終わらせたという資料を読んだが、これは正しい理解か。 | ベトナム

A

1) 私たちも沖縄戦を学ぶ際にパール・ハーバーへの攻撃についても学ぶ。タイミングとしてその後には沖縄戦が起きているため、そのような見方はできると思う一方で、それだけが沖縄戦の理由とはいきれないのではと思っている。(沖縄チーム)

2-1) わからない。長崎・広島からの意見を聞きたい。(沖縄チーム)

2-2) 戦後の公式見解として日本本土に上陸するには米兵が100万人ほど必要で、それを避けるために原爆を使ったという話もあるが、広島では新兵器の実験のため、というのがよく語られている。(広島チーム)

2-3) (ベトナムからの質問に対して) 長崎チームとしてはそのようには思っていない。また、原爆投下について、米国側は実験のためとは明言していないため断言はできない。ただ、原爆投下命令書の日本語訳の一部に「当爆弾の爆発効果の観測と記録を行わせるために原爆投下機に別の機を随伴させることとする。この観測機は爆弾の爆発点から数マイルの距離に留まることとする。」という記録がある。この記述があるため新兵器実験だと考えられる可能性はあるが、やはりテストとは明言はしていない。(長崎チーム)



## ディスカッション

## \*\*\*\*第1セッション\*\*\*\*

テーマ	平和な社会とはどういう社会なのか？
日時	2021年11月26日（金）
進行	沖縄平和協力センター（OPAC）
場所	沖縄空手会館

## ディスカッション概要

- ・平和な社会を構築していくには、いかにして過去の戦争が起きてしまったのか、それが現代社会にどのような影響を及ぼしているのかを理解することが重要
- ・平和な社会づくりには、経済的な独立とともに良好な国際関係の形成が必要
- ・日本国憲法前文にあるように、専制と隷従、圧迫と偏狭がなく全世界の国民が等しく恐怖と欠乏から免れ、平和のうちに生存する権利を持てる社会
- ・自国だけでなく、他国の戦争などの悲劇にも関心を持ち、それらを学び、継承していく必要がある
- ・日々の生活の中で小さな幸せを感じることができる社会が平和であるし、「戦後」という状態を継続していくことがその維持につながる
- ・平和な社会とは戦争がない社会であり、平和を護っていく姿勢を継続しなければならない
- ・平和な社会とは個々人が自分の考えを自由に表現できる社会ではないか

## ——ディスカッション（平和な社会とはどういう社会なのか？）——

## OPAC

ディスカッションを行います。この事業では、多くの被害者を生み出した悲しい戦争や事件が再び起きないように、継承していくことが大事なのではないかと考えています。参加者の皆さんは継承の重要性については理解されていると思います。本事業は、継承を続けることで目指すべき平和な社会像については触れてきていませんでした。そこで、この時間は皆さんがどういった状態を平和な社会であると考えているのか伺ってみたいと思っています。参加地域ごとに歴史や社会環境が異なるので、平和な社会に関する意見も異なるのではないかと考えていますが、そういったところがこのディスカッションで見られたらいいなと思っています。まずは各地域から意見を伺ってみたいと思います。

最初に沖縄チームいかがでしょうか？さきほどの発表では、平和な社会をいかにして構築すべきか、を考えると沖縄の平和学習において課題となっているという話がありましたが、皆さんはどのような社会になってほしいと考えていますか？

## 沖縄チーム

先ほどの発表で、沖縄戦のことだけを教える学習は平和の構築を考える学習とはいえないのではないか、という話をしました。私たちの考える平和学習というのは戦時中のことを学ぶことでその悲惨さなどを通じて、それが二度と起きてはいけないという学びを得るには必要なことだと理解しています。いかにして戦争がおきたのかというその背景を学び、戦争後から今につながる社会の流れを学ぶことを通じて、過去と現在を歩き来しながら学びを深めていくことが大事なのではないかと思っています。また、沖縄戦においては「米兵は鬼畜」とであると教え込まれる教育が一般住民に行われていましたが、私たちを含む多くの人が入れることのできる情報をしっかりと比較してその情報の正しさや事実を理解することが大事なことだと思っている。そうすることで、被害者や亡くなる必要がない人が亡くならないことにつながると沖縄チームは考えています。



## OPAC

過去のことをよく知り、過去に起きたことが現代社会にどのようにつながっているのかをきちんと学び、正しい情報を得ていくことが大事だという意見でした。平和な社会を作るうえでの方法について意見をいただきました。

続いて台湾チームにお伺いしたいと思います。2.28 事件について発表いただきましたが、継承が大事であるという認識は既に持たれていると思いますが、継承をしていくことでこういった社会になればいいと考えていますか？

## 台湾チーム

2.28 事件以降、台湾は対外的な影響を受けて緊張した国際関係にあります。そのうえ、台湾には様々な制度や意見が存在しており、台湾の国民は意見が分裂しています。したがって、私たちが目指す平和な社会はみんなの意見が揃って、自分の経済的な能力が独立しており、国際関係も平和な状態になるといいと思っています。



## OPAC

台湾国内では様々な意見があるが、これらが一つの方向に向かっていき、経済的に独立している、国際関係においても良好な関係が築けている、そういった社会を目指していきたいという意見かと理解しました。それでは次に広島チームの皆さんにお伺いしたいと思います。

## 広島チーム

構築すべき平和な世界とはわかりやすいところにあるのではないかと思っています。つまり、日本の憲法前文にて「平和を維持し専制と隷従、圧迫と偏狭を地上から永遠に除去しようと努めている国際社会において、名誉ある地位を占めたいと思う。われらは全世界の国民が、ひとしく恐怖と欠乏から免れ、平和のうちに生存する権利を有することを確認する」という文章があり、これが私たちの目指すべき平和な社会の形なのかなと考えました。



## OPAC

ありがとうございます。次にカンボジアチームお願いいたします。

## カンボジアチーム

まずはカンボジアの歴史を学び他国の歴史を学び、戦争のもたらす被害を理解することがとても重要であると考えています。これらを学んだうえで、なぜ戦争が起きてしまったのかその原因を模索することが平和な社会につながるのではないかと考えています。戦争の悲惨さなどを次の世代に伝えることによって平和な社会に貢献できると考えています。



## OPAC

ありがとうございました。続いて沖縄の会場にいる長崎チームにお願いしたいと思います。

## 長崎チーム

平和な社会とは、当たり前前の生活を当たり前前に送ることができる日々であると感じています。平和な時とはどんな時なのかと考えた際に、家族と過ごしたり、ご飯を食べたりなどの当たり前前にできていることが思い浮かぶのではないかと考えています。その一方で、紛争などの影響でその日を生きていくことができるのかもわからない人々もいます。やはり平和というのは私たちが当たり前前に過ごさせていることが平和なのではないかと考えています。「戦後」という状態を継続させるという考え方があります。語弊がないように、今も世界では戦争が起きているということを理解したうえで、戦時中のことをできるだけ残していき、教訓が語り継がれ、学びつながっていくという状態が平和を創るのではないかと考えています。少しややこしくなりますが、戦争が終わった今の時代を生きる私達が持っている感覚としての「戦後」を私たちが学び継ぐことで維持していこうという考え方なのですが、伝わると嬉しいです。



## OPAC

ありがとうございます。過去の戦争が過去の戦争のままで続いていく状態を平和な社会の形というように考えているのだと理解しました。次にベトナムチームに聞いてみたいと思います。

## ベトナムチーム

私たちが考える平和な社会というのは戦争がないということかと思いました。したがって、戦争の本質を理解することで戦争を阻止できると考えています。戦争は人の欲や競争によって起こされたものです。人の欲望が存在している限り戦争の危機があると思っています。特に今の時代は武器で戦うだけでなく色々な形式の戦争が起こる可能性があり、だからこそ平和を守る姿勢を継続することが大切なことだと思っています。



## OPAC

最後になりますが韓国チームよろしくお願いたします。

## 韓国チーム

昨日の発表では多様な表現の重要性に焦点を当てて発表をしましたが、平和な状態というのは自分の考えや表現を自由にできる状態ではないかと思えます。ただ、その際には体験世代の経験を十分に理解して勉強することが前提にならないといけないと考えております。

## OPAC

全チームから平和な状態について意見をいただきました。ありがとうございました。いくつか私のほうからも質問がありますので、お伺いします。まず長崎チームへの質問ですが、平和な日常が続いている状態を平和であると表現されていましたが、戦争がない状態ではありつつも、日々の社会では様々な問題が起きています。長崎チームとしては、様々な社会的な問題はあっても今は平和であると考えられているのでしょうか？

## 長崎チーム

いま私たちが暮らしている環境が平和なのかどうかはわからないのですが、日々の暮らしの中で平和と感じる瞬間があり、安心して眠れる日々が続いている、身に迫った危機がなく、小さな瞬間を幸せと感じることができているという意味でした。

## OPAC

ありがとうございます。「差し迫った脅威がない」という視点から台湾チームに質問があります。台湾では安全保障上の脅威をより感じる機会が多いのかなと思っています。しかし、同時に韓国の言っていた多様な表現の自由であったり、長崎が言っていた小さな幸せを感じる瞬間もあるのだと思っていますが、どうでしょうか？

## 台湾チーム

台湾の状況は微妙だと思っています。平和を感じることもできるときもあるし、平和を感じることもできないときもあります。台湾国内では好きなことができ、自分の好きな仕事を選ぶことができますが、台湾の周辺では微妙な動きがあり「台湾は平和である」と言い切ることはできないかなと思っています。



## OPAC

回答いただきありがとうございます。引き続き「対外的な脅威」ということで韓国チームに話を伺ってみたいと思います。韓国内では多様な表現が行われていると理解していますが、同時に対外的な脅威も存在している状態なのだと思いますが、今の韓国の状態は平和であるととらえていますか？

## 韓国チーム

韓国では表現の自由は憲法上でも保障されていますし、軍政が終わり民主化された社会となっています。日常の生活の中で人々が平等に自分の考えや表現を互いに発信しあう状況なのかについては、微妙なところがあります。社会の中で人間は相手側の感情や意見を考慮しなければならず、今回のように紛争や平和をテーマとする場合はどういう背景、経験、家族関係がわからないので自由に話し合うのは難しいのではないかと思います。



## OPAC

ありがとうございます。次にベトナムチームに聞いてみたいと思います。ベトナムチームからは戦争がないことが平和であるという意見があったと思います。ベトナムでは急速な経済発展が進んでおり同時に経済的な格差が生じているという資料を読んだことがあるのですが、戦争がない状態であれば経済的な格差はあっても平和であるといえるのでしょうか？

## ベトナムチーム

ベトナムでは、お金を持っていない人とお金持ちの人がおり差別があります。しかし、家族と一緒にご飯を食べるといった日常があることが幸せなのだと思います。



## OPAC

ありがとうございます。では、カンボジアチームにも同じ質問をしてみたいと思いますが、いかがでしょうか？

## カンボジアチーム

カンボジアは今平和ですし、国の治安もいいです。ただし、経済格差は非常に大きくなっていて、それは十分に平和であるとは言えないのではないかと思います。カンボジアの社会の中では格差が非常に大きく、汚職や派閥の存在などによって富める人は富めるままで、貧しい人は貧しいままという状態になりつつあります。



## OPAC

ありがとうございます。これまで平和について各地域から意見を述べてもらいました。残り時間が5分程度になりますが、参加者の皆さんで各地域から発表された意見に対して質問があればお願いします。

## 韓国チーム

私たちが伝えた平和な状態について補足説明をさせていただきます。済州島 4.3 事件については今年、特別法が改正されることによって韓国政府が事件の被害者個人に補償金を支払うことになりました。これによって、これまで不正義な社会だったものが正義なる社会に変化されていくことになります。こういった補償が平和な社会を導くうえでの転換になります。一方で、補償金を受け取る人と、受け取れない人の間で格差や不平等が生じ、これが社会的な不平等になるのではないかと危惧をしています。

## 沖縄チーム

台湾チームへの質問になります。さきほど台湾の周辺地域には課題があるというおりましたが、この課題を解決していくことが今回の事業のテーマである平和をどう作っていくのかを考えることに関連してくると思っています。皆さんはどのような解決を目指しているのでしょうか？

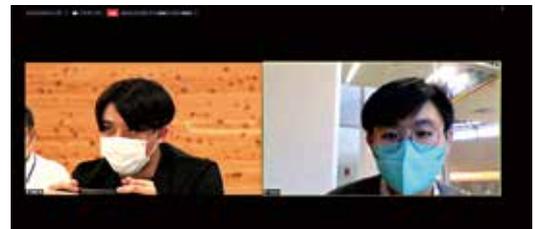


## 台湾チーム

これを解決するのはかなり複雑です。このようなディスカッションの中から解決策が導かれると良いなと思っていますのですが、この課題は何十年以上も続く課題であり解決は無理なのではないかと思っています。

## 沖縄チーム

台湾の周りには沖縄を含む日本やいろいろな地域がありますが、台湾周辺の課題に対してほかの地域からどういふかわり方があると思いますか？



## 台湾チーム

周囲の国家同士が協力して経済的に独立するというのは良い方法だと思っています。でも今の状況下では、台湾は国際組織に一度も参加することができていないし、道のりは遠いのではないかとと思っています。

## OPAC

沖縄チーム、台湾チームありがとうございました。ここでお時間になりましたので第1セッションを終了させていただきます。今回は平和とはどういう状態になりますか、という問いかけをさせていただきましたが、韓国からは正義の在り方について、台湾からは良好な国際関係について意見をいただきました。カンボジアからは経済的な格差からの話もありました、また、長崎からは日々幸せを感じる瞬間を継続させていくということが大事という意見もありました。次のセッションでは皆さんが情報発信をしていくためにはどういふ継承ができるのか考えてみたいと思います。

## \*\*\*\*第2セッション\*\*\*\*

テーマ	平和に関する参加地域間の共通理解と継承方法
日時	2021年11月26日（金）
進行	沖縄平和協力センター（OPAC）
場所	沖縄空手会館

### ディスカッション概要

- ・それぞれの地域で過去に何が起きたのかを学び、継承していくことはどの参加地域も重要と捉えている
- ・どの地域で起きた戦争や事件もなんらかの権力から抑圧を受けることが発端となっており、抑圧がない社会を作っていくことは、参加地域間で合意できる部分だろう
- ・本事業のように、異なる地域の人々が意見を交換して互いを理解することが平和な社会の形成につながっていく

## ——ディスカッション（平和な状態とは何か）——

### OPAC

ディスカッションの第2部を始めたいと思います。第2部については継承の在り方についてディスカッションができればと思っており、最終的にはアクションプランにそれがつながっていけばいいなと思っています。その前に、前のセッションの振り返りをする中で一つだけ聞いてみたいことがあります。平和な社会に必要なものとして、正義、良好な国際関係、経済的な平等、不平等がないなど、様々な意見がありました。ここに参加している7つの地域が共通して「大事だよな」といえるものはありましたか？もしそういったものがあれば、それが本事業から発信できる平和への思いなのだと考えたのですが、いかがでしょうか？

### 沖縄チーム

今の話は自分の国にとっての話なのか、それとも世界的な平和の話をしているのでしょうか？沖縄チーム内で話をしていたのは、自分たち独自の平和や安全を求めすぎるがゆえに加害性を持ってしまいそれに国民が加担してしまい、その結果、意識しないうちに加害性を持つてしまうのではないかと感じました。こういった場でそれぞれが考える平和というものを共有し、そのうえで穴のようなものを見つけることで争いがなくなっていくのではないかなと感じました。

### OPAC

単独の国の平和だけを考えるのではなくて、地域をまたいで目指せる平和を考えていくこともできるのではという考えなのかなと感じました。ほかのチームからも何かありますか？

### 長崎チーム

各地域が行った事件や戦争についての発表を聞いていると、自分が住んでいる地域や国の過去の歴史を知ること、それが忘れられないように継承していくということは共通していたのではないかと思います。



### OPAC

ありがとうございます。確かに、ここに参加いただいている皆さんは、過去に起きた事件や戦争を学びそれを継承しようとしているという大きな共通点であるなと思いました。

### 広島チーム

これまでの各地域による発表を聞いていると権力による抑圧によって色々な被害が生まれているとの印象を持っていて、権力による抑圧がない状態というのが平和な社会を考えるうえで共通する部分なのではないかと思っています。

### OPAC

次にカンボジアから手が挙がっていますね。

### カンボジアチーム

余談なのかもしれないが、まずはコロナウイルス感染症の終息を願っています。今回のように集まって一緒に学ぶことができたことは互いの歴史を学び、互いの新しい事実を発見して、互いを尊重して、近隣諸国と仲良くしたうえで、生活をしていくことを期待しています。



### OPAC

ありがとうございます。次に長崎チームから手が挙がっています。よろしくお願いいたします。

### 長崎チーム

質問があります。戦争がない状態ということが前提条件ということでしたが、韓国では停戦状態であり、韓国ではこの条件を満たしていないのではないかというお話ができました。

### OPAC

韓国の場合は確かに戦争がない状態とは言えないと思いますので、武力による攻撃がない状態という表現がいいのかなと思いました。貴重な意見ありがとうございました。この限られた時間でいろいろな意見を集めるのは難しいと思うので、少なくともたくさんの方がなくなってしまった悲劇や事件をともに学んで、共感したということが、皆さんに共通している点なのかなと思いました。

## OPAC

さて、残りの時間が20分程度しかないのですが、皆さんはどういう風に継承、発信をしていくのか聞いてみたいと思っています。自分たちの中ですでに考えているアイデアがあれば教えてほしいと思っています。そのうえでほかの地域からの意見なども聞いてみたいと思っています。

## 長崎チーム

このテーマに関連して沖縄チームの皆さんに質問があります。長崎では義務教育の間に8月9日あたりで必ず被爆者の体験講話を聞く機会があります。興味のあるなしにかかわらず、生存者の生の声に触れています。沖縄では小中高の間で生存者の方から直接声を聴く機会がありますか？もう一つは平和教育の時間をどうやって確保されているのかが気になっています。長崎では8月9日までに総合的な学習の時間を3コマ使って学習を行います。その3コマの中で先生方が平和学習の時間としていますが、ほかの地域ではどうなっているのかが気になっています。

## 沖縄チーム

体験者の話を聞く機会はまだまだあります。しかし、聞くことができない学校も増えてきています。多くの体験者がいたときには6月23日に向けて沖縄戦学習をする際に多くの学校が体験者の話を聞く機会がありましたが、最近では体験者の話を聞くことが難しくなっているというのが現状だと思います。

## 沖縄チーム

平和学習については、長崎のように3コマを使って平和学習をするということも行われていません。学校によっては1～2時間を平和学習に位置付けることもあるし、パネルだけを設置するだけという学校もあり、平和学習の時間を3時間も組むことができていないのが現状です。

## 広島チーム

広島チームのうち二人が広島出身です。広島も長崎と同様に総合的な学習の科目の一つで平和学習が行われてきたと思います。広島には言語・数理運用科という特別教科があり、これは国語や数学などのすべての教科を合わせて学習を行うという時間になっています。その中で学ぶ一つとして平和学習があり、毎週1回はこの言語・数理運用科の時間があり、そのうち月に1回くらいは平和学習に使われていたと思います。また、月に1回ほど外部の方を招いて講話があるなかで、3回に1回くらいは被爆者であったり平和活動をしている方が話をする機会があったと思います。8月6日前後になると学校で平和学習をしたり折り鶴を折るということもありました。

## 広島チーム

私が通っていた学校の前身は原爆で被爆した学校でした。そういった地域では、遠足などで平和公園に行き遊ぶこともあるが、平和学習もしたり、自分たちで慰霊祭を主催して慰霊祭を行ったりしました。修学旅行で外に出るさいに、自分たちの地域で起きたことを語れるようにするため、勉強するという取り組みがよく行われていました。

## カンボジアチーム

カンボジアでは1975年前後に起きたカンボジアの大虐殺については、中学・高校のカリキュラムの中に組み込まれています。プノンペン周辺ではトゥール・スレン虐殺博物館やキリングフィールドを訪れる機会もありますが、残念ながら地方ではトゥール・スレン虐殺博物館などに行くことはできていません。プノンペン周辺では国連主導のクメール裁判に参加することもありました。また、カンボジアチームの参加者の中には祖母からポル・ポト政権下ではどのような生活だったのか聞く機会がありました。祖母の親せきの多くが亡くなったこともあり、祖父母はその話をする際には非常に口が重く、涙を流していたと聞いています。

## OPAC

ではそろそろ時間になってしまいましたので、最後に何か質問があればそれを伺って終了としたいと思います。何か質問はありますか？

## 長崎チーム

平和活動をする方は女性の方が多く男性が少ないというイメージがあるが、ほかの地域ではどうでしょうか？

## 台湾チーム

台湾では女性と男性の割合はほぼ同じだと思います。

## 韓国チーム

男女の割合の差はあまりないのかと思います。

## カンボジアチーム

やはり平和学習などは女性が多いと思います。これは差別があるというわけではなく女性のほうが参加する傾向があるということです。ポル・ポト政権下で男性が殺されてしまったので女性が多いという側面もあります。

## ベトナムチーム

平和学習の代わりに1か月ほどの軍事訓練があり、これには男性も女性も参加せねばならないため、男女の割合に差はありません。今回の平和への思い事業では、ベトナムチームは女性の参加者が多いのですが、それは日本語学部には女性の学生が多いからです。

## OPAC

皆さんありがとうございました。本当は継承の課題なども聞いてみたいとは思っていましたが、タイムマネジメントが不十分だったこともありそこまで聞くことができずに申し訳ありませんでした。11月27日の報告会で行われるパネルディスカッションでは、課題についても質問がでるかもしれませんので、各チームで準備をお願いします。本日はありがとうございました。

### 3 成果報告会、閉会式

主催：沖縄県（主管：沖縄県平和祈念資料館）  
 受託事業者：特定非営利活動法人沖縄平和センター

#### 令和3年度「平和への思い（ウムイ）」発信・交流・継承事業 成果報告会 ～ For a bridge to peace across the ocean ～（平和の架け橋となるために）

日時：2021年11月27日（土）14:00～16:30（13:30開場）  
 場所：沖縄空手会館研修室

#### 次 第

14:00 開会  
 14:00～14:05 主催者挨拶 沖縄県平和祈念資料館 館長 雉鼻 章郎

14:10～15:20（70分） 第1部 成果発表（発表テーマ）

広 島	（広島県における原爆投下）
台 湾	（2.28 事件）
ベ ト ナ ム	（ベトナム戦争）
長 崎	（長崎県における原爆投下）
韓 国	（済州島 4.3 事件）
カンボジア	カンボジア大虐殺（ポル・ポト政権下の虐殺）
沖 縄	（沖縄戦）

（逐次通訳含めて各10分）

15:20～15:30（10分） 休憩

15:30～16:20（50分） 第2部 パネルディスカッション

ディカッションテーマ： 各地域の継承の現状とこれから  
 モデレーター： 沖縄キリスト教学院大学 教授 新垣 誠  
 パネリスト： 各地域からの参加者

16:20 閉会

## (1) 成果報告会

### 広島チームによるアクションプランの発表



広島チームが考えたアクションプランは、「自分の街を通して知ろう・伝えよう」です。

実行者は私たちで、様々な都道府県の大学生が集まり、自分の街の被害と被害の歴史についてディスカッションをするというものです。例えば、広島出身の学生であれば、被害の面として原爆を挙げる事が出来ます。これによって多くの死者が出ただけでなく、放射能による被害もあります。特に「黒い雨」と言われる雨を浴びた人々は、今年まで被爆者として補償を受けるために裁判をしていました。このように被ばくによる

影響は現在でも続いています。次に加害の面としては、軍都としての広島があります。広島城の周辺には軍の施設が多くありました。沿岸部には軍の港がありました。第2次世界大戦以前から何百万人もの兵士や物資をこの写真にある栈橋から戦地に送り出していました。また、日本の化学兵器製造拠点として、戦争で使用するための毒ガスの製造を行っていた大久野島（おおくのしま）もあります。

#### 今回の共同学習で学んだこと

アクションプランを作成するうえで今回のプログラムを通して、広島チームは戦争体験の継承について深く考えることが多くなりました。広島チームが考える継承とは、「二つの車輪」です。一つ目の車輪は歴史を知ることによって今の自分や社会を見つめ、未来へ向って行くことです。広島のことを学んできたから、私たちは未来に向けて核兵器の非人道性を訴えることができます。それとは別にもう一つの車輪として、例えば、自分とつながりのある人や街を忘れてほしくない、多くの人に知ってほしい、という気持ちがあります。

それは、シンボリックで悲惨な出来事だけでなく、戦時中にも実際あった温かい暮らしなど、現代の私たちに繋がりを感じられる部分です。この、俯瞰的な視点と個人の思いという「二つの車輪」を動かし続けるということが、今回のプログラムを通して、私たちが導き出した、継承する、ということです。これで広島チームの発表を終わります。ご清聴ありがとうございました。



## 台湾チームによるアクションプランの発表



私たちは歴史と平和について、若い世代に継承する方法はたくさんありますが、若い世代に興味を引き起こすための方法や、私たちが伝える方法を考えると、最終的に実行の可能性が高いのは、政治大学の音楽サークルを招き、「2.28 事件」から私たちが悟った「平和への思い」を含めた歌を作ってもらうことです。

政治大学黒音音楽研究会は私たちの大学の音楽サークルのひとつです。ヒップホップとラップの創作に力を入れ、サークルのメンバーは台湾のテレビ番組に出演しただけでなく、台湾の「金音創作賞」を受賞した

人もいて、若い世代に影響があります。そのため、私たちは彼らと一緒に平和に関する歌を作ってもらい、エンターテインメントの目的を達成することができ、若い世代が生活の中で「2.28 事件」と関連性のある議題に触れることができると思っています。

今回、各国の発表を聞き、交流した後、「平和への思い」を継承する面では、歴史・事件の事実の他に平和教育を教科書に入れることで、次世代がこれらの歴史上の悲劇をより深く認識できるかもしれないことが解りました。事件に関する記念行事の開催と記念館の設立もこれらの事件の真相と証拠を残し、より多くの人々に事実を理解してもらい、歴史の教訓を肝に銘じる事が出来ます。

平和への思いの発信については、ネットワークの発達と普及、及び人々の生活習慣に基いて、3つの有効な方法があると考えます。1つ目は、ツイッターやFacebook、インスタグラムなどのSNSを通じて平和に関連のある概念を人々の生活に浸透させることです。さらに2つ目はYouTubeを通じて歴史・事件に関する動画をアップロードします。例えば、台湾では「2.28 事件」の教育映像や公演をYouTubeにアップロードした例があります。最後の3つめは、映画・ビデオ・歌などの形で関連議題への注目を引き起こします。「2.28 事件」または事件後の台湾社会が白色テロに直面していた状況を知りたい場合は、以下の3本の関連映画をお勧めします。(非情城市・天馬茶房・返校)

## 今回の共同学習で学んだこと

今回のプログラムに参加して本当に勉強になりました。私たちは戦争と紛争から数多くの悲劇を学びました。日本、台湾、ベトナム、カンボジア、韓国は国民的な紛争の犠牲者ですから、私たちは平和の尊さに共感することができます。国が徐々に民主化されたとき、政府は歴史の空洞と平和への決意に対する責任を取るために何をすべきでしょうか。そして国民が平和への重要性を認識するのをどう支援するのか、これから考えなければならないことだと思っています。

このプログラムを通して、今から10年20年後の私たちの国や子どもたちは、どうということが過去に起きて、そしてなぜ平和な時代を楽しむことができているのかを振り返ることができると思います。ご清聴ありがとうございました。



## ベトナムチームによるアクションプランの発表

【ベトナム】[歌を作る]	
Who (誰か)	ベトナム若者
to/with Whom (誰に/誰と/誰に対して)	世界の若者
Do What (何をする)	・平和と歴史をテーマにする詩から歌、ラップを作曲 ・ハッシュタグをつけ、TIKTOKに投稿し、世界に共有

1つ目に、平和と歴史をテーマにする詩や歌、ラップを作曲し、ハッシュタグをつけてTIKTOKに投稿し世界に共有することです。最近ベトナムの若者の間ではラップの作曲が人気です。テーマは様々ですが、その中に平和をテーマにしたものもあります。

2つ目はベトナムの漫画家がベトナムの子どもや学生に歴史や平和に関するコミックを描いて、わかりやすく平和について伝えます。このコミックは分かりやすくリラックスできるので平和への知識を身に着けることができます。次は平和をテーマにした絵を描くこと

です。絵はどこの言語でも通じるとしますので、絵とSNSを使ってベトナムの若者の平和への願望を伝えて世界中に共有したいと思います。

### 今回の共同学習で学んだこと

まず、学校では勉強しない戦いを勉強することができました。例えば「沖縄戦」や「2.28事件」などです。また、毎日の生活では平和の大切さと戦争の凶悪さをあまり意識していませんでしたが、この機会のおかげで平和について再認識できました。

最後に、平和と自国の戦争について、各地域の若者の考えが理解できました。例えば、参加者は戦争や事件だけではなく、若者の感想もよく聞けました。

ご清聴ありがとうございました。

**今回の共同学習で学んだこと**  
What I learned in this collaborative study

- ・ 学校で勉強させない戦いを勉強になる。例: 沖縄戦, 228事件, 濟州島43事件
- ・ 毎日の生活では、平和の大切さと戦争の凶悪さをあまり意識していない。この機会のおかげで、平和が再認識できる
- ・ 平和と自国の戦争についての各地から若者の考えが理解できる。例: 参加者は戦争の事件ではなく、若者の感想についてよく聞く

## 長崎チームによるアクションプランの発表



今年、原爆投下から76年を迎え、被爆者の高齢化が進み、彼らの声を聞くことができない時代が迫っています。

「長崎を最後の被爆地に。」・・・この願いを受け継ぎ、これからも私たちは具体的な行動を起こしていきます。被爆者の皆さんとの縦のつながりを継承することで作り、学んだことを共有することで同世代との横のつながりを構築していけば、戦争や核兵器をなくすための運動の輪を世界的に広げる事が出来るのではないのでしょうか。

### 今回の共同学習で学んだこと

この1週間で私たちは直接見たり聞いたりして貴重な学びを得る事が出来ました。オンラインで各国とつながることで、ぜひ直接お会いして語り合いたいという思いがますます強まっています。私たちは、学ぶ、共有する、対話するというサイクルが重要だと感じました。また、学んだことを自分だけに留めず一人でも多くの人に伝えることが大切です。今回の事業では県や国を越えて繋がりました。長崎では平和に関連する団体は多く存在するものの、各団体や活動家がバラバラなのかもしれません。それぞれがつながり合えば多くのアクションを起こす事が出来ます。まずは、今回の1週間の沖縄滞在で吸収した知識や思いを長崎で確実に共有することを直近の目標にして取り組んでいきたいと思えます。

その一つとして2月に長崎でシンポジウムを開催する予定です。そこでは大人ではなく、私たち若者が主体となつてとことん会話する、濃い時間を作ろうと考えています。今回の事業を通して出会えた皆さまと再び対話できることを楽しみにしています。また、私たち5人のメンバーはキリスト教の大学に通っているのですが、大学のチャペルアワーや、ミサという学生が多く集まる場で、この事業で得たことを共有したいと考えています。

今回の事業を通して改めて、学ぶこと、共有することの大切さを実感しました。そしてオンラインではありますが、海外の人とも繋がる事が出来ました。ここで得た繋がりを活かし、これからも、「継承」「発信」という課題に向き合っていきたいと思えます。

ご清聴ありがとうございました。



## 韓国チームによるアクションプランの発表



韓国チームのアクションプランは「健全な戦いを保障し平和を創出・発信するハッシュタグを構築・運用」することを提案します。アジア太平洋地域を含む全世界の人々がこの情報の発信・受信、またコミュニケーションに参加できます。

現在、いかなる出来事も政府や外交レベルで常に歪曲され私たちに到達しています。例えば、沖縄戦やベトナム戦争などの情報は、ほとんど当時の米軍が残した写真で私たちは勉強しています。それは即ち米軍の目線が届かない死角地帯に到達できないことを意味します。更に私たちは海外のほとん

どの事件についても米国のニュースを通して接しています。米国の視点が込められ、米国の視覚で覗いた、歪曲された情報を受けとっています。

このような死角地帯からより直接的、かつ迅速な情報を得られる場が必要だと思います。虐殺や戦争などの暴力的な出来事は、全国的に或いは全世界に拡がる際には、ほとんどの内容や事実が変わって伝わる人が多いです。SNS という場が存在する今では、時間的・空間的な制約がほとんどないため、議論が出来る時間が早いです。また、事件の局面が転換して、事件に対する運動を始める機会や時期を早めることができます。

そして私たちは、各々の紛争社会において再びごめく不正義な言動をソーシャルメディアでリアルタイムに共有することで、互いの違いを認め、健全な戦いを補助して、平和を発信・創出するハッシュタグを構築し運用することを提案します。

アジア太平洋地域を含む全世界の人々がアジア太平洋地域を含む全世界の人々に、ユーザー同士がコミュニケーションだけでなく、多種多様な情報を生成、かつ双方向に発信・共有します。例えば、ヘイトクライムや差別煽動などをスマートフォンで撮影し、Instagramのハッシュタグなどで共有・伝播します。具体的には、実践例としては、昨年度の事業で韓国チームが提案した「平和プラットフォーム」を沖縄県が構築してOPACが運用してほしいと思います。その際に、2019年度から参加した他地域の人材は重要な財産になりうると思います。

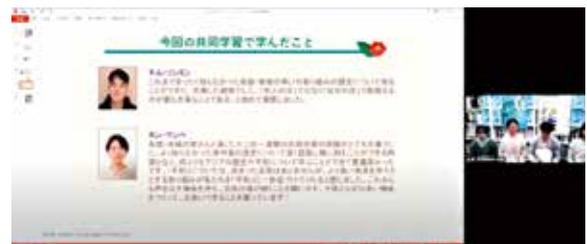
これは一つの例として、今回の事業の準備の時に作った私たちのInstagramの見本です。このようにリアルタイムで各地域の情報を共有できる場を作りたいと思います。

### 今回の共同学習で学んだこと

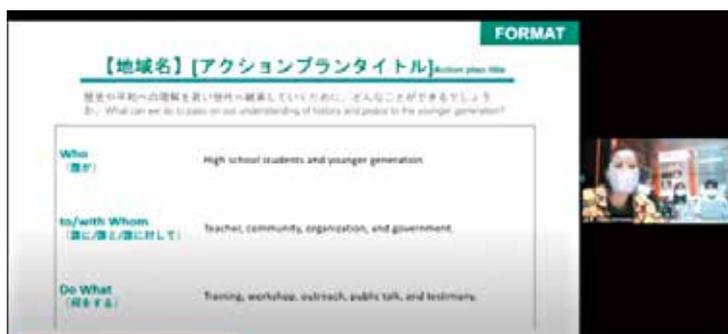
アジア各地の歴史や、その後における多様な難局を乗り越えてきた経験を聞いてお互いに議論することで、「平和」への思いが一層深まりました。まるで空気のような平和な私の日常を異なる視点で振り返ることができた意味深い経験でした。

私は今回のオンライン共同学習に参加することで、自分の故郷や先祖たちが経験した苦痛や苦悩だけでなく、他国・地域で起きた悲劇的な出来事を学び共感することができました。各々の「過去」を現在もしくは未来に繰り返さないために、私たちは、「過去」を特定の地域に限定する（特殊化）のではなく、世界どこでも絶えず言及すれば（普遍化）、平和という状態が実現できるのではないかと思います。

これまでまったく知らなかった各国・地域の争いや取り組みの歴史について知ることができた、充実した経験でした。「他人の目」ではなく「自分の目」で見据えるのが最も大事なことで、と改めて実感しました。各国・地域の皆さんと過ごしたこの一週間の共同学習の経験がとても大事でした。よく知らなかった済州島の歴史について深く認識し胸に刻むことができる時間となり、何よりもアジアの歴史や平和について学ぶことができ、意義深かったです。「平和」については、決まった正解はありませんが、より良い未来を作ろうとする取り組みが私たちに「平和」に一步近づけてくれると感じました。これからも声を出す機会を持ち、交流の場が続くことを願います。今後ともぜひ良い機会をつくっていただき、またお会いできることを願っています。



## カンボジアチームチームによるアクションプランの発表

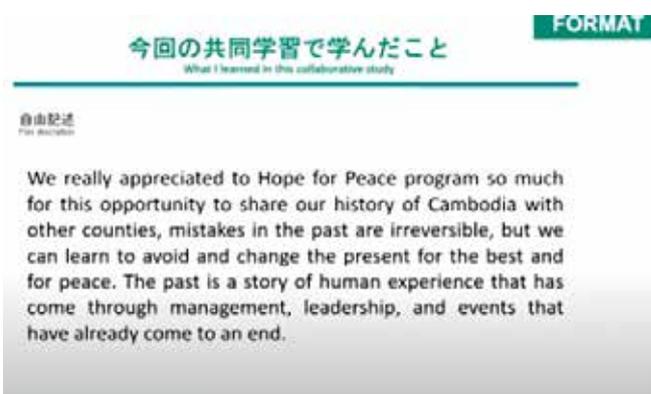


カンボジアの悲惨な歴史について次の若い世代に紹介します。地域の先生や、NGOの方々、また、教育省と協力して発信したいと思っています。発信プログラムでは、ワークショップやパブリックトークなどしたいと思います。内容としては、始めにクメール政権誕生について紹介します。次に、クメール政権下の人々の生活について紹介します。次の世代には戦争がどれほど大変か、どのような被害をもたらすかなどをきちんと伝えたいと思います。

## 今回の共同学習で学んだこと

今回の共同学習で、カンボジアの事だけではなく、他国の戦争の歴史について良く知ることが出来ました。カンボジアの戦争の被害について次の世代に発信したいと思っています。これから私たちは、他国の若者とネットワークを作って平和を構築したいと考えています。過去のことを良く知り、誤りを見つけて、次の若い人たちに伝えて平和な社会を創っていきたいと思います。

ありがとうございました。



## 沖縄チームによるアクションプランの発表



沖縄チームのアクションプランは「持続可能な次世代に繋ぐ平和学習の継承」です。沖縄戦を継承し平和を構築するための出前講座を提案します。出前講座は県内の小・中・高校生向けに、私たち大学生が沖縄戦を中心とした平和学習を行います。今回のアクションプランは高校生を対象とした出前講座を想定しています。内容としては、1時間目はインプット型で、沖縄戦を中心とした学習を行います。2時間目は戦前と現代社会を比較した学習をディスカッション形式で行います。形態は、1時間目は私たち大学生が沖縄戦について語り、高校生に沖縄戦につ

いて知ってもらいます。2時間目は大学生が一方的に語るのではなく、高校生を中心に、私たち大学生、高校生の両者が語り手、聞き手になり意見を出し合い、学びを深めていく形態です。

1時間目は沖縄戦の概要について講義します。特に自分たちと同じ世代の学徒隊について取り上げることで、戦争の悲惨さを身近に感じる事が出来ます。学徒隊の生徒も皆、部活をしたり、友達と遊んだり、恋愛したりと、今の私たちと変わらない生活を送ってきました。しかし、そんな日常が一変して、壕を掘ったり、看護の勉強をしたり、戦争に参加させられました。今の私たちととても比較しやすいことから、沖縄戦の中でも学徒隊について取り上げます。

1 時間目の狙いとして、沖縄戦を継承すること、沖縄戦の実態を学び、戦争や平和を「ジブンゴト」として考えられるようになることです。

2 時間目は、現代の社会と戦前を比較する学習をディスカッション形式で行おうと考えています。まずは、高校生に現代の社会問題をいくつか挙げてもらいます。その次に、高校生が挙げた社会問題は、戦争が引き起こした問題なのか、また戦争に発展し得る問題なのか、または戦争に関係しない問題なのかなどを考えてもらいます。その後、ピックアップした社会問題はどこから得た情報なのか、果たして正しい情報なのかなど、社会に溢れる情報を批判的に考えたり、今のメディアと向き合ってもらいます。最後に現代における社会問題と戦前を比較してなぜ戦争が起きたのかを理解し、今の社会で改善すべき点、76年前と変わっていない点、向き合うべき点がないかを考えます。

2 時間目の狙いは、現代社会を批判的に見られるようになること。現代の課題を発見し、当事者意識を持ちながら、問題を解決するための行動を考えられるようになること、そして、今が戦前になりうるという危機感を持てるようになることです。

次にこのアクションプランのまとめをします。一つには大学生が語る側に立ち、同世代に語ることで、76年前の遠い過去である沖縄戦を近くに感じてもらい、受け手が大学生、社会人になった後も語り手となれるようなサイクルを作ることを目指します。これまでは沖縄戦の継承が重要視されてきたと思いますが、これからは語り手の育成も同時進行することが重要だと沖縄チームは考えています。

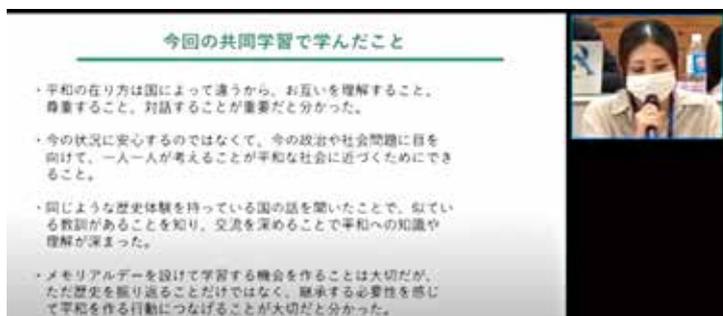
また、私たちの使命として、沖縄戦の教訓から、「二度と戦争を繰り返さない心」を育み、さらに平和を求める上で、被害者にも加害者もならないための平和を考え、戦争に加担しない平和を思考し続けることが重要だと考えていますし、私たち戦後世代の使命だとも考えています。

2021 年は戦後 76 年と言えるのでしょうか。今が戦後 76 年ととらえるのであれば、沖縄戦や平和の継承を考えることは遠くなると考えています。5 年後に戦争が起きる場合、今は戦前 5 年になるわけです。そういった危機感を持ちながら平和について考えることが大事だと思います。

## 今回の共同学習で学んだこと

一つ目は平和の在り方は国によって違うので、お互いに理解すること、尊重すること、対話することが重要だと思いました。二つ目は今の状況に安心するのではなく、今の政治や社会問題に目を向けて一人一人が考えることが平和な社会に近づくためにできることだとわかりました。三つ目に、今回の学習で、例えば、済州島 4.3 事件ではガマや山などに身を隠した沖縄戦と似ている部分を知ったことで、違う地域、違う戦争でも同じような教訓がある事を知りました。そのような国と交流を深めることで平和への知識や理解が深まりました。4 つ目に、慰霊の日のようなメモリアルデーを設けて学習する機会を設けることは大事ですが、ただ歴史を振り返るだけでなく、継承する必要性を感じて平和を作る行動につなげることが大切だと思いました。

ご清聴ありがとうございました。



今回の共同学習で学んだこと

- ・平和の在り方は国によって違うから、お互いを理解すること、尊重すること、対話することが重要だと分かった。
- ・今の状況に安心するのではなく、今の政治や社会問題に目を向けて、一人一人が考えることが平和な社会に近づくためにできること。
- ・同じような歴史体験を持っている国の話を聞いたことで、似ている教訓があることを知り、交流を深めることで平和への知識や理解が深まった。
- ・メモリアルデーを設けて学習する機会を作ることは大切だが、ただ歴史を振り返るだけでなく、継承する必要性を感じて平和を作る行動につなげることが大切だと分かった。

## 成果報告会／パネルディスカッション モデレーター：沖縄キリスト教学院大学 新垣誠 教授



## &gt;モデレーター（新垣誠）

今回参加された学生の皆さん、本当にお疲れさまでした。日本国内もそうですが、海外からオンラインで参加された皆さん本当にお疲れさまでした。一週間にわたる、研修、交流、大変だったと想像しますが、皆さんの報告、アクションプランを聞いて、かなり私も感銘を受けました。

そして今回なんといっても、この事業のタイトルが「平和への思い」となっています。

この最後のセッションでは、皆さんと一緒にこの「思い」ということに焦点を当てて皆さんにお話を伺ってみたいと思います。

なぜかと言うと、皆さんの報告の中に「伝える」という言葉が何度も出てきました。しかしながら「伝える」ということイコール「人の思いを動かす」ということには必ずしもならない現実があると思うからです。

実際に何度も戦争を繰り返し、その大変さを知っている人類は未だに戦争をやめようとしません。今回のディスカッションでは、「思い」ということから「共感」という言葉をキーワードとして設定したいと思います。

いかにして、「情報」「知識」「理解」のはるか向こうにある「共感」というものをどうやって作り出せるのか。それは皆さんの周りでもあるかもしれませんが、その次の世代、そして世界の人々との「共感」を作り出していけるかだと思います。

何度も人類は戦争を続けていると言いましたが、第2次大戦後、ユダヤ人としてホロコーストの迫害を受けた、有名なアルバート・アインシュタインとシグムント・フロイトが、アメリカに亡命して、その後書簡を交わしております。

その書簡の中で交わされた言葉に、戦争に対する「生理的嫌悪感」という言葉があります。二人のユダヤ人はこの戦争に対する「生理的嫌悪感」という言葉に深く共感しました。ということは「共感」は生み出せるはずですよ。

さて、皆さんに、次世代、そして世界の友達、仲間たちとどうやって「共感」というのを作り出していけるのか、その課題を皆さんに聞いてみたいと思います。

答はすぐに出せないかもしれませんが。半分は皆さんへの宿題となるかもしれません。

まず、広島チームの皆さん、皆さんの報告の中で、「個人の思い」という言葉が出てきました。この「個人の思い」を次の世代、そして世界の仲間に伝える方法があると思いますか？

## &gt;広島チーム

自分たちが使った「個人の思い」という言葉は、実際にこのチーム内で、ひいおじいちゃんの経験を知って、そこから平和教育や平和学習に関心を持ったという経験から来ています。悲惨な戦争を見て学ぶことも大切ではあるが、自分のつながりがある所から、自分の中に一つ軸を持ち、その軸を通して様々なものを見ていきます。修学旅行で見聞きすること、自分が住んでいる地域の事でも、自分たちがその軸を持って活動すれば、その次の世代にもつなげていけると思います。

## &gt;モデレーター

次の世代でも、皆さんと同様に熱い思いを持てると思いますか？

## &gt;広島チーム

個人的な考えになってしまいますが、「同様に」というのは難しいと思います。私のひいおばあちゃんが被爆者で、私は被爆3世です。私の親族が被爆者であるということが私の気持ちになるので、次の世代となると遠いことになると思います。「同様に伝える」というのは難しいと思いますが、例えば今回の平和学習で視察した沖縄県平和祈念資料館で戦争体験者の証言が残されていました。私にとってはその体験者は近い人ではないけど、それを見ることで「共感できる部分」「考えさせられる部分」があったので、残し方によっては全く同じではなくても方法によっては大きな思いを残せるのではないかと思います。

## &gt;モデレーター

被爆体験はある意味非常に特殊な体験なので、世界の人々に伝えるには非常に難しい問題ではないか

と思いますが、今回の平和学習に参加した皆さんや、それ以外の同世代の皆さんにどのように「共感」を生み出すことができると思いますか？

#### >広島チーム

自分たちの発表でも触れましたが、戦時中にあった暮らしを知る事だと思います。広島で数年前に公開された「この世界の片隅に」という映画では当時の日々の暮らしにあった温かい部分を感じる事が出来ます。そこに、今の自分の「つながり」を感じる事が出来たら世界の人も「共感」を持ってもらえることができると思います。

#### >モデレーター

なるほど。先ほど沖縄チームから今を「戦前」ととらえることもできるという発表がありました。軍事的に危機的状況が沖縄の近くでもありますが、そういうことを考えると「戦前」を思い出すこと、想起すること、もしかしたらつながっているかもしれませんね。

#### >モデレーター

台湾チームの皆さん。アクションプランの中に、「平和の歌を作る」ということがありました。「2.28事件」はかなり若い方の間ではあまり語られなくなったと思いますが、その反面、現在台湾の政治にも色濃く反映していますね。この、歌を作る、ということも多くの子に「共感」を生み出せると思いますか？又は、他に方法があると思いますか？

#### >台湾チーム

「歌」での次の世代にも共感してもらえるとします。そもそも、「2.28事件」が若者になぜ共感が生じないのか考える必要があると思います。若い世代は自身で悲劇を経験したことがありません。「2.28事件」の恐怖を感じる事が出来ません。どうやってこの恐怖と平和を繋げるかを考えなければいけません。2019年に台湾の台南市で、芝居の形で市民の前で「2.28事件」を再現しました。私自身は現場ではなくYouTubeで見たのですが、周囲にいた市民の中には泣いている方も少なくありませんでした。この



方法もいいと思います。

#### >モデレーター

演劇を見て、こころを動かされた人がいたということですね。これは、台湾の国内だけでなく海外の若い世代にも「共感」が出来ると思いますか？

#### >台湾チーム

そう思います。

#### >モデレーター

ベトナムチームの皆さん、皆さんのアクションプランの中に「ラップ」というのが出てきました。皆さんのなかで「ラップ」が流行っていることから「ラップ」から色々なことが伝わっているんですね。皆さん自身も「ラップ」という形で心を動かされたことがありますか？ または、「ラップ」以外で若者の心を動かすような何か流行っているものがありますか？

#### >ベトナムチーム

「ラップ」で戦争や歴史、平和について歌にするのはいい方法だと思います。また、ラップの他にマンガもあり、最近では歴史を伝えるマンガもあります。

#### >モデレーター

マンガを読んで心を動かされたり感動したりすることもあるんですね。

#### >モデレーター

長崎チームの皆さん、始めの折り鶴の歌は涙が出そうなくらい感動しました。皆さんは、歌以外に、若者の心を揺さぶるようなメディアがありますか？

#### >長崎チーム

メディアとなると最近ではやはりSNSだと思います。インスタライブというものがあり、リアルタイムで誰でも視聴でき、共有できる点が大きなポイント

トだと思えます。

また、長崎に被爆者の方々に構成されている「ひまわり」という合唱団があり、式典やイベントで歌を歌っていて、心を揺さぶられます。被爆者自身からの声はものすごく大きいと思います。長崎の平和学習ではまだ被爆者自身の声が聴ける時代なので、直接聞く、見るということが大事なのかなと思います。身近なところから発信されるもので心は動かされると思います。どれだけメディアが身近かどうかで自分の印象や考え方は動かされると思うので、メディアという部分で平和を発信したいし、見ていきたいと思います。

### >モデレーター

今回、皆さんの報告を聞いて、非常に多くの学びがあり、熱い思いを持ったと感じられますが、皆さん自身は共感を生み出すためにどのような伝え方をしたいと考えていますか？



### >長崎チーム

よく、このような活動（平和学習）は敷居の高いものだと思われがちですが、このような活動を始めるきっかけは意外と小さなことだったりして、ふとした瞬間に平和を感じることで、このような事業に参加するきっかけになります。ふとしたことで平和を感じることは自分たちだけでなくほとんどの人がそうだと思います。ですので、小さなことから平和を見出していき働きかけを自分たちが出来れば、より多くの人にこのような事業に関心を持っていただいて、更に知識を深め、国内外の歴史にも触れていただければいいかなと思います。

### >モデレーター

ありがとうございます。それでは、次は済州島の皆さん。皆さんの報告の中に「情報共有」「情報発信」をもっと強化していくべきだという話がありました。SNSの活用ということがありました。やはり皆さん、若いだけあってどのチームもSNSの話が出てきたと思います。韓国もSNSでのやり取りや交流が進んでいますが、皆さんSNSを活用した方法で特に人の心

を動かすような、人の気持ちを「共感」に導くような発信の方法を考えたことはありますか？ もしくはわかりますか？

### >韓国チーム

まず、「共感」や「共感の形成」は一方的ではだめだと思います。従来の記念館などでの教育自体は一方的なので双方向の交流が大事だと思います。そこで私たちはVRのような最先端の技術を、全く経験したことのない世代や他人に私たちのかつての苦悩や熱い思いなどを他の人々と共感できる媒介として使いたいと思います。VRで歴史上の人物が登場して、当時の事件や戦争について説明し、リアルな空間を直接体験できる機会を与えられている自分を記録してYouTubeなどで公開して共有したりするのもいいと思います。このように最先端の技術を活用するのが経験したことのない人と繋ぐのは一つのアイディアとしてあげます。

### >モデレーター

ありがとうございます。これはまた先を行った技術的なイノベーションの話ですね。完全な体験でなくても追体験としての形が作り出される。先ほどの台湾チームが言っていた、ストリートでの劇の話もありましたが、それで人々が感動したり心を動かされたりするなどの仕組みが作り出されればすごいことですね。平和学習に新たなイノベーションが起るのではないかと期待しています。韓国の技術力では本当にできそうですね。

### >モデレーター

それでは、カンボジアチームの皆さん。皆さんは「次世代への発信」ということを話されていました。次世代に事実を伝えることですが、人の気持ちを動かせるような方法は思いついていますか？

### >カンボジアチーム

まず一つは教育の場で若い人たちに事実を伝えますが、それだけでは不十分なので、キリングフィールドやトゥール・スレン虐殺博物館を案内し、より理解を深めてもらいたいです。

もう一つは、自分たちの上の世代はすべてポル・ポト政権下の被害者なので、その背景を基に発信ができると思います。

### >モデレーター

そうですね。カンボジアにおいてはまだポル・ポト

政権を体験した沢山の方々がまだご存命ですね。私自身もキリングフィールドとかトゥール・スレン虐殺博物館などに行って本当につらかったです。3日間くらいなされました。物が語る力というのはあると思います。今後も若い世代に「怖い」という恐怖から、もう少しポジティブな「平和を願う気持ち」にどのように転換していくのが課題かと思います。

### >モデレーター

沖縄チームの皆さん。皆さんからは「戦争をしない心を育む」という大きなキーワードが出てきました。皆さんの方法の中心となっていたが「平和学習」ということでした。皆さんも6.23(慰霊の日)を中心に平和教育を受けていたと思いますが、そういった中で、「平和を育む心」が作り出された、そして戦争(暴力)を止めるような心に繋がっていたという実感はありますか？

### >沖縄チーム

これまでの平和学習を受けて、戦争を繰り返してはいけないという教訓は伝わっていると思いますが、自分たちがどのように戦争をしないが、平和を作るかについては全く繋がっていないと考えています。自分たちも平和のために(戦争や暴力に)加担するかもしれないし、そうなってくると平和とは言えないと思います。「沖縄戦」だけを学んでいると戦争の作り方や平和の創り方を知らずにどちらかに傾いてしまうと考えています。ですので、これからは本気でこれまでの戦争の継承に加えて、平和の創り方を同世代で語り合うことが重要だと考えています。

### >モデレーター

なるほど。皆さん、同世代で交流したり話し合うこと言うことを話されていました。これはとても重要だと思います。そういう中で、沖縄戦の記憶以外に、どういことを同世代の仲間と語り合うことが平和の心を育むことになると思いますか？

### >沖縄チーム

私たちは学校教育の現場でどういう伝え方をしていくかということを提案しました。沖縄戦を学ぶだけ



では平和構築までできないと現在の課題として考えています。沖縄戦という「過去」から学んで、現代の社会ではどのような問題が引き起こされているか、戦争が関係しているのかまで考えることが出来れば、今の社会と向き合って平和を構築することができるのではないかと思います。

### >モデレーター

戦争のときにあったことを学ぶということは、おそらくすべてのチームの皆さんに共通していることだと思います。過去の経験から学ぶということの大切さというものを今回の学習を通して確認されたと思います。

先ほど、「戦前の生活」という話がありましたが、広島チームも長崎チームも触れていました。そこにあった日常の生活が戦争に向って行ったということを読んでいくと、逆に自分たちの今の生活はどうなんだろう、という問題意識が出るということですね。私たちの日常にある様々な小さな動きが、もしかしたらまた新たな戦争への道を開いていく可能性もあるということに、皆さんのような若い世代が考えていかないといけない、ということをお皆さんが共通して認識していると感じました。

### >モデレーター

それでは、フロアの皆さんから質問を受けたいと思います。

### >来場者

韓国チームの発表の時に、「ネットワーク作りを日本がやって、OPACが運営する」というように聞こえました。この事業の1年目に、参加した各国の若い皆さんたちが、事業を終了後もSNSなどを使ってお互いに自分たちの成果報告を継続的に報告したり、あるいは他国のアクションが他の地域に活用できないかということ継続することになっていたと思います。今年3年目に、そのネットワークづくりを、若者たちではなくて国主導で作って大人のOPACに運営してほしいというのが出てきました。この事業は若者自身がアクションを起こすということが重要ではなかったのではないかと思いますので、何故、韓国からあのようなアクションプランが出てきたのか教えていただきたいと思います。

### >韓国チーム

ご質問ありがとうございます。平和プラットフォームはインターネット上のある種の「空間」です。い

いわゆる「建物」ですがその建物を作っただけならば、その空間＝建物をこれまでの事業の参加者や全世界の人々がユーザーになり、このプラットフォームを用いて平和の発信や交流、情報の交換場所として活用できるということです。

### >来場者

回答の意味は分かりましたが、やはり政府とかある機関が入ると、特に誰かがお金を出してなにかを作るというのは、若い皆さんが政府を信用しているかもしれませんが、「戦争」という点を考えると政治的な駆け引きなどが出てくるのかなと思います。そういうところとは全くかけ離れたところで、若い皆さんが自由に自分たちの力で構築してもらいたいと思います。3年間で30数名の参加者がいるので、その人たちが中心になってクラウドファンディングや会費制で運営するなど、皆さんならできると思います。あまり大人を頼らずに自分たちでやっていただきたいと、この事業を3年間見続けて来てそのように思いました。

### >韓国チーム

今のご意見は、多分、韓国と日本の政治制度の違いによるものだと思います。韓国では政府も交代できる、また市民も一人一人がプラットフォームを作る力を持って社会を変動する経験があるので、学生からもこのような意見が出たと思います。また、このような、政府がプラットフォームを作って運営するということは、人々が何もやっていない、ということではないです。

### >モデレーター

韓国の民主運動から学ぶことはたくさんあり、済州島の中でも社会運動は世界的に注目されているところもあります。

この3年間にわたる事業の参加者で、まずはWEB空間でプラットフォームを構築するというのはいかがでしょうか。そのあと運営についての議論はどんなことができると思います。

今年、昨年、コロナの影響で実際に顔を会わせていないという現状があると思います。ぜひ今後は顔を会わせて、皆さんの「平和への思い（ウムイ）」を共有していただいて、更に交流の中から熱量を高めて東アジアの「平和のプラットフォーム」を皆さんで作ります、ということがあってもいいと思います。私は大人ですが、いくらでもサポートしたいと思います。



今回、プラットフォームづくりの提案がありましたが、これは平和学の親として有名なヨハン・ガルトゥング博士が、東アジアの共同体とか東アジアの平和という点で提案した案件でもあります。東京や北京やソウルなどの中心ではなく、沖縄や済州島や長崎や広島などの周辺から構築されるネットワークに平和が持つ意味や力がこもるのではないかと提案です。今回、「共感」をどう作り出すかという点で、皆さんは「学び」や「伝える」ということを集中して考えられたと思います。私自身大学で「平和学」を教えているながら、やはり知識や、学習や、伝える、ということだけでは到底実現できそうにない「平和」という壁に日々ぶつかりながら、いかにして人々の間の平和の大切さ、暴力への嫌悪感を持つか、などについて考えます。今日は皆さんに、この難しい問いを投げましたが、この先も若い世代の皆さんの間で、知識だけでなく熱い思いが必要だと思います。

今回の皆さんの報告に、SNS、ラップ、歌、劇など様々な提案がありました。おそらくこのような表現の在り方は、知識や理解を越えて人々の心を結び付け、人々の間に同じ「平和への思い（ウムイ）」を作り出す力になると思います。

これからも期待しておりますので、皆さんの世代で私たち（大人）がやって来た挑戦をさらに超えるような挑戦をして「平和への思い」を会場の皆さん、ネット上の皆さんに広げてほしいと思います。

以上で、パネルディスカッションを終了したいと思います。ありがとうございました。

## (2) 閉会式



閉会挨拶 沖縄県平和祈念資料館  
館長 雉鼻章郎

共同学習に参加していただいたみなさん、6日間本当にお疲れさまでした。戦争や紛争の被害だけではなく、その後の歴史や継承の方法については国や地域で大きな違いがあって、これまで私たちが学んだり、知っていたことだけではなく、新しい見方というものも得られたのではないかなと思います。皆さんはそれぞれの国や地域で社会を作る一員です。平和を願うだけではなく、平和を創る人になっていただければと思っています。そして、一人でも多くの方々とつながって、国や地域を超えてネットワークを広げてほしいと思います。

今回の共同学習の実施に多大なご協力をいただいた各地域の指導者の方にもお礼を申し上げます。事前学習、そして共同学習のサポート、各地域の歴史やその教訓、共同学習で得られた学びを沖縄の子どもたちとも共有していただければと思っています。

最後になりますが、今年度の事業実施にご協力いただいた受託事業者のOPACの皆様、オンラインでの共同学習でのサポートをいただいた技術関係の皆様、日本の参加者向けに多様なプログラムを提供いただいた各施設、団体の皆様へ深く感謝申し上げます。本当にお疲れまでした。

平和学習も進めていただきたいのですが、ぜひぜひまた沖縄に遊びに来ていただければと思います。ありがとうございました。

## 各地域からの感想発表

### ○広島チーム

広島チームは同じ大学から参加していることもあり、あまり深く話すことがなく、沖縄に来て事業に参加しました。アクションプランを考えたりする中で、色々議論をして、皆で共感できる部分であったり、共感できない部分をどう解決していくかという話をしていく中でまた新しい道が見つかってきたのかなと思います。本当に濃くて、長くて、そしてすごく短い1週間でした。貴重な体験をさせていただきありがとうございました。



### ○台湾チーム

今回参加して、本当に色々なことを学びました。もともと知らなかった事件や歴史の悲劇を勉強することができました。一番印象に残っているのは、カンボジアチームが紹介してくれた大虐殺事件で、本当に勉強になりました。この6日間は本当に充実していたと思っています。ありがとうございました。



### ○ベトナムチーム

大変貴重な機会をいただき、みなさんありがとうございました。このように長くて国際的な事業には始めて参加しました。この事業を通じて、たくさんのことを学ぶことができました。今後もまたこのような事業に参加したいと思っています。ありがとうございました。



## ○長崎チーム

皆さんお疲れ様でした。日本から参加している3チームをご覧いただけるとわかると思いますが。男性の参加者がとても少ないので、もし次このような活動に参加する機会があれば、男性の参加者もぜひ増やしたいと思い、大学に戻って何が原因なのかいろいろと聞いてみたいと思います。1週間ありがとうございました。



## ○韓国チーム

とても貴重な機会、瞬間を皆さんと一緒に経験しました。新型コロナウイルスの影響で、私たちも日本に直接行くことができず、こういう風に画面上でしか議論ができないのが非常に残念でした。ぜひ来年は沖縄に集まって、たこ焼きやお好み焼きを一緒に食べながら議論をしてみたいと思います。皆さん本当にありがとうございました。



## ○カンボジアチーム

カンボジアチームは今回参加させていただき本当に感謝しています。また、機会があれば声をかけていただきたいと思っています。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。



## ○沖縄チーム

皆さんお疲れさまでした。今回こうやって7地域から人が集まり勉強できたことがとても嬉しかったです。そして、私たち日本のチームは対面で参加することができたのですが、対面で参加できることが本当に楽しくて、海外の皆さんにもぜひ対面で参加してほしいと思っています。来年も事業の実施をよろしく願います。今日で報告会も終わってしまいましたが、これで終わりではなくて、私たちがそれぞれの地域に帰ってから、そして地域の外にいても意識して学びを続け、継承をしていければいいなと思っています。みんなにあえてよかったです。



6日間にわたる共同学習は、各地域の発表や積極的な質疑応答がなされた。発表や質疑応答で得られた新たな学びをもとに報告会では、各地域から個性あるアクションプランが発表された。

閉会式の最後には、参加者はそれぞれの地域でソフトドリンクを準備し、6日間の頑張りを労うために「乾杯！」を行った。

## 成果報告会／来場者アンケート結果

開催日時	2021年11月27日（土） 14:00～16:30
開催場所	沖縄県空手会館 研修室
来場者	17名（アンケート回答数12名）
オンライン配信視聴者	25名

### 集計結果

#### ◆年齢別構成

20代	30代	40代	50代	60代	80代
2名	1名	4名	2名	2名	1名

#### ◆来場者感想

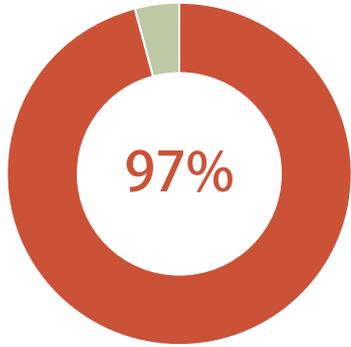
- 長崎の発表の歌がしびれました。各チーム素敵な報告をありがとうございます。大変良いものが聞けました。これからの彼らの活躍が頼みです。
- 研修期間、参加者がどのような話し合いをし、どんなふう to 考えを組み立てたのか、どういう風にお互いに刺激し合えたのか、それも聞きたかったです。後日でも、1週間のやり取りを知れるように何か情報を流してほしいです。
- 沖縄チームの「戦後76年と言われるが、もしかしたら戦前かもしれない」という発言にドキッとしました。各国の過去の過ちの学びから、現在の社会の情勢までつながっていて、これからの若い世代が交流して、学び、共感して平和への思いを繋いでいけたら素晴らしいことだなと感じ、応援しています。台湾、ベトナムの学生さんは日本語で発表して、親近感を持ちました。
- 若い世代の皆さんの「平和への思い」に感動しました。私も共感力を持ってこれからも人に優しく、考えていきたいです。
- 継続してほしい事業です。
- 各チームからの発表も大変素晴らしかったです。パネルディスカッションにおいて「共感」ということをテーマにして進めていったことが印象に残りました。育ってきた環境や今置かれている状況も異なる若者が相手の事を知り、少しでも理解を深め合っていくことが大切だと思いますので、そのきっかけとなれたら良いと感じました。
- パワーポイント資料の文字が読みづらかったです。
- 参加している若い皆さんが「平和」に対して真剣に考えていることが良かったです。このような取組が継続されればと思います。
- この事業は毎年成果を残されていると思いますが、3年間で参加した学生の皆さん同士のつながりはどうなのか、各国若者のネットワークの構築がどうなっているのかが非常に気になりました。参加者一人一人の学びと気づきを「事業成果」としてどう継続していくのかが気になります。
- 事業のOB、OGを含めて交流を深め、若者がネットワークを構築することを期待し、それができる事業を考えていただきたいです。
- 韓国（済州島）の、平和の為のアジアのプラットフォームづくりは大事だと感じた。
- 平和構築には各地（各国）の学生を中心とした若者の「発信・交流・継承」が最も大切なことだと思いました。平和学習に取り組む若者たちに感銘を受けています。



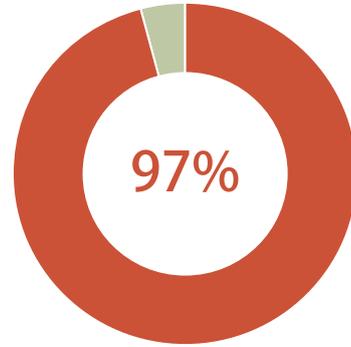
第3部  
事業評価

# 1 アンケート結果

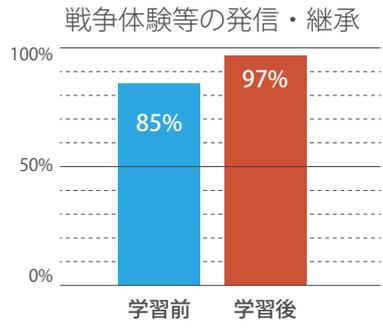
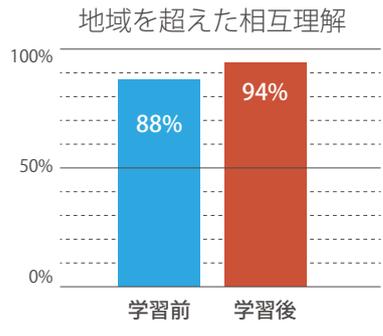
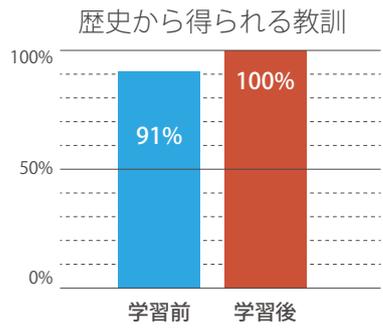
**本事業の全体的な満足度**  
「とても満足」「満足」と回答した参加者



**平和構築に関する意識**  
「非常に高まった」「高まった」と回答した参加者

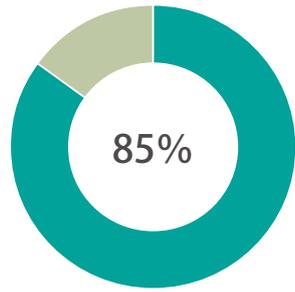


**テーマ別 興味・関心度の変化**  
「関心が」とてもある」「ある」と回答した参加者

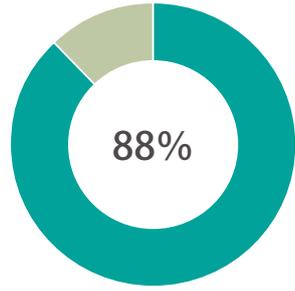


**事業評価および関連度**

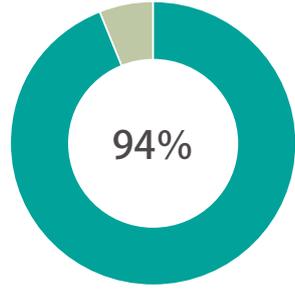
沖縄戦および他国の歴史についての総合的な理解度



事業運営に関する満足度

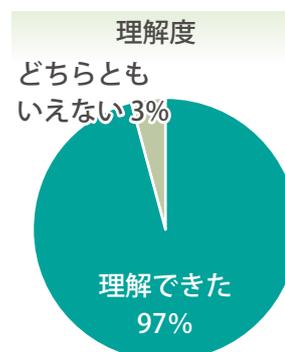
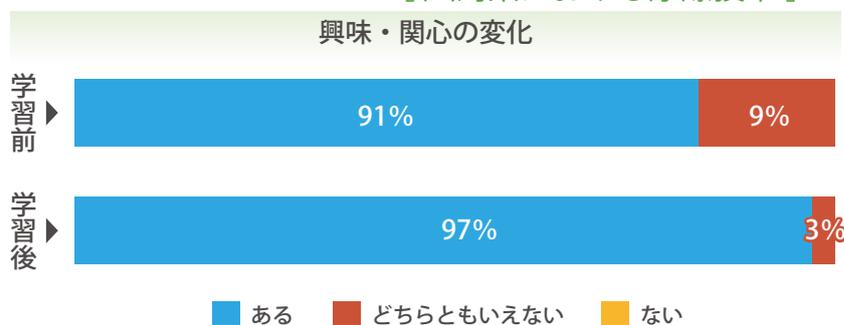


本事業と自分の専門との関連度

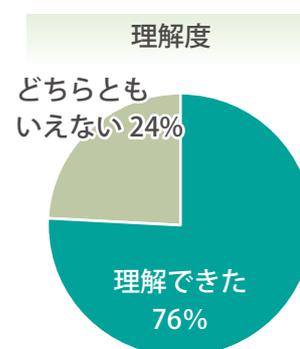
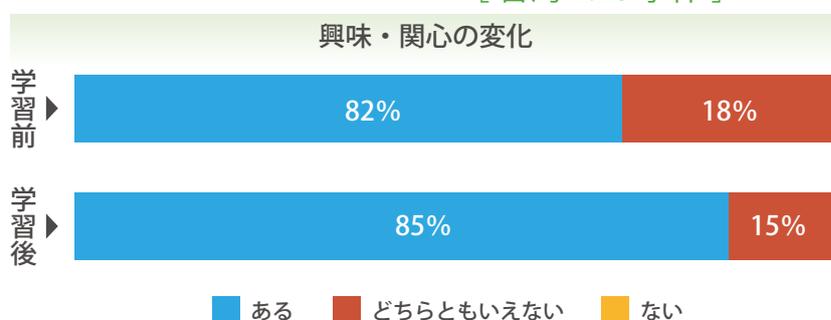


## 参加者の興味・関心の変化と理解度

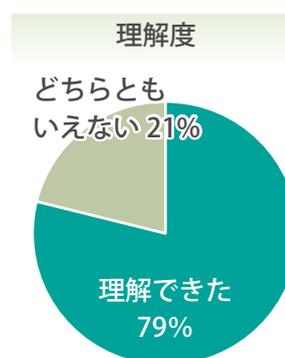
### [ 広島県における原爆投下 ]



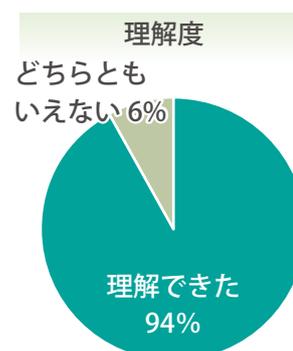
### [ 台湾 2.28 事件 ]



### [ ベトナム戦争 ]

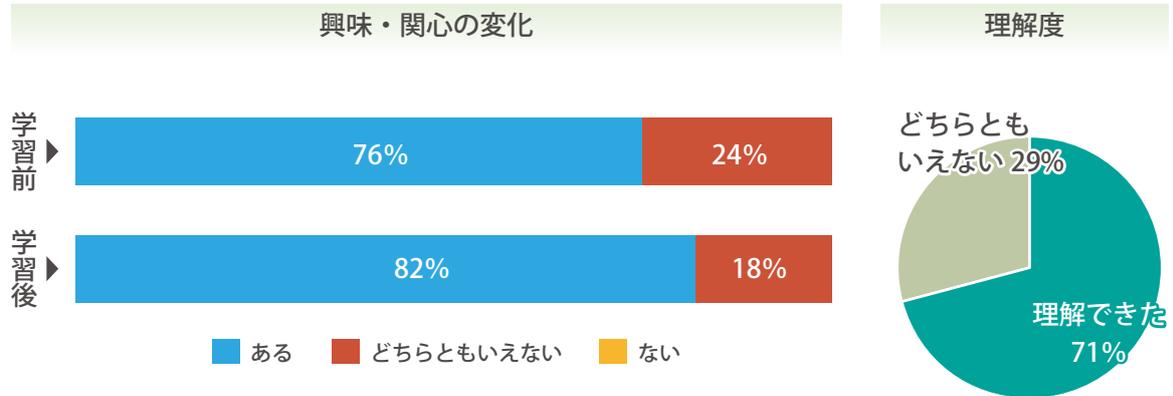


### [ 長崎県における原爆投下 ]

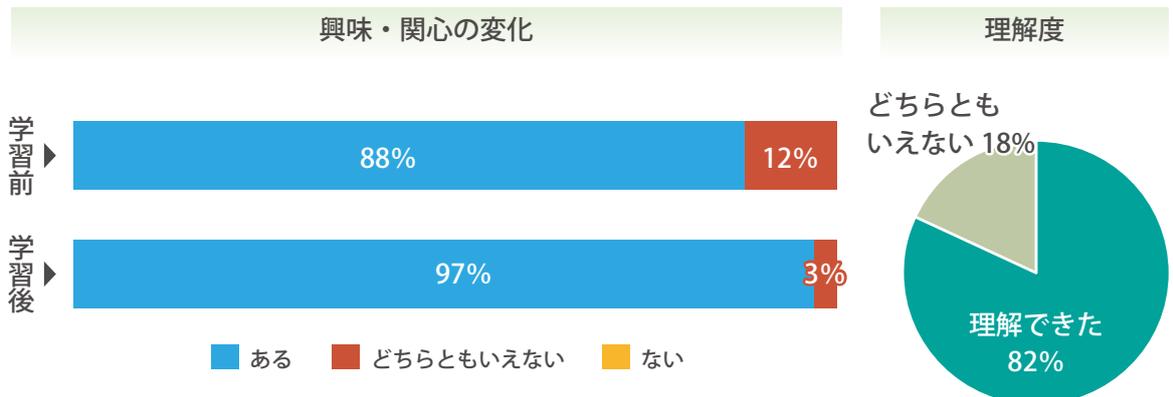


## 参加者の興味・関心の変化と理解度

### [ 濟州島 4.3 事件 ]



### [ カンボジア大虐殺（ポル・ポト政権下による大虐殺） ]



### [ 沖縄戦 ]



### 本事業でどのようなことについて学びましたか。(自由記述)

このプロジェクトは、戦争の苦い経験について教えてくれました。戦争は国や民族にとって大きな災難であり、多くの悲しみをもたらすことを知りました。もう一つは、国家の発展のためには、平和がとても重要であることを実感しました。もし平和がなければ、人々は知識を持たず無秩序な社会となり、社会的な不安も生じるからです。このプロジェクトを通して、私は未来への継承者としての役割を意識するようになりました。(カンボジア)

戦争や衝突の原因は多く、残酷で暴力的な衝突を経験した後、私たちはこれらの反省を通じて平和維持の重要性を認識しなければなりません。そうすれば、未来の悲劇の再発を避け、世界各国と手を携えて国家の平和を守ることができるでしょう。(台湾)

長崎で日々の生活を送る中で、戦争の爪痕から身の危険を感じる瞬間はほとんどないと私は感じています。どちらかといえば、事件事象などのニュースから身の危険を感じる瞬間の方が多いと思います。しかしながら過去の歴史事実によって今日、自身の身に危険が及ぶかもしれない地域の学生との交流が「平和」という言葉を用いる際の私自身の意識に変化をもたらしました。これから「平和」について考えるとき、今現在平和とは言いきれない地域があることを理解しながら議論していかなければならないと考えます。(長崎)

沖縄の地上戦をはじめ、各地域のその時代を生きた人々がどういう思いで、教科書には載らないどのようなことがあったのか、そして、今を生きる学生たちが何を考えているのかを学ぶことが出来ました。各地域、出来事は異なりますが、共通することを見出すこともでき、自分自身の住む地域、広島についても客観的な視点で考えることが出来ました。(広島)

まず、各地域で起こった出来事について大まかに知ることができた。特に、海外の出来事についてはほとんど知らなかったのも、とても良い機会になった。また、各地域での出来事を知った上で、過去の出来事と現代社会を比べたり、現代にもつながっている問題について考えることができたりし、また研修の時間外などに、他の参加者の平和への思いや、社会問題に対しての考えなども聞いて知見が広がった。(沖縄)

経験した痛みや悲劇を忘れないために私たちは一生懸命にならないといけないし、平和を発展させる契機としてその痛みを用いる必要があると思います。(韓国)

それぞれの戦争の歴史的教訓について学びました。平和を維持するためのより多くの方法を知ることができた。平和というテーマについて、自分の意見を述べる方法を学んだ。(ベトナム)

沖縄戦に関しては遺跡や資料館をめぐることで、ただ聞くだけでなく自分の目で見て学ぶことができました。もっとゆっくり見学したい、学びたいと感じたので、また必ず訪れたいと思います。そして外国の歴史に関しては、教科書ではサラッと流されがちなものや一度も聞いたことがなかったものもあったため、とても学びになりました。興味関心が湧き、これからもっとしりたいと感じました。また、各国各地域の歴史を同世代の学生がシェアすることで共通点や、相違点も学ぶことができました。これからは他人事として考えるのではなく、学ぶ姿勢を大切にしていきたいと感じました。(長崎)

### 本事業を通して、あなたは平和のためにどんなことができると思いますか。(自由記述)

平和がいつまでも続くことを願っています。平和は、私たち若い世代全員から始まります。それぞれの地域の歴史の痛みを理解し、次の世代を愛し、平和を大切に、戦争を回避する教育をしなければなりません。(カンボジア)

この度学んだことを身の周りの人と共有することです。(台湾)

平和学習のあり方について、継承するだけでなく、今と昔との関連性を見つける部分が大切だと思った。自分にできる事としては、今の当たり前前の生活に感謝し、みんなと仲良くすること、そして社会問題に興味をもつことだと思う。(沖縄)

史実を学び、自分の思いを共有すること。自分の言葉で語ること。周りを巻き込んでアクションを起こすこと。(長崎)

さまざまな地域の仲間と繋がることができ、それによってみんなで協力して大きなアクションを起こすことができるようになるなと思いました。海外の方とも繋がれたので、グローバルな活動ができればいいと感じます。平和活動、戦争、と聞くとやはり重いイメージがあって、それによって平和活動に興味関心のある若者が少ないのかなと感じるので、コロナ禍が少し収まったら、若者だけで語るカフェなんかを開いて、雑談する中で平和やSDGsから派生して何か意見交換したり、繋がりを作れる場を作りたいなと思います。私自身、高校生の時から、趣味程度にですが、自分のブランドを作りたいと考えていて、その中で、平和に関するメッセージを含んだり何かできればいいと考えているところです。(長崎)

平和を普及する活動に、直接的・間接的に参加しなければならない。(韓国)

他の国や民族の文化を勉強します。(ベトナム)

### 本事業への全体的な感想、フィードバック (自由記述)

このプロジェクトは、様々な国から多くの若者が参加し互いに学び合うことができる、とても素晴らしい事業です。(カンボジア)

とてもよかったです。このプロジェクトを実施してくれてありがとうございました。(カンボジア)

平和の話題は重要で、今の戦争がない時代は当たり前存在に考えられます。普段交流できないような他国の考え方を学べた事は貴重な経験で、今後も是非この学んだ事を共有したいと思います。(台湾)

1週間とても充実した研修でした。去年と違い、国内参加者はフィールドワークもあり、沖縄に住む私たちでも知らない沖縄を学ぶこともたくさんあり、参加してよかったなと思いました。それから宿泊だったので、プログラムが終わった後に長崎や広島の子供、自分たち沖縄のメンバーともっと深く話込めたこともとても良い時間でした。ひとつだけ、県外参加者がちょっと沖縄を見る自由時間もあつたらなと思いました。(沖縄)

プログラムはよくまとまっている。しかし、事業実施者は応募方法に関連する詳細をより詳細に提供してほしい。ありがとうございました。(カンボジア)

「希望」

①ドイツやフランス、アメリカの学生も交え意見交換をしてみたい。継承と向き合う国や地域と、戦争をし続けるアメリカとの差が見えてくるのではないかな。

②第一次世界大戦の体験者は0を迎えている今、ドイツやフランスは継承に成功しているようにも感じる。したがって、この2国から継承手段や取り組みの現状と課題を共有してもらうことで、今回集まった国や地域が戦後100年を迎えるにあたってのヒントが見えてくるのではないかな。是非企画して欲しいと思います。(沖縄)

シンポジウムに参加された市民の方からの意見にもあつた、学生が主体となってアクションを起こす日を事業日程の中に1日追加しても良いのではないかと考えられます。例えば、ホテル内の会場や公園などで構わないので昼食を挟みながら参加者各人の戦争に対する価値観や意見をゆっくり語り合う日があれば良いと考えます。このような交流が、シンポジウムなどの議論をさらに深めていくのではないかと考えております。(長崎)

未だコロナ禍の続く中、対面での開催を実現いただき本当にありがとうございました。現場での学びという貴重な場をいただき感謝に堪えません。(広島)

とても濃い1週間をありがとうございました。広島においては築くことのできなかった交友関係が構築され、気付きことのできなかった自分自身のなかの勝手な常識が覆される場面がたくさんあり、平和な世界の実現のため何が出来るのか、より考えたくになりました。

昨年度も参加させていただきましたが、今年度は国内チームだけでも対面ということで、他地域の方が平和のために様々な活動をされておりレベルの高さを実感し、私たちの可能性の大きさを知りました。対面ということで気になったらすぐ質問できるという環境もよかったです。沖縄でも伝えさせていただいたのですが、来年度から、お題の無い平和に関するチームごとの質疑応答の時間があると幸いです。各チームの発表やディスカッション時には十分な質疑応答の時間をいただき、学びを深めることが出来たのですが、各チームそれぞれ課題があって、他地域ではどうしているのか質問したかったりと、お題の無い場面での話し合いがあるとより今後の平和活動に活かされるものがあつたのではないかと感じました。国内チームに限らず海外チームともSNSでつながり、実は昨年度の韓国チームの参加者の方とも、今年度の参加者の方とも、現在でも連絡を取っており、長崎チームの一人とは、春休みに広島で会う予定になるほど、仲良くなる事が出来ました。この、地域や国を越えた交友関係を大切に、平和のために何が出来るのか考え、実行してゆきたいと考えております。

本当に1週間の事業をはじめ、事前の準備など多くのご支援をいただきありがとうございました。ほかでは経験のできない学びと感情的な変化がありました。スタッフの方々とも、またいつかお会いできたらと思っております。2回の事業に参加させていただき、ありがとうございました。(広島)

コロナ禍で様々な規制があるなか、事業を実施して下さった皆様のおかげで、とても貴重で素晴らしい経験をさせていただきました。対面であれば、研修が終わった後にラフに話すことのできる交流会があつたのかと思いますが、オンラインでもそのような時間が少しあればいいなと感じました。また、研修日程の中で学習を重ねて、最終的には発表内容が変わってしまい、迷惑をかけてしまったと思います。考えを深めた上で発表の内容が変わったことは良いと個人的には思いますが、スムーズに行く方法がないのかと、悩んでいました。解決案はありませんが、運営の皆様にご迷惑をおかけしたと感じております。(沖縄)

いろいろな知識を習得したり、各地域の学生たちと交流したりできるから、いいなと思いました。これから、何年も実施し続けて欲しい。(ベトナム)

いいプロジェクトでした。ありがとうございました。(韓国)

このプロジェクトはとてもクールだと感じています。このプロジェクトを通して、この国の歴史を振り返り、自分自身を見つめ直す機会を得ました。この平和を維持するために、もっと勉強しなければならないと感じています。私はこの世界の一部なので、私が望む戦争のない世界を作るために貢献しなければなりません。この企画を開催していただき、本当にありがとうございました。(ベトナム)



## 2 総括評価

参加者による評価は、いずれの設問も高い値を示しており事業全体としては所期の目的を達成したと考えている。以下では、1日目の開会式と特別講義および歓迎セレモニー、2日目から5日目までに行われた各地域による発表、日本人参加者を対象に行われた沖縄県内の視察、5日目後半で実施されたディスカッション、6日目の成果報告会についてそれぞれ評価を述べたい。

開会式では、昨年同様に参加者間で質問を投げ合うアイスブレイクが実施されており、交流を促進する工夫がされていた。特別講義「沖縄戦と戦後復興」では、沖縄戦のみならず、琉球王朝時代に遡る東アジア・東南アジア地域との交易、ベトナム戦争における米軍の爆撃機が沖縄を拠点としていたなど、参加地域と沖縄のつながりにも触れられており、導入としては素晴らしい講義であった。1日目最後に行われた歓迎セレモニーでは、沖縄の参加者が空手の演武と唄を披露し、沖縄発の事業として華を飾ってくれていた。

2日目から5日目（3日目を除く）にかけて行われた各地域の発表は、発表テーマの歴史的背景に焦点を絞ったもの、継承の在り方に重きを置いたもの、映像や動画を使ったものなど、各地域の創意工夫が見られた。済州島4.3事件と台湾の2.28事件は事件の背景が複雑なためか若干理解度が下がっているが、いずれも70%は超えており特に問題とすべき点はないだろう。運営面では、通訳が配置される韓国やカンボジアのために発表原稿を事前に配布するなどの工夫も行われており、スムーズな実施・運営については評価できる。

5日目後半で実施されたディスカッションは、2つのセッションに分かれており、それぞれの国や地域が考える平和な社会像と継承の在り方についてテーマが設定されていた。第1セッションでは歴史、文化、社会状況の異なる各地域の平和観が共有されており、非常によかった。他方で、第2セッションは改善の余地があった。受託団体は第1セッションで出てきた意見をもとに、第2セッションのお題に変化を加えて7地域に共通する「平和への思い」を吸い上げようと試みていたが、時間不足で終わった印象である。第2セッション終了後に何名かの参加者からは、「もっと継承の在り方について意見交換をしたかった」という声もあり、参加者は若干の消化不良感を持っていたようだ。従って改善の余地はあるが、事業全体の評価を下げるほどではないとみており、今後の改善に期待したい。

今年度事業では、広島、長崎、沖縄の参加者は対面参加となったことから、彼らを対象に沖縄県平和祈念資料館やひめゆり平和祈念資料館、首里第32軍壕跡、沖縄市コザのゲート通りなどをめぐる県内視察が行われた。海外と接続する共同学習以外の時間を有効に活用したこの取り組みは学習効果を高めるために効果的であったといえる。昨今の社会状況を鑑みると困難な状況はしばらく続くと考えられるが、できるだけ早く海外参加者が来沖いただける日が来るのを心待ちにしている。

6日目の成果報告会は、一般の方々を来場者に迎え、参加者がアクションプランの発表し、その後パネルディスカッションを行った。まず、アクションプランの中身はそれぞれに個性的で若者らしい発想が組み込まれており、次世代の平和を担っていく彼らの姿を頼もしく感じた。工夫を加えるとすれば、時間的な制限の中で手法を吟味する必要がある。例えば、各地域発表テーマについて来場者向けに説明する時間を設けるなど、来場者が理解をより深める仕掛けを取り入れるなどである。例えば、広島と長崎の原爆投下と沖縄戦の概要について説明する機会を設けず、来場者が触れることの少ない海外で起きた戦争や事件のみを説明する時間を設けるなど、地域によって持ち時間に差を設けてはどうか。

パネルディスカッションでは、沖縄キリスト教伝道学院大学の新垣誠教授にモデレーターを依頼した。ハイブリッド開催や通訳によって時差が生じ難しい環境ではあったが、参加者からまんべんなく意見を引き出しており、新垣教授の進行技術は高く評価をし、感謝したい。また、同報告会はコロナ禍という状況を勘案しYoutubeを通じたライブ配信を行ったが、25名という少なくない人数がこれを視聴しており社会状況に配慮した開催方式

---

であったと認識している。

以上を勘案すると、事業の一部にはさらなる発展の余地を残しつつも、総じて素晴らしい事業であったとの評価に至った。

事業が滞りなく終了できたのは、9月の事前学習から数か月にわたり各地域の参加者を導いてくれた指導者の方々のご尽力によるものであり、この場を借りてお礼を申し上げたい。

最後に、事業全体を通じて参加者の皆さんの積極的な姿勢と高い知性に頼もしさを感じた。太平洋戦争終結から77年経つ今日でも、アジアだけでなく世界を取り巻く環境は平和とは言い難い。また、感染症という新たな脅威も日々の生活に影響を与えている。このような社会状況にあっても、彼らは数年ののちに大人として自立し、社会を作る形成者となる。その心の片隅に本事業でアジアの友と語り合った「平和への思い」が息づき、日々ささやかながらでも戦争を許さない努力を継続してくれることを願っている。

The background features a light pink color palette with large, overlapping circular shapes. In the top-left and bottom-right corners, there are decorative 2x2 checkerboard patterns. On the left and right sides, there are delicate line-art illustrations of flowers and leaves. The central text is prominently displayed within a large, light pink circle.

**第4部**  
**資料編**

# 1 研修の様子





カンボジアチーム



ベトナムチーム



韓国チーム



台湾チーム





# 2 報道記事

イムス 2021年(令和3年) 11月29日 月曜日 1版 社 会 22

## 学生が平和継ぐアイデア 豊見城でアジア研修報告会



成果報告会で発表する沖縄の学生たち＝27日、豊見城市・沖縄空手会館

沖縄を含むアジア5カ国7地域の大学生らによる共同学習研修「平和への思い発信・交流・継承事業」(主催・県)の成果報告会が27日、豊見城市の沖縄空手会館であった。各地の戦争被害などの歴史を学んだ34人が、平和の尊さを次世代につなぐアイデアを提案。海外の参加者はオンラインで発言した。

県内からは5人の学生が成果発表。大学生が高校生に平和学習の意義をすることを提言した沖縄国際大学

3年の仲本和さん(21)は「大学生が語る側で立ち、同世代に語ることで沖縄戦を近くに感じてもらいたい」と趣旨を説明した。

原爆投下について取り上げた広島からの参加者は、戦争で使う化学兵器が広島で製造されていたことを踏まえ、戦争の被害者と加害者の両面があることを説明。長崎のメンバースも原爆の被害について触れながら、メンバースの1人が被爆50年の節目に長崎で作られた記念歌「千羽鶴」を歌った。

沖縄タイムス社 提供

た。「ベトナム戦争」について紹介したベトナムの学生らは、歌や漫画、絵で平和や戦争の悲惨さを若い人に伝えられると提言。「カンボジア大虐殺」を取り上げたカンボジアの学生は、「他国の学生と協力して平和を築く活動をしたい」と決意

を新たにした。韓国(済州島4・3事件)、台湾(2・28事件)からの報告もあった。

第2部では、沖縄キリスト教学院大学の新垣誠教授を招いて、各地域の平和継承への課題について話し合うパネルディスカッションも行われた。



(25) 2021年(令和3年)11月30日 水曜日 1版 社 会 22

### 「平和への思い」 研修成果を報告

3カ国1地域の学生ら  
県平和記念資料館などが主催する「平和への思い発信・交流・継承事業」の成果報告会が27日、豊見城市の沖縄空手会館で開かれた。写真、沖縄や広島、長崎のほか、台湾など3カ国1地域の学生らが参加し、それぞれの地域の戦争や事件、虐殺について紹介し、平和を継承するための行動目標となるアクションプランを発表した。学生らは「平和」への思いを次世代につなげていくことを再認識した。海外からの学生はオンラインで参加した。

アクションプランには「平和に関する歌を制作する」「ラップを作り、TIKTOKで公開する」「若者対象のシンポジウムを開催する」などさまざまな案が出た。一方で、参加者の中には「沖縄戦を自分事として捉えることができるように(証言を伝える)語り手の育成も同時進行で必要だと危機感をあらわにした。

研修を通して学生らは「それぞれの地域の出来事を知ることができた」「平和への知識や理解が深まった」と話した。

研修は若い世代への戦争体験などの継承、アジア諸国との相互理解やネットワーク形成を目的に2019年から開催している。学生らは21日からの研修で県平和記念資料館などを訪れる県内視察や海外参加者とのオンライン学習を実施した。報告会のパネルディスカッションでは沖縄キリスト教学院大学の新垣誠教授がコーディネーターを務め、「各地域における継承と今後の展望」をテーマに話し合った。

琉球新報社 提供

---

---

# 令和3年度「平和への思い（ウムイ）」発信・交流・継承事業 報告書

沖縄県

< 主 管 > 沖縄県平和祈念資料館

< 受託者 > 特定非営利活動法人 沖縄平和協力センター（OPAC）

---

---

